

I S トランスフォー マービースト

鳴神 ソラ

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

世界には数万、数億、それ以上の物語が存在している。

だが、世界によっては神々の悪戯によって悪い影響を齎された世界もある。

1つの世界も神の悪戯により歴史が狂った。

そんな世界に舞い降りたのは機械の体に魂と心を持つ超生命体トランスフォーマーであった。

この物語はISに乗る少女達とトランスフォーマー達の話

※この作品は色々とカオスでもあります。そう言うのが苦手な方はブラウザバック

をしてください。読んでいて気分を害してもこの小説での設定と言う事で感想で悪口を書かないでください。

2018年2月12日追記、少し考えてR-15のタグを追加しました。

文字制限で入れられなかったタグ

一夏ハーレムならぬ箒ハーレム カーロボット ビーストウォーズII ビースト
ウォーズネオ キャラの性格改変 マスターフォース（他者様のトランステクターの設
定） 台本形式 プリキュア

目次

本編

プロローグ：歴史の改変、戦う者達

1

第1話：変わりし者達

7

第2話：神と速度に助けられた少女

22

第3話：舞う紅と白

33

第4話：代表決定戦と乱入と再会

41

第5話：再会の兄弟と幼馴染

57

第6話：思い出と記憶を失いし少女

68

第7話：吠える獅子

76

第8話：再会する獅子と大帝

95

第9話：誕生！百獣の守護者 マグナ

コンボイ！

104

獅子麗奈&マグナコンボイの詳細

124

第10話：おいでませ五反田食堂と謎

の少女

129

第11話：異世界より来たりし、記憶喪

失の少女

143

第12話：強襲！キュアメイガスと覚

醒！その名はキュアスパイ！

153

第13話：防衛組織グランガード

本編

プロローグ：歴史の改変、戦う者達

??? 「がああああああああああ!!」

とある廃屋、そこである事がされていた。

女性「これは凄いわね」

女性2 「ええ、これが成功すればね」

悲鳴を聞きながら2人の女性は笑う。

今行われているのはある人物を使った実験なのだ。

それが成功すれば女性達にとって利益のある事であった。

ドカーン!!

女性「何事!？」

いきなりの爆発音に女性達は瞬時に何かを纏うと爆発音の方へ行く。

そして向かった先で驚く。

女性「ろ、ロボットだと!？」

そこにいたのは黒色のボディに青と白の顔を持ったロボットであった。

ロボット「お前達か、此処にある人物を連れ込んだのは」

女性2「喋ったですって!？」

女性「何者かは知らないけど邪魔はさせないわ!」

喋ったロボットに女性2人は驚いたがすぐさま銃や剣を取り出すとロボットも柳葉刀状の双剣を構える。

ロボット「でやつ!!」

斬りかかるロボットに女性2人はかわして散開すると1人は銃で攻撃してもう1人が斬りかかる。

だがロボットは巧に双剣で弾丸を防ぎ、斬撃も受け止めると斬りかかった女性のドテツパラに膝蹴りを叩き込む。

女性2「ガハッ!？」

続けざまに首に剣の柄尻を叩き込んで気絶させた後にもう1人を見る。

女性「くっつ!」

形勢不利と感じたのか逃げようとした女性だったが後ろからの衝撃に吹っ飛んで壁に激突して気絶する。

ロボット「この先だな」

呟いて右腕のキャノンを仕舞った後に女性2人を拘束してある物を取り上げた後に

ロボットは奥へ進む。

ロボット「ふん！」

扉を吹き飛ばしてロボットは入り込むと1人の白衣を着た女性が驚いた表情でいた。

女性3「トランスフォーマーだど!!」

ロボット「やはり転生者か：誘拐した人を解放するんだ！」

口から出た言葉にロボットはそう言う。

女性3「誰がするか！この計画を完成させて私は男どもを駆逐する！」

そう言う周囲に武器が現れてロボットに向かって行く。

ロボット「甘い！」

それに対しロボットは横に飛ぶと両腕のキャノンを展開して攻撃する。

女性3「甘いのはあんたよ！」

攻撃に対し女性はどこからともなく盾を取り出して防ぐ。

ただ、ロボットにはそれは囿の様で素早く女性に接近し：

ロボット「猩猩剛連脚（しようじょうごうれんきやく）!!!」

両足で蹴りを連続して叩き込む。

その威力に女性の持つていた盾にひび割れが起こり：

ロボット「うおおおおお!!!」

バカーーン!!!

勢いのまま盾を壊して女性を蹴り飛ばす。

蹴り飛ばされた女性はぶつかつた後にうめき声をあげて気絶する。

気絶した女性もすぐさま何もできない様に拘束する。

ロボットはその後に女性が見ていた方を見て：目を見開く。

そこでは1人の女性が手術台に拘束されていた。

しかも痛々しい事をされていたのが分かつた。

その女性の姿にロボットは顔を歪めた後：

ロボット「こちら　　！誘拐された人を発見、直ちに現地の信頼できる部隊に連絡

して欲しい」

そうどこかに連絡した後には女性を手術台から解放してお姫様抱っこする。

ロボット「……これが世界の歪みなのか」

そう悲しげ呟く。

外に出ると1人の女性に来る。

女性4「よう　　ちゃん。無事：とは言えないが助け出せたみたいだな」

ロボット「お前か：ああ、彼女を頼む」

フランクに話しかける女性へロボットは抱っこしていた女性を手渡す。

女性4 「確かに……しっかし因果だね、あれ程嫌っていたのに、長くいると愛着湧いていたが……こども愚かだとなんとも言えないだろうな」

ロボット 「そうだな……特に彼らは長く接してきた分、なんとも言えないだろうな」
ふうと息を吐く女性にロボットは悲しい顔でそう洩らす。

女性4 「ま、とにかく俺様の部隊に任せて置け、お前さんの事は黙っておくから」

ロボット 「すまないな……その女性を頼んだぞ」

そう言つてロボットは飛び上つてどこかに去るのを見届けた後に女性は腕にいる女性を見る。

女性4 「あんたも可哀想だよな……色々と友達のが元に歪みになってるんだから……その人物が今のあんたを見たらどう思うんだろうね白騎士、織斑千冬」

そう静かに言つた後に女性は向かつて来る集団へと歩いて行く。

……本来ならば少年が誘拐される筈であつた事件。

だがある歪みが起こつた結果、歴史は歪み、一部の人物の成り立ちも変わった。

尤もな例が女性、織斑千冬の誘拐とある実験。

そして……今いる世界の中心だつた少年の改変

そんな歪みを持ちながら世界の時は進む。

この物語は宇宙への進出への筈だった翼に乗る少女達と超生命体が交差する話である。

第1話：変わりし者達

とある家、そこで1人の少女が気持ち良く寝ていた。

そこに1人の少女が来て寝ている少女を見てはあと溜息を吐いた後に布団に手をかけ…

少女2「起きろ！一夏!!」

少女「わひゃ!?!」

バツと布団を剥ぎ取って叫ぶ少女に寝ていた少女、一夏は驚いてベッドから落ちる。

一夏「あたた…箒、おはよう」

頭を搔きながら一夏は自分を起こした少女、箒に言う。

箒「一夏、今日はIS学園なのだぞ。さっさと着替えて降りて来い。來奈(らいな)さんが待つてるぞ」

一夏「分かったよ」

そう言う箒に一夏は頷いた後にパジャマを脱ぐと箒は呆れる。

箒「一夏、なぜ下は履いてない…」

一夏「い、いやあ…やっぱ慣れなくて…」

あははと苦笑する一夏に箒はさっさと着るとテキパキ下着を取り出して渡した後に下に降りる。

すると下で一人の女性が朝食である目玉焼きを乗せた食パンを置いた皿を並べており、箒に気付いて笑顔で聞く。

女性「やあ箒、・e：一夏は起きたかな？」

箒「ええ、起きましたよ來奈さん：千冬さんと姉さんは？」

呆れた顔で言った後に自分達の姉達の事を聞く箒に女性、織斑來奈は一夏に苦笑してた所で来た質問に答える。

來奈「それなら真那ちゃんを迎えに来てたからもう行ったよ。ナンパ君と一緒にね」

箒「あいつか：毎日飽きない車ですよ」

出て来た事に箒は今頃自分の愛車をナンパされてる話しに出た真那に同情する。ある意味色を変えれば良いのにと思っていると制服を着た一夏が来る。

一夏「お、おはよう來奈さん」

來奈「おはよう一夏、ワクワクするのは良いけど寝坊はしないようになんだな」

箒「ほら一夏、髪がボサボサだぞ。食べる前に解いてやるからこっち来い」

挨拶する一夏に來奈は茶化す様に言った後に目ざとく見た箒が連れて行くのを見ながら微笑む。

一夏&箒「行つてきますす！」

來奈「行つてらっしゃいなんだな！」

慌ただしく出て行く2人へ手を振った後に來奈はふうと息を付いた後に自分の携帯に着信が来てるのに気付いて出る。

來奈「はい」

???『やあ來奈、元気かい？』

來奈「おお、久しぶりなんだな！」

出て来た人物に來奈は嬉しそうに言う。

???『そっちも元気そうで良かったよ』

來奈「僕ことまた会えた時にはビックリしたから嬉しい限りだよ。僕は変わってるけどそっちは変わってなくて良かったよ」

戻ったと言った方が良いかなと笑う來奈においおいと向こう側は苦笑する。

???『それで、千冬は今の所大丈夫かな？』

來奈「……今の所問題はないんだな。日常にも支障はないけどやはり従姉として心配なんだな」

本題に入ったと気づいて真剣な顔で言う來奈に相手側がそうか…と呟くのが聞こえる。

??? 『私も出来る限り見守るが私生活ではそちらしか千冬を見守れないからな』

來奈「うん、そっちも頑張つてなんだな」

??? 『そちらもな：“ライノックス”』

そう言う通話が切れる。

最後に自分の前世の名を言った彼に來奈はふふつと笑つた後に家事を再開する。

一方、目的の場所に着いて教室に入った一夏と箒はしばらくして入つて来た姉達の後輩で副担任な山田真那が入つて来て自己紹介する。

一夏「織斑一夏です。空が大好きでISを使つて空を飛びたい為に來ました。よろしくお願いします」

そう言つて頭を下げると扉が開く音がして誰もが見る。

すると黒いスーツとタイトスカートに身を包んだ女性が来る。

ただ、そのお腹がスーツにミスマツチであつた。

まるで赤ちゃんがいる様に大きく膨らんでおり臨月ではないかと考える程であつた。

女性「すまない山田先生、自己紹介を任せてしまつてな」

真那「い、いえ…」

現れた女性に誰もがひそひそする中で女性は名乗る。

女性↓千冬「諸君、私が君達の担任の織斑千冬だ。私は君たち新人を1年で使い物になる操縦者にするのが仕事だ。よろしく頼む」

名前が出た事でひそひそがざわめきへと変わる。

生徒「織斑千冬ってあの」

生徒2「白騎士事件で白騎士に乗っていたって言う」

生徒3「あのお腹は誰の子？」

それを聞いて一夏と箒はなんとも言えない顔をする。

白騎士事件、別名日本ミサイル着弾未遂事件。

ある意味良くも悪くもISが世界に広がった原因でもある事件である。

突如世界各国のミサイルが日本へ向けて放たれた。

日本も撃ち落とそうとしたが突如のハッキングで日本全国の兵器及び武装が使用不可となり絶体絶命の時に現れたのが最初のIS、白騎士を纏った千冬である。

当時若かった千冬や謎の集団によりミサイルは全て落とされた。

これは捏造ではなく真実でもある。

その後にはISを作り上げた人物、箒の姉である篠ノ之束が発表、各国にISコアが配布された。

なお、その際に千冬は自分が白騎士だとも明かして装着して見せているのだ。

話しに出る I S については正式名称は『インフィニット・ストラトス』で正式名称より I S が多く使われている。

10 年前に束によつて発表された宇宙空間での活動を想定し、開発されたマルチフォーム・スーツで開発当初は注目されなかったが、前述の事件により宇宙進出よりも飛行パワード・スーツとして軍事転用が始まり、各国の抑止力の要が I S に移つていった。

だが I S には問題があり、それは女性しか乗れないと言う事だった。

しかし、I S が広がった 1 年後、衝撃の出来事が起こった。

とある男性科学者が適応すれば男性でも使える I S コアを開発したのだ。

それにより我はと男性が挑んでこれで男女平等になるかと思われた。

現実はそうではなく、女尊男卑へとなった。

その理由は適応した男性達に問題があった。

まずは性格が悪い、しかもまるで中心だとほざいたり、選ばれたんだからやつても良いと言わんばかりの暴君をしているのだ。

それにより良心のある男性の居心地悪さが強くなり、女性達もその暴君さに逆に暴君な感じになつてゐるのに男性が悪いと言うのが強かつた事もあつて女尊男卑になつたのだ。

勿論全ての男性が悪いとは考えてない所もあるが女性が上な考えが強い。

なお、その男性科学者は行方を晦ましていて指名手配中でもある。

IS学園でもそんなに多くはないが男性生徒がいるが評判が悪かったりする。

するとチャイムが鳴る。

千冬「む、SHRは終わりの様だな。諸君らには半月でISの基礎知識を覚えてもらう。その後は実践だが基本操作は半月で身体に染み込ませる事になる。それでは授業を始めるぞ」

そう言つて千冬の言葉と共に生徒達も授業の準備する。

☆

一夏「うーん、やつぱり長く座っていると意外と疲れるもんだね」

箒「一夏の場合は動いてる方が好きだからな」

腕を伸ばして背伸びする一夏に箒は苦笑して言い、ホントだよと一夏も笑い返す。

???「ちよつと、よろしくて?」

そんな2人に声をかけたのは鮮やかな金髪に白人特有のブルーの瞳で僅かにロールが掛かった髪はいかにもお嬢様な少女であつた。

一夏「えつと：確かセシリア・オルコットさんだっけ？」

少女↓セシリア「はい、イギリス代表候補生のセシリア・オルコットと言います。貴女方はもしや織斑千冬先生と篠ノ之東博士の妹さん達ですか？」

確認する一夏にセシリアは名乗った後にそう聞く。

一夏「そうだよ。僕が千冬姉の妹」

箒「それで私が束姉さんの妹だ」

セシリア「やはりそうでしたか：私、束博士には私の専用機の整備もされて貰っているので世話になってるんですの。まあ、これは学園全てのISに言えますが」

頷く2人にセシリアは嬉しそうに、最後のには苦笑して言う。

すると何やら廊下が騒がしい事に気づき、3人が顔を向けると：

???「箒ちゃーイーイーん!!!」

扉を開けて現れたメカで出来たウサ耳を付けて不思議の国のアリスが着ている口リータを着た女性が箒に向かって飛びかかる。

ガシッ!

だが、それよりも前に何時の間にかいた千冬に頭にアイアンクローサーされて宙づりにされる。

箒「ね、姉さん；」

そう、今千冬にアイアンクローをされてるのがISを作った生みの親で箒の姉の篠ノ之束である。

彼女はIS学園でISの整備長&製作長を務めている。

千冬「束：あれ程言った筈だが？箒に会うのは放課後にしとけとな？」

束「箒ちゃん分をまた取りたかった。後悔してない（キリッ）」

くると自分の方へ顔を向けて言う千冬に束は真顔で言う。

千冬「分かった。遺言はそれだけだな」

束「あ、待つてちーちゃん、今のちーちゃんのを受けたら落ち（ちーん）」

目を鋭くさせて力を入れる千冬に束は言い切る前に意識を奪われた。

ある意味、妊婦に見えるスーツ女性にウサ耳を付けてロリータを着た女性がアイアンクローされる絵面は注目を集めていた。

箒「姉さん…」

セシリア「た、束博士がシスコンなのは知っておりましたがこれ程とは；」

身内の恥ずかしさに煙を出して赤い顔を抑える箒の隣でセシリアは冷や汗を掻いて一夏はあははと苦笑している。

するとチャイムが鳴る。

千冬「む、鳴ったか…さっさと授業の準備をしろ。他クラスも早く自分の教室へ戻れ」

それに千冬は教室の隅っこに束を放置した後に気を取り直す様に生徒達へ向く。その際真那がどことなく顔を赤らめていたが気にしない。

千冬「ん、そう言えば再来週行われるクラス対抗戦の代表を決めないといけないな」
授業を始めようとして思い出した様に呟いた後に千冬は代表について説明する。

千冬「クラス代表はそのままの意味だ、対抗戦だけではなく、生徒会の開く会議や、委員会に出席してもらう…まあ、先ほども言った通り文字通りのクラスの代表だな…ちなみにクラス対抗戦は、入学時点の各クラスの実力を測るためのものだ、勿論今の時点で対した差は無いが、競争は向上心を生む。一度決まると1年間変更は無いからそのつもりで誰が良いかを推薦しろ」

束「ちなみに束さんは箒ちゃん（びちゅーん）」

締め括った直後に復活して言おうとした束を千冬はどこからともなく取り出したどこに入れていたのかと驚く程のドデカハンマーで鎮めると改めて生徒達を見る。

生徒「はい！束博士とは関係ないけど箒さんが良いです！」

箒「え!？」

セシリア「あら？」

一夏「おぉ〜」

まさかの自分指名に箒は驚き、セシリアも意外と言う表情で呟いて一夏は拍手する。

そんな2人の妹である一夏と箒を狙って来る者達がいる。

もし2人を捕まえて東と千冬を利用しようとする者達がいるのも否定できないので
そうなったのを千冬は話す。

セシリア「ふむ：織斑先生、提案があるのですが」

千冬「言つて見ろ」

驚いていたセシリアだったが何か考えた後に口を開き、千冬が了承するとセシリアは
礼を述べて言う。

セシリア「ありがとうございます：このクラスには専用機持ちが3人となるのだから
その3人でバトルをして勝利した者をクラス代表に決めると言うのはどうでしょうか
？」

千冬「成程：良い案だな：2人はどうなんだ？」

提案を聞いて千冬は納得した後に一夏と箒に話しかける。

一夏「うーん、色々と不安だけどやろうかな」

箒「むう、挑まれたからにはそれを受けます」

2人共それぞれ了承して返すと千冬は分かったと頷いてから生徒一同を見る。

千冬「皆もそれで良いか？ ないのなら授業を始めるぞ」

確認を取ってから反対がないのをそう言つて授業を進める。

☆

「…とこんな感じに授業をしているんだね」

「うっへえ…見てるだけで頭が痛くなりそうだな」

IS学園の森の中、そこで2つの影が話していた。

それは人の子供位の大きさがある大きいウサギとペンギンであった。

その手にはIS学園の教科書があつて一通り見ていたペンギンは嫌そうな顔で言う。

「3」「2人して何見てるんだよ」

そんな2匹の所にまた大きいコブラが来る。

ウサギ「あ、コラーダ。実はIS学園の教科書があつたから読んでたんだ」

コブラ「んで？読んでみた感想はどうなんだブレイク」

ペンギン「頭痛くなりそうな程度倒だつて思った。スタンピーは良く読めるよな」

気づいたウサギの言葉にペンギンへ問うコブラは返つて来た事にやっぱなと笑う。

「どうやらウサギはスタンピー、コブラはコラーダ、ペンギンはブレイクと言う名前ら

しい。

ブレイク「うっせえな…それにしても此処ホントに広いよな」

コラーダ「ああ、だからこそ俺達が派遣された訳だな」

スタンピー「けどホントに当たりだつたね。忍び込んで来る人がいたし」

不機嫌な顔で言った後に呆れた顔になるブレイクへコラーダは同意してそう言い、スタンピーも思い出して言う。

彼らがいる理由は護衛である。

無論、ちゃんと許可を貰って森の中にいるのだ。

ブレイク「しつかし…この世界はホントにひでえよな」

コラーダ「確かに男操縦者が悪いとはいえ、女が男を顎で使うとか…まったくその科学者も傷口を深くするような事をしやがってよ」

スタンピー「けれどそれ以上に転生者って人達は可哀想だと僕は思うな」

話を変えて言うブレイクにコラーダは呆れて言う「とスタンピーが悲しそうな顔をで言う。」

ブレイク「確かに神の自分の暇を潰す為に殺されて転生された事には俺も同情するぜ
スタンピー。だけだよ。その一部が転生して我が物顔で歩こうとしているのは許せない
ぜ」

コラーダ「俺も同意だ。それで事件が起こっているのは事実だ」

それにブレイクとコラーダは怒った顔で言う。

スタンピー「けれど総司令官が言っていた『アレ』もあるから…」

ブレイク「まあ…確かにそれには同情するけどよ…」

ただ、スタンピーの言った事にブレイクとコラーダはなんとも言えない顔になる。

ブレイク「止めやめ、これ以上辛気臭くなるのはごめんだ。俺は戻るぜ」

スタンピー「んじやあ僕も」

コラーダ「ハマすんなよ」

そう言つてブレイクの言葉と共に3匹は3方向に別れる。

彼らは一体…そして彼らの言うアレとは…

第2話：神と速度に助けられた少女

セシリア「さあ、此処が私達が住んであなた達が住む生徒寮ですわ」

一夏「ふえくデカいね」

箒「確かにそうだな」

案内された先でセシリアの言う建物を見て漏らす一夏に箒も同意する。

なぜ2人がいるかと言うと千冬に言われたからだ。

これから先自宅を突きとめて誘拐して来る可能性も考えて寮に住む様にと言ったのだ。

ちなみに荷物に関しては大丈夫との事らしい。

すると箒は気づく。

寮の前に寝転がる白いトラを：

箒「お、おいトラがいるぞ！」

セシリア「ああ、大丈夫ですわ。あの子は私が連れて来た子なんですわ」

一夏「連れて来た？」

驚いて言う箒にセシリアはくすりと笑って言い、一夏の言葉にええと頷く。

セシリア「小さい頃にお父様が連れて来た子で父の命の恩人だそうです。趣味の登山で雪山に言った際に遭難してもうダメかと思つた所にこの子に助けられたのです。それで人に慣れてる子を父は許可を貰つて家へ連れて来て私が此処に連れて来たんですわ」

ふふと近付いてトラを撫でながら言うセシリアに2人はへえくと納得する。するとトラは一夏に近づいてスリスリさせる。

セシリア「これは驚きですわ。その子が人に警戒せずに懐くなんて」

箒「そうなのか？一夏？」

それにセシリアはそう洩らし、箒も見た後に一夏を見て驚く。すると一夏は涙を流していた。

箒「ど、どうした一夏？」

セシリア「何か思い出があるんですか？」

一夏「ええ、なんでもないよ。それよりも中に入ろうよ」

それに慌てて聞く箒とセシリアに一夏は涙を拭つた後に2人を押す。

そんな一夏をトラはじーと見ていた。

☆

寮内に入った一夏と箒は出迎えた人物に驚く。

箒&一夏「來奈さん！」

來奈「やあ2人共今朝振り」

2人に笑顔で言う來奈にセシリアは驚く。

セシリア「來奈さん：まさか世界一のメカニックと言われる織斑來奈さんですよ!？」

來奈「あ、僕の事を知ってる人がいたんだね。ちよつと照れるんだな」

えへへと頭を掻く來奈にとんでもないとセシリアは言う。

セシリア「様々な機械を手がけて広げて篠ノ之束の師匠とも言えるお方を知らない人などおりませんわ！」

來奈「そんな大したことじゃないよ。それにISは束ちゃんが1人で作り上げた子達だからね」

感激とばかりに目を輝かせるセシリアに2人はへえくと漏らす。

セシリア「色々と今日は驚きの連発ですわ」

箒「そ、そうか…」

一夏「僕は小さい頃から世話して貰っていたからだろうね」

そう述べるセシリアに箒と一夏は苦笑する。

來奈「そうそう僕がいる理由は此処の管理人さんに選ばれたからなんだな。それと1

025室が一夏と箒の部屋だよ」

これが鍵ねと2人に渡した後にそれじゃあと管理人部屋へ向かう。

??? 「あ、おりむーともつぴーにせっしーだ」

別の方向からの声に3人は向くとキグルミを着た少女とセシリアを指名した女生徒に水色髪の少女が来る。

一夏 「えつと…確か布仏 本音さんだっけ？」

本音 「そうだよこつちにいる子達は友達なの」

蜜 「蜂花 蜜だぶくん。よろしく」

箒 「更識 箒。1年4組に所属してる。よろしくね」

一夏の問いに本音はふんにやりと笑った後に隣にいた2人を紹介する。

箒 「なあ、本音だったな。一夏は分かるがもつぴーとは私か？」

セシリア 「それでせっしーは私ですか？」

自分を指して聞く2人に本音はそうだよと笑って肯定する。

それに箒とセシリアは戸惑った表情をして一夏は苦笑していると箒の右手中指に填められたクリスタルの指輪に気付く。

一夏 「もしかしてそれって…」

箒 「…私の専用機、名前は神速」

箒「神の速さを名に持つISか。凄いな」

聞く一夏に箒は教え、箒は感嘆する。

箒「そうでもない…ほとんど名前だけでそこまで出せない」

本音「いや〜かんちゃんのも十分速いと思うよ〜」

セシリア「あの、なぜ神速なのですか？」

撫でながら言う箒に本音はそう言った後にセシリアが聞く。

箒「…私ね。小さい頃にお姉ちゃんと一緒に誘拐されかけた事があるんだ」

箒「ゆ、誘拐!」

出て来た言葉に3人が驚く中で箒は続ける。

☆

数年前

??? 「へっへっへっ! 上手く行ったぜ」

??? 2 「これで俺達は大金持ちだ」

??? 3 「まったくだな」

男二人に挟まれて幼き頃の箒とその姉、更識 刀奈は抱き合って震えていた。

遊びに出かけていた所を突如、車に押し込まれたのだ。

自分達がどうなるかと不安になっていた2人に助けは現れた。

ふと、運転していた男がミラーを見て気づく。

自分達が乗る車を追う様に青いスポーツカーが走っていた。

男「む？」

男2「どうした？」

運転する男の反応に気づいた仲間の1人が話しかける。

男「青いスポーツカーが追ってるんだよ」

男3「何？」

男2「様子を見るぞ。もしかしたら勘違いかもしれない」

その言葉に男達は注意深く見ていると青いスポーツカーは自分達を追っているのを
確信する。

男「やっぱり追って来てやがる！」

男2「ちい！スピードを上げろ！そいつは俺達がなんとかする！」

そう言うのと男2人は走ってるのにドアを開けるとISを纏う。

男2「へへ、ホントに科学者野郎には感謝だな。これのお蔭で安心して銃を隠し持てるからな」

男3「まったく。食らいやがれ！」

そして手に握られた銃でスポーツカーのタイヤを狙うが：

??? 「あらよつと！こらしよ!!」

男2人 「んな!？」

なんとスポーツカーはどう言う原理でやってるのか普通では無理な車体を傾けて銃を避ける。

男2 「なんだあの車!？」

男3 「マグレだろ！とにかくやれやれ!」

驚きながら男2人は射撃するがスポーツカーは器用に避けて行く。

それに簪と刀奈はスポーツカーに目を離せなかった。

キキーーーーー!!!

男2人 「どわっ!?!」

すると急なブレーキに射撃していた男2人はドアにぶつかってしまふ。

刀奈 「!簪ちゃん!」

それを好機と見て刀奈は簪の手を引いて車に出る。

そして振り返るとカートランスポーターが自分達を誘拐しようとしていた車の道を遮っていた。

男2 「逃がすか!」

すると頭を抑えた男が2人に向けて発砲する。

刀奈「!」

それに刀奈は簪を庇おうと抱きしめ…

キンツ!!

???「いてえ!!」

刀奈&簪「え?」

何かの弾く音と共に聞こえた声に2人は呆気にとられると何時の間にか青いスポーツカーが自分達を守る様に射線に入っていた。

そして刀奈は気づく。

自分達を守った車に人が乗ってない事に…

車「てめえ…こんな小さい子供に銃を向けやがって!」

刀奈「!?車が喋ってる!」

簪「うそ…」

スポーツカーから出て来た声に2人は驚いているとさらに驚く事が起こる。

車「スピードブレイカー!トランスフォーム!!」

その言葉と共に車が変形してロボットへとなる。

スピードブレイカー「サイバトロンの一員スピードブレイカーただいま参上!悪事は

許さねえぜ!!」

男「な、何!? サイバトロンだど!」

男2「あのテロや事件が起こった時にどこからともなく現れる謎のロボット集団!」
ビシツと指すスピードブレイカーに男達は驚く。

???「おい…俺のダチ公を攻撃したな?」

だが、後ろからの怒気の纏った声に慌てて振り返る。

カートランスポーターしかないが男達3人は嫌な予感を覚えた後…

???「ゴッドマグナス! トランスフォーム!!」

カートランスポーター後部と分離した後に後部が足となった後にカートランスポーター前部が變形して体となると足となった後部と合体、その後に顔が出る。

スピードブレイカー「マグちゃん! こいつ等は成敗しねえとな!」

ゴッドマグナス「そうだな。色々と気に入らねえ事をしやがって…」

男3人「ひいひいひいひい!」

ポキポキと手の骨を鳴らす2人に運転していた男もISを纏ったが発される威圧に
男3人は後退り…

スピードブレイカー&ゴッドマグナス「反省しろ!!」

男3人「ぎやああああああああああああ!」

2人のアッパーにより上に吹っ飛んだ後に地面に激突してあっさり気絶してしまう。

スピードブレイカー「いっちょあがり、マグちゃんありがとうな」

ゴッドマグナス「気にするな。それよりそっちの嬢ちゃん達は大丈夫か？」

気絶してる男3人を目的の場所に着いた後に簪と刀奈を拘束する為に使用するだつただろうロープで縛り上げてISを取り上げた後にそう言うスピードブレイカーにゴッドマグナスはそう返した後に簪と刀奈に話しかける。

刀奈「え、ええ…」

簪「あ、ありがとう」

スピードブレイカー「へへ、気にするなよ」

ゴッドマグナス「礼をいらねえ、こっちはただダチの手伝いをしただけだ」

頷く刀奈の後に簪の礼にスピードブレイカーは鼻を擦って言い、ゴッドマグナスはそう返す。

警察が来るまでの間に2人はスピードブレイカーとゴッドマグナスと談話した。

☆

簪「…そう言うのもあってあの時のを忘れない為に作って貰ったんだ」

セシリア「成程…まさか簪さんもサイバトロンと関わりがあったんですね」

箒「む？」も」と言うときセシリアもか？」

部屋に移動して話し終えた後にお茶を飲む簪にセシリアは感慨深く言い箒は聞く。

セシリア「ええ、母と父が列車に乗っていた際にテロに遭いまして、その時に助けて貰ったとの事です。確かチーム新幹線とビルドマスターと言っていましたね」

他にも数名おりましたがとセシリアは紅茶を飲む。

蜜「なんでチーム名しか覚えてないぶくん？」

セシリア「2人が言うに印象が強かったからだそうですわ」

一夏「そうか：そう言えば簪、そのスピードブレイカーとゴッドマグナス。会えると言ったら会いたい？」

蜜の問いに答えたセシリアのを聞いた後にそう言う一夏に簪は前に乗り出す。

簪「会えるの!？」

一夏「う、うん。都合が合えばね」

それを聞いた簪は嬉しそうな顔になる。

箒「それだけ嬉しいのだな」

簪「うん：その時以外会ってないから」

本音「良かったねかんちゃん」

心底嬉しそうに言う簪に本音もほにやりと笑う。

その後6人は談話した後それぞれ部屋に戻った。

第3話：舞う紅と白

前回から翌日の放課後

一夏「(うずうず)」

箒「一夏、落ち着け；」

セシリア「ふふ、今の一夏さんを見ると目当ての物が来るのを待つ子供みたいですよわ」

ISアリーナにて待ち遠しそうにしてる一夏を箒は窘め、セシリアはくすりと笑う。

ちなみに3人ともISスーツと着ている。

ただ、箒とセシリアはスクール水着のようなレオタードと膝上サポーターなのに一夏は臍上丈の半袖インナーシャツとスパッツのにしており、一夏曰く、こっちの方が落ち着きやすいと言う事らしい。

束「おーい、いっちゃんに箒ちゃん、お待ちせよ」

するとそこにISを纏った箒と本音に蜜と共に何かを運んで束が来た。

箒のは白く染められた全体に白い縁どられた青い炎をイメージした模様が入ってい

て腰は独立したウイングスカートをもち、肩はスピードブレイカーの肩を模したアーマーを付けて背中にごッドマグナスの背中の中のバックアップを模したウイングが装着されている。

蜜と本音に束は日本純国産の第2世代型ISの打鉄を纏っている。

一夏「うわあ…」

箒「これが…」

そして4人が運んで来たのに箒と一夏はそれぞれ声を漏らす。

運ばれて来たのは2つのISで紅と白で彩られていた。

束「いっちゃんのが白いので名前は白式、箒ちゃんの紅いので紅椿だよ」

一夏「白式」

箒「紅椿」

セシリア「これがお2人の…」

並べられたのISの名前を言う束の後に2人はそれぞれの機体に近づく。

束「それじゃあフィッティングとパーソナライズをやるから2人とも纏ってね」

一夏「分かった」

箒「はい」

見ていた2人に束が指示を出し、2人は早速自分達の愛機を纏う。

完了したのを見て束が空中投影型のキーボードを展開し素早く入力し：

束「はい完了」

一夏&箒&セシリア&簪&本音&蜜「はやっ?!」

そして言った言葉に6人は驚く。

束「まあ、事前に2人のを入れていたからね。後は自分で慣れる様に動いてね〜それにしても箒ちゃんもホントに大きくなったよね〜いっちゃんもいっちゃんでちいちゃんの妹なだけに大きいし」

箒「ね、姉さん止めてくれ！胸を見るのは！」

そう言つてのほほんと箒の胸を見る束に見られた本人は過敏に胸を隠す。

それにより箒の豊満な胸がむにゅと寄せ上げられて何人かは鼻血を流しそうだろう。

セシリア「何やら箒さん、胸にコンプレックスを抱えてるんでしょうか？」

一夏「抱えてると言うか…今は遠くにいるもう1人の幼馴染が箒の胸にゾツコンでさ、事あるごとに揉んでそれで箒は胸の話には敏感なんだよね〜」

本音「そうなんだ〜」

簪「…………羨ましい」

蜜「簪も十分大きいと思うぶーん」

それを見てそう言うセシリアに一夏は説明して納得する本音の隣で簪が自分の胸を

ポンポンして蜜がそう言う。

☆

??? 「へつくしゅん!!」

遠い場所、そこでとある人物がくしやみする。

??? 「うーん。誰か噂してるのかしら? あー最近箒の胸が恋しいわね」

鼻を擦った後にうへへ〜と思いい出してるのかほにやりと笑って手をわきわきさせる。

??? 「まあ、今度日本に帰るんだし…待つてなさい箒。揉んでなかつた分、揉んであげ
るから」

にひひと笑って鼻歌を歌ってその人物は歩いて行く。

☆

箒 「うひ!」

束 「およ? どうしたの箒ちゃん」

背中に入った悪寒にブルリと震える箒に束は訝しげに聞く。

箒「い、今奴の気配を…」

束「?とにかく飛んでみたらどうかかな?ちなみに2人共軽くだよ軽く」
首を傾げた後にそう言う束に2人は頷いた後にふわりと浮く。

箒「おお…」

一夏「うわあ…」

そのまま2人はアリーナを飛び回る。

慣れて来たのか徐々にスピードをあげている。

蜜「うわゝ2人の専用機凄いぶーん」

セシリア「ホントですわね。お2人共慣れて来てますね」

簪「…博士、あの2人の武器は？」

関心する2人の隣で簪が聞く。

束「いつちゃんとは完全近接型で箒ちゃんは遠距離も出来る近接型だね」

本音「ふえゝそうなんだゝ」

セシリア「成程…では」

話を聞いたセシリアは青いイヤークラスに触れると自身のISを纏う。

その色は青色で周囲に特徴的なフィン・アーマーを4枚を浮かばせており、確認した後、確認した後に2人の元へ向かう。

箒「む？それがお前の専用機かセシリア」

セシリア「ええ、ブルーティアーズと言いますわ。遠距離を得意としておりますわ」

一夏「遠距離か…さつき確認したけど僕のは接近用の武器だけなんだよな…」

気づいた箒にセシリアは答えると一夏が困った顔をする。

セシリア「ふふ、手加減はしませんわよ」

一夏「うへえ…きつそうだな」

ワイワイ話し合う3人を見て束は笑う。

???「何やら楽しそうに話してるんだな」

後ろからの声に束達4人が振り返ると狸がいた。

束「やあやあラッさん」

本音「こんにちわ」

箒「ハイラッドこんにちわ」

蜜「こんにちわだぶーん」

狸↓ハイラッド「こんにちわなんだな、あそこにいる3人の内2人つて束と千冬の

妹さん達かな？」

挨拶する4人に狸ことハイラッドは手を上げた後に飛んでる3人の内、一夏と箒を

見て言う。

東「そうだよ、紅いISに乗ってるのが私の妹の箒ちゃん、んで白い方がちいちゃんの妹のいっちゃんだよ」

ハインラッド「へえ、元気のある子達なんだな」

話してる内に代表決定前なのか模擬戦をしている3人を見てハインラッドはそう言う。

蜜「来週の月曜日に代表決定戦をやるんだぶりん」

本音「それであそこにいる3人がバトルするんだ」

ハインラッド「へえ、色々頑張れなんだな」

2人のを聞いてそう答えた後にそれじゃあとハインラッドはアリーナを離れる。

しばらくして誰もいない通路にきたハインラッドはうーんと唸った後にしばらくしてどこかに連絡を取る。

ハインラッド「こちらハインラッド、総司令応答願うんだな」

???『こちら。どうしたんだいハインラッド』

ハインラッド「来週の月曜日に一夏達が代表決定戦をやるみたいなんだけど、くなくんか来そうな気がするから総司令に報告をしようと思っただな」

出て来た人物にハインラッドは報告する。

成程と…と通信相手が考え込んでるのをハインラッドは返事を待つ。

??? 『教えてくれて感謝する。私もその時にIS学園で待機しておこう』

ハインラッド「りよゝかい。待つてるんだな」

通信を終えた後にハインラッドは狸汁や味噌汁を作る為に歩き出す。

第4話：代表決定戦と乱入と再会

前回から数日経って代表決定戦の日になった。

真那「いよいよですな織斑先生」

千冬「そうだな」

待機室して、アリーナの中央で三角形を描く様に対峙してる3人を見ての真那の言葉に千冬は同意する。

隣で東が箒を応援してる。

???「ふん、面白い事をしてる様だな」

後ろからの声に3人は振り返る。

そこには3人より長身でピンク色の髪を膝まで伸ばした女性であった。

千冬「ガルバか」

東「ガルさんヤッホー♪」

女性↓ガルバ「ふん、相変わらずタメ口な奴らだ。それで、セシリア・オルコットと

やろうとしてるのがお前達の妹か」

来た女性、ガルバは千冬と束の反応にそう言った後に一夏と箒を見る。

ガルバ「お前達の妹がどう言う戦いを見せるか見せて貰おうか」

そう言つて腕を組んで一夏達を見る。

セシリア「お2人共、負けませんわよ」

箒「それはこちらのセリフだセシリア」

一夏「一緒に模擬戦をしあつたけど待つたなしだからね」

お互いにそう返した後に構え：

箒&セシリア&一夏「！」

開始の合図と共に箒がセシリアに斬りかかる。

一夏「でやああああああ!!」

箒「むん！」

その攻撃をセシリアが避けた後に一夏が姉が使っていた雪片の後継の雪片式型で箒へ斬りかかり、箒はそれを雨月で受け止める。

セシリア「お行きなさい！ブルーティアーズ!!」

距離を取つたセシリアは浮かばせていた自分の専用機と名前の由来でもあるビットを飛ばし、レーザーを放つ。

それに一夏と箒は避けた後にセシリアは一夏を狙い、箒はセシリア、一夏は箒へ攻撃をする。

互いに攻撃しあう間に自分を攻撃する者に牽制での攻撃を放って行く。

ブレイク「おいおい、お互いに違う奴らを狙ってるな」

コラーダ「確かにバトルロイヤルでは良くある光景だが」

???「それを崩さずに一方をリタイアさせる寸法でしょうか？」

それを別の所で見ていたブレイクとコラーダが呟き、傍にいたキリンがそう推測する。

???2「確かにお互いに不利と思われる相手を最初に落とすつもりに見えるな」

ハインラッド「もしかしたらロングラックとマツハキツクと言う通りかもしれないんだな」

次に黒い馬の発言にハインラッドがそう言う。

スタンピー「それじゃあこれって誰かが1人を倒したら残った方が有利に出来るって事になるのかな？」

同じ様に見ていたスタンピーも首を傾げながら呟く。

確かにスタンピーの言う通り、3人がやっている事はまさにそれである。

箒がセシリアへ攻撃する理由は遠距離からの攻撃が出来て自分達より扱えているセ

シリアを落とし完全に近距離しかない一夏と一騎打ちする為に、一夏は自分より剣術が上手い箒がセシリアを狙っている内に倒し、セシリアの懐に飛び込む為に、セシリアは一夏の白式にある奴を使われぬ為に箒が倒されぬ内に一夏を落とそうとしているのだ。

お互いに不利な相手を先に落とし、有利な状況に持つて行けるかがポイントになると代表決定戦が来るまでの模擬戦をしていた3人共通の考えである。

それ位簡単ではない事は3人とも知っているが知っているからこそ早めに落とそうとしているのだ。

箒「やはり一筋縄では行かないなセシリア！」

セシリア「そちらこそ！それに一夏さんも上手いですわね！」

一夏「まあね！こつちにも必死だからね！」

お互いにそう言葉をかわしながら均等を保った戦いを続ける。

だがその均等はしばらくして崩れた。

3人の誰かではなく部外者の手によって：

ブレイク「ん？誰だよこんな時に：こちらブレイク：!?総司令！どうしたんですか？」

バトルを見ていて興奮してた所にかかって来た通信にブレイクはめんどくさそうに

出てかけて来た人物に慌ててシャキーンとなると聞く。

総司令『緊急事態だ！数秒後にそこが襲撃される！直ちに迎撃準備に入ってくれ！私も妨害する奴らを片付けたらすぐに向かう！』

ブレイク「えちよ、総司令!？」

ドガーローーン!!!

焦った声で告げられた事にブレイクが驚いているとアリーナの上空からシールドを突き破り、何かがアリーナに落ちて来る。

マツハキツク「なんだいきなり!？」

ロングラツク「まさか総司令の言っていた襲撃!？」

驚くマツハキツクとロングラツクの言葉の後に土煙が収まる。

ブレイク「な、なんだありやあ?」

現れたのにブレイクが代表で言葉を漏らす。

そこにいたのは巨大な腕を持った獣の様なスタイルの機械の異形であった。

ロングラツク「あ、あれはISなのでしょうか?」

マツハキツク「スタンピー!」

スタンピー「今調べてます!……これは!？」

続いて言葉を発したロングラツクの後のマツハキツクのにスタンピーは答えた後に

手を顔の横に当てて異形を見てると驚きの声を漏らす。

ブレイク「おいあれはISなのか！違うのか！」

スタンピー「た、確かにISですが…人が乗ってないんです！」

ハインラッド「えー人が乗ってないんだなー!？」

コラーダ「マジかよ！ISって人が乗らないと動かないんじゃないのか!？」

ロングラック「それじゃああれは無人機!!」

詰め寄って聞くブレイクにスタンピーが答えた事に誰もが驚く。

ドカカカカーン!!!

すると四方八方から異形ISに向かって攻撃が飛んで行き、命中して再び煙が起る。

ブレイク「だ、誰だ一体!？」

コラーダ「見ろ！あいつ等だ！」

思わず身を乗り出すブレイクの後にコラーダが周りを見て言う。

すると何時の間にISを纏った少年たちが各々の武器を構えていた。

ブレイク「げ！バカ転生者達じゃねえか!!」

ロングラック「流石にこれはあのISでも無理でしょうかね…」

マツハキツク「いや逆だ！格好の餌食だ！ビッグコンボイの報告にあっただろ！」

声を漏らすブレイクの後に呟くロングラックへマツハキックは焦った声で言った後に煙から何かが飛び出て少年たちを捕まえて行く。

ハインラッド「言わんこっちゃないんだな！」

ブレイク「お前等行くぞ！サイバトロン！変身だ!!」

スタンピー&マツハキック&ロングラック&コーラーダ「了解！」

それにハインラッドが言った後にブレイクの号令と共に4匹は答え：

6匹「サイバトロン！変身（なんだな）!!」

コールと共に動物の姿からロボットの姿へと変わり、アリーナへ飛び込む。

☆

箒「な、無傷なのか!？」

煙から出て来た異形ISに箒は驚きの声を漏らす。

初めは全身装甲で見た事ない奴だったのにほとんどガラの悪い奴らだが武器が強力なだけに男子生徒達の四方八方からの攻撃には流石に倒れただろうと思っていたので衝撃であった。

攻撃した男子生徒達を掴んでいるのは異形の背中から伸びたアームであった。

男子生徒「は、放せぐあああああああああ!!?」

男子生徒2「あああああああああああ!!?」

拘束から抜け出そうとしていた男子生徒達だったがいきなりうめき声を上げた後にその体が輝きだす。

セシリア「これは!?!」

箒「何が起こるんだ?」

その光景に3人が驚いた後に光が収まると男子生徒達はその姿を女性へと変わっていった。

そして異形は女性達を地面に落とす。

一夏「女になった!?!」

セシリア「これは…男子操縦者性転換事件と同じ…まさか同じ犯人!」

ブレイク「お前等下がってろ!」

驚く一夏と眩くセシリアの後にブレイク達が来る。

ブレイク「スタンピーとマツハキツク、ハインラッドは気絶した奴らの避難、ロングラックとコラーダは俺と一緒に無人機を迎撃だ!」

スタンピー「分かった!」

ロングラック「了解です!」

すぐさま指示を出すブレイクにスタンピーとロングラックは答えた後にそれぞれ動く。

セシリア「あれが無人機!？」

箒「バカな!？」

ブレイクの後ろにいた箒達はブレイクの口から出て来た言葉に驚いている間にロングラックとコラーダ、ブレイクは攻撃を仕掛ける。

ロングラック「ダブルミスイル!」

コラーダ「アームマシンガン!!」

ブレイク「ブレイクアンカー!!」

一斉に攻撃を放つと異形はすぐさま避けてブレイクに殴り掛かる。

ブレイク「うお!？」

コラーダ「ハンドビュート!!」

それにブレイクは避けた後にコラーダが右腕の鞭で異形の左腕を縛り上げるが異形はそのままコラーダを振り回して投げる。

コラーダ「うわあああ!!」

一夏「危ない!」

投げられたコラーダを壁に激突する直前に一夏が受け止めて着地する。

一夏「大丈夫？」

コラーダ「すまねえ、助かった」

ロングラック「アームシユート！」

箒「はあ!!」

安否を聞く一夏にコラーダは礼を述べた後にロングラックがロングアームを伸ばした。パンチ攻撃を放つて受けた異形は後ずさった後に箒が斬りかかり、それには異形は右腕で防ぐ。

セシリア「箒さん離れてください！舞いなさいブルーティアーズ!!」

ブレイク「今度はこれだ！」

そこにセシリアがブルーティアーズを放ち、ブレイクもアンカー型のミサイルで追従する。

すると異形は目に当たると思われる部分を光らせた後に周囲にエネルギーで出来た様々な形状の剣を複数出現させると周囲に放つ。

それによりブルーティアーズやミサイルは破壊される。

ロングラック「伏せて！」

箒「セシリア！」

セシリア「きゃあ!?!」

向かって来るのにサイバトロンメンバーや一夏は慌てて地面に伏せ、箒はブルーティーズをあっけなく壊れて棒立ちするセシリアを慌てて抱き抱えて伏せるがエネルギー剣が背中を掠る。

箒「っ！」

セシリア「箒さん！」

思わず呻く箒にセシリアは叫ぶ。

マツハキツク「（今のは情報にあつた王の財宝（ゲート・オブ・バビロン）！ビッグコンボイの情報通りなら同一犯の手口！）」

一夏「箒！この！！」

それを見てマツハキツクが心の中で思ってる中で一夏が接近して斬りかかる。

良く見ると持っている雪片式型の刀身が輝いている。

輝いているのは白式の単一仕様能力の零落白夜（れいらくびやくや）が発動しているからだ。

相手のエネルギー兵器による攻撃を無効化したり、シールドバリアを切り裂いて相手のシールドエネルギーに直接ダメージを与えられるいわば必殺技にもなる。

ただし自身のシールドエネルギーを消費して稼動するため、使用するほど自身も危機に陥ってしまう諸刃の剣でもある。

一夏「食らえ!!」

振り抜くと共に異形の右腕が切断されて地面に落ちかけるが…

一夏「なっ!?!」

なんと、本体の斬られた所からコードが瞬時に出て切り取られた右腕と瞬時に繋がる。

そして驚いている一夏へ異形は左腕で殴ろうとする。

箒「一夏!」

セシリア「一夏さん!」

それに2人が叫んだ時、2人の隣を駆け抜ける存在が現れ…

異形「!」

一夏へ攻撃しようとしていた異形へへばり付く。

ブレイク「白い虎!?!」

箒「あいつはセシリアの!」

異形にへばり付いた白い虎は振り下ろされれない様にしがみ付いてるが力は違い過ぎて剥がされると投げられて壁にぶつかる。

〃ピースト固定解除、ならば言語機能ブロック解除〃

コラーダ「おい大丈夫か!!」

地面に落ちた後に顔をぶるぶる振る白い虎へコラーダが話しかける。

白い虎「心配ござらん！それよりもスッキリしたでござる！」

コラーダ「そうか……ん!?」

箒「え？」

セシリア「はっ？」

一夏「今の声!?!」

すると白い虎から出て来た言葉に誰もが呆気に取られる中で白い虎は異形を睨む。

白い虎「スッキリさせて貰ったお礼をくれてやろうでござる! タイガトロン! 変身

!!」

その言葉と共に白い虎、タイガトロンはその言葉と共に体を光らせた後にロボットへ変わる。

ブレイク「んな!? あいつもトランスフォーマーだったのか!?!」

スタンピー「そんな!? 前見かけた時に調べたけど完全な動物でしたよ!?!」

一夏「(た、タイガトロン!)」

身構えるタイガトロンにブレイクとスタンピーが驚く中で異形が攻撃をしようとし

て…

???) 「迅雷肘突!?!」

上空からの声と共に叩きつけられた攻撃に吹っ飛ぶ。

攻撃を入れた人物は振り返り、タイガトロンは驚きの表情を取る。

???「久しぶりだなタイガトロン、お前も来てたのだな」

タイガトロン「お主こと、まさかこんな所で再会するとは思いませんでしたぞ…コンボイ！」

懐かしむ様に言う人物、コンボイにタイガトロンも返す。

ブレイク「総司令！」

コラーダ「大丈夫なのか？」

コンボイ「ああ、片づけて来た。後は奴だけだ」

駆け寄るブレイク達にそう言うとき起き上がる異形を見る。

タイガトロン「拙者に任せよ。コンボイはトドメを頼むでござる」

そう言うときタイガトロンは前に出て太極拳の様な構えを取る。

タイガトロン「今の拙者は長くにわたって自然と生きて来た。そのお蔭かその恩賜を授かった」

そう言うとき晴天だった空が雲に覆われ、稲妻が迸る。

タイガトロン「稲妻よ！敵を痺れさせよ!!」

その言葉と共に異形を指さすと雲から雷が落ちて異形へ炸裂する。

タイガトロン「今だコンボイ！」

コンボイ「良し！」

一夏「コンボイ！これを!!」

駆け出そうとしたコンボイへ一夏が雪片式型を投げ渡す。

受け取ったコンボイは飛びだすと異形の胸に雪片式型を突き刺し：

コンボイ「?」「でやああああ!!」

縦に振り下ろした後に続けざまに横にも振ってT字に両断する。

異形「?!」

ドカーン????!!

コンボイが背にすると同時に異形は爆発四散する。

箒「やった！」

セシリア「おお……」

それに箒とセシリアは喜ぶ。

ブレイク「やったぜ総司令！」

コンボイ「ああ、感謝するよ一夏」

一夏「? 僕の名前を知ってるの？」

はしやぐブレイクの後にコンボイが礼を言って雪片式型を返し、一夏は名乗ってない

のに言ったコンボイに聞く。

コンボイ「ああ、織斑來奈とは知り合いだからねその時に教えて貰ったんだ」

そう言つてウインクするコンボイに一夏は成程と込められた意味も含めて納得する。

その後コンボイは爆発でバラバラになった異形のなれの果てを難しい顔で見た後に振り返る。

コンボイ「とにかく私は基地に戻る。ブレイク、後の事は君達に任せた。タイガトロ
ン、また会えて良かったよ。今度基地に遊びに来てくれ」

ブレイク「了解だぜ総司令！」

タイガトロロン「うむ、お主に会えて良かったでござる」

では…と言い残してコンボイはそのまま飛び去る。

一夏「コンボイ…」

箒とセシリアと共に一夏は飛んで行くコンボイを見て眩き、ビーストモードに戻つた
タイガトロロンは一夏をジツと見ていた。

第5話：再会の兄弟と幼馴染

前回からの翌日、千冬は東の作業部屋でサイバトロン代表で来たブレイクと付き添いで来た真那と共に無人I Sについての結果を待っていた。

千冬「それで東。どうなんだ？」

東「うーんとね。徹夜して結構苦労したけどなんとか出来たよ」

ブレイク「(あの状態でなんとかってすげえなホント)」

結果を聞く千冬にそう言っつてふわくと欠伸する東にブレイクは改めて彼女の天才っぷりに舌を巻く。

東「結論から言うとなれば私が作ったコアに精巧に偽造されたコアが使われているよ」

千冬「何？」

出て来た言葉に千冬や真那にブレイクは驚く。

ブレイク「つまりあれか？もし取り逃がして他の国で倒されて調べられていたら…」

東「コアに関しては私以上に解析者なんていないだろうから私が疑われていたのは確実だね」

真那「ですがいったい誰が…」

千冬「何を言うんだ真那。いるじゃないか、東と同じ様に作れる存在が」

腕を組んで言うブレイクの問いに東は肩を竦めて言い、真那が呟く中で千冬がそう言う。

千冬「女尊男卑を酷くする切っ掛けを作り出した男、倉田正影」

東「成程ね：確かにどうやってか知らないけど作り出せるならあいつしかいないだろうね」

出された名前に東は心底嫌そうに同意する。

ブレイク「あいつはどこにいるかこっちも掴めないからな…」

千冬「：奴の目的は一体なんだ？世界を混乱させたいからなのか？」

悔しそうに頭を掻くブレイクの後に千冬は呟く。

☆

一方とあるIS学園の森の中

??? 「はるあ：サイバトロンの奴らにくっついて来たけど、ホントどうしようかね…」

はあ…と溜息を付いて黒い巨大な恐竜のロボットがそう洩らす。

?????? 2 「ギガストーム様しっかりしてくださいな」

?????? 3 「そうやで、今ワイらの指導者はギガストーム様なんやで」

そんな恐竜ロボット、ギガストームに人型サイズの機械が混じった蜂と機械が混じったヴェロキラプトルが励ます。

励まされてる恐竜ロボットを離れた場所で機械が混じったサメと機械が混じった犬が見ている。

サメ「やれやれ、ガルバトロン様がない中でギガストーム様が動かなければならぬのねマックスビー」

犬「マックスラジャー」

溜息を吐いて言うサメに犬、マックスビーは同意の様に頷く。

ホントどうしようかとサメがぼやいていると：

??? 4 「ふん、サイバトロン以外にもお前達も来ていたか」

サメ「！何者！」

突如した声に誰もがした方を見るとガルバが立っていた。

蜂「に、人間がワイらに何の用や！」

ヴェロキラプトル「そやそや！何かして来るならいてくりまわすで！」

ギガストーム「待てダージガン！スラストール！」

それに蜂、ダージガンとヴェロキラプトル、スラストールが威圧しようとしてギガストームに止められる。

4匹が戸惑う中でギガストームはガルバに近づいてじつと見る。そして何かを重ねて驚く。

ギガストーム「もしかして…兄ちゃん…なのか？」

4匹「え!？」

出て来た言葉に4匹が驚く中でガルバは口元を愉快そうに歪める。

ガルバ「見るだけで分かるとは流石はワシの弟だ」

ギガストーム「に、にいちやあああああああああん!!!」

歓喜極まって抱き付こうとしたギガストームだったが避けられて地面に倒れる。

ギガストーム「な、なんで…」

ガルバ「馬鹿もん、今のワシはトランスフォームではなく人間だ。特にお前の様な

図体ではこつちが潰れるわ」

呻くギガストームにガルバがそう言う。

サメ↓ヘルスクリーム「ヘルスクリーム! トランスフォーム!」

マックスビー「マックスビー! トランスフォーム!」

ダージガン「ダージガン! トランスフォーム!」

スラストール「スラストール! トランスフォーム!!」

その間、4匹はロボットに変形する。

ヘルスクリーム「ガルバトロン様おひさしゆうございます」

ダージガン&スラストール「先ほど無礼な言葉を吐いてしまい申し訳ございませんでした！」

ガルバ「うむ、それと気にしてはいない。お前達も変わらずだな」
頭を下げる4人にガルバはそう言う。

ギガストーム「兄ちゃん！俺聞きたい事があるんだ！」

ガルバ「なんだ？」

起き上がったから聞くギガストームにガルバは問い返す。

それに4人は息を飲み：

ギガストーム「俺、兄ちゃんをそのまま呼んで良いのか姉ちゃんって呼び方に変えた方が良いのかどつちにすればいい？」

デストロン4人「だああああああああ!!!」

出て来た言葉にずっけこる。

ダージガン「ギガストーム様それ大事かいな；」

ギガストーム「そりゃあそうだろ！今の姿を見て見ろ！違和感しかないだろ！」

スラストール「確かにその通りでんな」

ヘルスクリーム「あなたもそれで納得するの；」

ツツコミを入れるダージガンに答えたギガストームにスラストールも納得してヘルスクリームは呆れる。

ガルバ「姉ちゃんにしろ」

ギガストーム「分かったよ姉ちゃん！」

ヘルスクリーム「そ、そう言えばガルバトロン様、今のお姿での名前はなんでしようか？」

そう言うガルバにギガストームは嬉しそうに言った後にヘルスクリームが言う。

ガルバ「そうだな…今のわしの名はガルバ・『』だ」

☆

女生徒「というわけでツツ篠ノ之さんクラス代表決定おめでとう」

女生徒2「おめでとう」

箒「あ、ああ…ありがとう」

夕食後の自由時間の食堂にて1組は全員揃い皆飲み物を片手に盛り上がっていた。

あの後、試合は少しして再開される事になるがセシリアが要であるブルーティアーズを壊されたので辞退し、一夏と箒のバトルとなったが零落白夜のデメリットを利用し、隙が出来た所に攻撃を入れシールドエネルギーを0にして箒の勝利となった。

女生徒3「いやーこれでクラス対抗戦も盛り上がるねえ」

女生徒4 「ほんとほんと」

誰もが盛り上がる中で箒は気恥ずかしそうにジュースを飲む。

セシリア 「ふふ、これからが大変ですわね箒さん」

箒 「そうだな…それにしても一夏はどこに行っただ？」

そんな箒の傍に来たセシリアの言葉に箒は言った後に周りを見る。

セシリア 「確かに…どこに行かれたのでしょうか？」

☆

その頃、一夏はタイガトロンと共に夜空を見上げていた。

タイガトロン 「うーん、やはりこの姿の方が落ち着くな」

一夏 「ふふ、ホントタイガトロンはビーストモードが良いね」

背伸びするタイガトロンに一夏は笑う。

タイガトロン 「お主こと姿変われど空を愛する所は変わらないな…エアラザー」

その言葉に一夏は分かっちゃうかと呟く。

タイガトロン 「一目見た時、拙者には分かったぞ」

一夏 「そっか…けれどホントにタイガトロンでビックリしたよ」

笑うタイガトロンに一夏は寄り添う。

それにタイガトロンは目を細めて見る。

箒「みぎやあああああああああ!!」

タイガトロン「なんと!」

一夏「今の箒の声?」

するといきなり聞こえて来た声にタイガトロンと一夏は向かう。

☆

少し遡り、箒が新聞部に所属する2年の黛薫子にセシリアともどもインタビューを受けて写真を撮った時だった。

むにゅ♪

箒「みぎやあああああああああ!!」

セシリア「な、なんですの!」

いきなり後ろから揉まれて声をあげる箒にセシリアや他の生徒達も驚く。

???「ううーん、この揉み心地感にこの大きさ、箒また大きく育ったわね」

箒「こ、この声!?!鈴か!」

うつとりしている後ろからの声に箒は振り返る。

そこにはツイントールの少女がうへな顔で堪能していた。

セシリア「ななななな!何様ですのあなたは!!」

少女「何よ。今久々の箒の胸を堪能してるんだから邪魔しないでよ」

顔を真っ赤にしながら怒鳴るセシリアに少女はまだ箒の胸をモミモミしながら不満げに言う。

箒「こ、こら止めろ鈴！も、揉むな!!」

少女↓鈴「無理ね。この凰鈴音。しばらく箒の胸を揉んでいなかった分揉みまくってあげるから」

顔を赤くして言う箒に鈴はそう返してまだモミモミする。

タイガトロン「どうしたでござるか!!」

一夏「あ、鈴じゃないか」

そこにタイガトロンと一夏が来て、箒を揉んでる鈴を見て一夏はそう言う。

セシリア「一夏さん！なんですかあの娘は!」

一夏「あー、ほら前にもう1人、幼馴染がいるって言ったじゃないか？それが今箒の胸を揉んでる子なんだよ」

駆け寄るセシリアに一夏は頭を掻いて言う。

箒「いい加減にしろ!!」

鈴「ぶー…まあ、久々に堪能出来たから良いけどね〜んでクラス代表になった訳ね」

なんとか振りほどく箒に鈴は不満げだったがすぐさま気を取り直してどうやら先ほどの聞いてた様で呟いて何か考えた後に良しと言い…

鈴「こうなったらいてもいられないわね！待ってなさい箒！クラス代表になって對抗戦で勝ったらまた揉ませて貰うわよ！それ以外でも揉むけどね！」

そう言つてバビユンと走り去つて行く。

タイガトロン「何やら嵐の様な女子（おなご）であつたな」

一夏「それが鈴だからね……」

箒「はあはあ……あいつは……」

セシリア「（箒さんの胸……はっ！私は何を……）」

それに誰もが呆気に取られる中で顔を赤くして胸を抑える箒を見てセシリアは浮かび上がつて来たのに顔を振る。

☆

鈴「箒く！なれなかつたよ!!」

箒「いきなり揉むな!!」

セシリア「は、離れなさい！」

翌日、びええええええええええ！と教室に飛び込んできてそう言いながら箒の胸を揉む鈴にセシリアは剥がす。

蜜「鳳さん何組なんだぶくん」

鈴「2組よ……んでそのクラス代表になつてる子に変わつてつて頼んで勝負に勝ったら

変わるって了承してくれたから挑んだらボロ負けした……」

蜜の問いに答えた鈴のに本音と蜜はあーと声を漏らす。

本音「それだったらりんりんが負けても仕方ないね〜」

蜜「そうだぶーん」

箒「?どう言う意味だ2人共?」

うんうんと頷く2人に箒は聞く。

本音「2組にはね〜かんちゃんのお姉さんが認める実力者がいるんだよね〜」

蜜「しかも試験官がダメージを与えられずに倒されたとも聞いたぶーん」

一夏「へえ〜それで名前は?」

2人のを聞いて関心の声をあげた後に聞く一夏に本音は言う。

本音「名前はね〜獅子 麗奈(れいな)ちゃんだよ〜」

箒「獅子 麗奈か……」

名前を聞いて箒はどんな人物なんだろうなと考える。

第6話：思い出と記憶を失いし少女

日本のどこかにあるサイバトロン基地

そこで1人の人物が様々な画面を見ていた。

??? 「ライオコンボイ」

後ろからの声にその人物、ライオコンボイは振り返る。

そこにいたのはコンボイにライオコンボイの後輩にも当たるビッグコンボイがいた。

ビッグコンボイ「そろそろ休憩したらどうですか？」

コンボイ「ビッグコンボイの言う通りだ。息子を探したい気持ちは分かるが常時見ていたら再会した時に疲れて倒れてしまったら元も子もないだろ？」

ライオコンボイ「気遣いありがとう。だが、私自身で見つけたいんだ。あの時掴めなかった後悔はもうしたくないからな」

2人の厚意に礼を述べた後にそう言っただけで思い出す。

『とうさああああああん!!!』

現れた穴に飲み込まれる自分の息子に手を伸ばしたが届かなかったせいで息子が消えて行く姿を…

コンボイ「とにかく休んだ方が良い。これは命令だライオコンボイ」

ライオコンボイ「……分かった。その後パトロールに行くよ」

厳しい顔で命令するコンボイにそう言ってライオコンボイは出て行く。

それを見届けた後にビッグコンボイは話しかける。

ビッグコンボイ「良いのですか？」

コンボイ「何がだい？」

聞くコンボイにビッグコンボイはコンピューターを操作してある資料を呼び出す。

ビッグコンボイ「とつくの昔にライオコンボイの息子らしき人物を見つけてるのを」

コンボイ「確かにそうだが……だが、私が彼に言わない理由を君も知ってるだろビッグ

コンボイ」

その言葉にそうですが……とビッグコンボイは資料の一文を見る。

コンボイも腕を組んでふーと息を吐く。

☆

一方、一夏達は午前中の授業を終えてお昼を食べる所であった。

それぞれが注文してどこに座ろうかと思渡し……

鈴「待ってたわよ！ 箸!! こっちこっち！」

すると奥のテーブルにいる鈴が一夏達に手を振っていた。

その傍には簪と本音に蜜以外にもう2人いた。

1人は一夏達と同じクラスの相川 清香。

もう1人は猫耳風の髪型の青い髪を腰まで伸ばし、綺麗な赤い瞳の少女であった。

箒「鈴、この人物は？」

鈴「ああ、この子が2組の代表」

少女↓麗奈「獅子 麗奈。確か1組代表になった篠ノ之箒だったね。話しは本音から聞いている。よろしく」

聞く箒に鈴が答える前に少女、麗奈が名乗って箒に手を差し出す。

それに箒も自分が頼んだうどんを置いて手を握る。

鈴「しっかしショックだったわ…まさか練習機である打鉄ので負けるなんて…」

麗奈「それが慢心なんだよ。例え練習機でも乗る人によつてはスペック以上を出せるんだからね」

セシリア「と言うか、麗奈さんは打鉄で凰さんに勝つたと言う訳ですか!？」

肩を落ち込ませる鈴や麗奈の言つた事にセシリアは驚いて聞く。

麗奈「うん、けれどしばらくしたら束さんに作つて貰うんだ」

箒「そうなのか…どんなのか楽しみなんだな」

まあねと返された後にそれぞれ自分のを食べる。

一夏「そう言えば鈴、お父さんにお母さんは元気？」

鈴「元気も元気、もう何時も通りよ。もうちよい自重しなよなんだよね。中華料理店なのにコーヒーがバカ売れだそうよ」

箒「ああ、あの2人は凄いな」

蜜「ぶーん、2人って鈴とはどう言う時に知り合ったぶーん？」

聞く一夏に鈴は呆れて溜息を付き、箒も思い出して言うと言くと蜜が聞く。

一夏「小学5年生の始めに僕達のいる学校に転校してきてね。話してる内に仲良くなっただ」

箒「何やら突っかかる男どもがいたが私が成敗したな」

鈴「そうそう、んで6年の時に……うへへ……」

一夏が説明して箒が思い出しかそう呟き、鈴も頷いた後に顔をにへらーと崩して手をワキワキさせ、それに箒は胸を隠す。

セシリア「何がありましたの？」

一夏「あー、小学生の頃から箒って発育が良くて当時も他の子達より胸が大きくてさ……それで6年生の体育とかので着替えてた時に鈴がこけかけたのを箒が助けようとして支えきれずにこけたんだ。んでその際に箒の胸を鈴が掴んで……なんか夢中になつて事ある事に揉みまくってたね」

鈴「あの時の箒の感触は忘れないわ〜」

箒「そのせいで私の胸はこうなったんだぞ！あの時は色々と着るのに四苦八苦するわボタンが弾け飛ぶわブラジャーもきついわで今も姉さんが作ってくれてないときついんだぞ!!」

聞くセシリアにあははと苦笑してから一夏は答えて、ワキワキさせて言う鈴に箒は顔を真っ赤にして怒鳴る。

蜜「ちなみに大きさは？」

鈴「ざつとMは行ってるかもね」

箒「こらああああああ!!」

本音「と言うかみつつくセクハラ〜」

簪「……」

清香「えつと、箒さんと比べるのは良くないと思うよ；」

試しに聞く蜜に鈴は思い出して言い、箒が怒鳴り、本音がツツコミを入れる中で簪は自分の胸をポンポンして清香がフォローする。

一夏「それで中学2年の時に親の都合で中国に帰国したんだよね。確か知り合いのお店のヘルプとかでだっけ？」

鈴「そうそう、今は落ち着いているけどね〜」

麗奈「家族か…羨ましいな」

思い出して聞く一夏に鈴は肯定してると麗奈がふと呟く。

セシリア「羨ましいと言うと？」

麗奈「僕には家族がない…と言うか記憶がないんだ」

聞いたセシリアのに答えた事に一夏と箒、鈴やセシリアは驚く。

鈴「記憶がないってマジ？」

箒「…そうみたい。私とお姉ちゃんがスピードブレイカー達に助けられて数日後にウチの家の領地で倒れていた所を保護されたの」

麗奈「あの時僕はなんで倒れてたのかも、どこから来たのかも記憶になかった。ただ1つうろ覚えだったのがあるけど」

セシリア「それはなんですか？」

鈴の言葉に箒が頷いて言い、麗奈の言った事にセシリアは聞く。

麗奈「白い獅子…」

一夏「白い獅子？」

それに本音と蜜とに箒を除いた面々は顔を見合わせる。

鈴「白い虎とは違うの？」

麗奈「全然違うよ」

箒「色々と気になるな」

清香「確かにそうだね」

鈴の問いに麗奈は首を振り、箒は呟いて清香は同意する。

その後、何事もなく、夕方に箒の所に住み付くとかで鈴が押しかけていたが來奈により別室になった。

☆

翌日、箒達が生徒玄関前廊下に行くとな数人の女子生徒達が大きく張り出された紙を見ていた。

箒「何を見てるんだ？」

女生徒「クラス対抗戦の日程が決まってそれが書かれた奴よ」

首を傾げる箒に紙を見た箒達と同じクラスの鷹月 静寐がそう言う。

一夏「へえ、決まったんだ」

静寐「後、箒さん、油断しちやあ駄目よ」

呟く一夏の後に静寐がそう言い残すと教室へ向かい、それに一夏達は首を傾げた後に紙を見る。

そして静寐の言葉を理解する。

なぜか、それは箒の1回戦の相手は麗奈だからだ。

箒 「確かに油断ならない相手になるな」

セシリア 「確かにそうですわね」

一夏 「ガンバだね箒」

気合を入れる箒にセシリアと一夏がそう言う。

クラス対抗戦、その場で起こる事に誰も知らない。

第7話：吠える獅子

前回から数日経った日、サイバトロンの基地でライオコンボイは何時も通りライオジューニアを探していた。

コンボイ「ライオコンボイ、頼みがあるんだ」

ライオコンボイ「頼みとは？」

そんなライオコンボイにコンボイは話しかけてライオコンボイは振り返って聞く。

コンボイ「今日はIS学園でクラス対抗戦が始まるという。もしかしたら前回の様に襲撃があり得るだろうから君に警備に行つて貰いたいんだ」

ライオコンボイ「成程：私以外に他は？」

コンボイ「君の部隊に彼も行って貰うよ」

聞くライオコンボイに答えた後にコンボイは入ってくれと後ろに呼びかける。

それと共に1人のトランスフォーマーが入って来る。

体は別世界に住む複数いるコンボイの1人、フレイムコンボイに似てるがカラーリングや見た目がバトスピと言うカードゲームに出る太陽神龍ライジング・アポドラゴンにした感じで顔はライオコンボイ達に近いフェイスガードであった。

ライオコンボイ「バシンコンボイ、君も来るのか」

バシンコンボイ「はい！若輩者ながらライオコンボイの手伝いをします！宜しくツス！」

そのトランスフォーマーの名前を言うライオコンボイにバシンコンボイは敬礼して言う。

ちなみに大ききさなのだがゴツドマグナスより少し高いので人よりちよい上なライオコンボイ達は見上げている。

ライオコンボイ「そんなに気を張り詰めなくて良い。力を抜いとかないといざと言う時に空回りするぞ。君は力を手に入れたのは最近だ。1人ではなく我々と言う先輩達もいる事を頭に入れていた方が良い」

バシンコンボイ「は、はい！」

そんなバシンコンボイの緊張を解す様に諭すライオコンボイにバシンコンボイは力強く頷く。

ライオコンボイ「まあ、あんまり抜きすぎてサボらない様にな」

バシンコンボイ「そんな事しませんよ；」

慌てるバシンコンボイに冗談だよと茶化した後に歩き出すライオコンボイにバシンコンボイも続く。

??? 「総司令、ビクトリーレオから連絡です」

それにフツと笑ったコンボイに1人の少女が駆け寄って言う。

コンボイ「ビクトリーレオから？繋げてくれアイ」

少女↓アイ「ラジャー」

答えた後にアイはコンピューターを操作すると画面に1人のトランスフォーマーが映る。

彼は別世界に住むサイバトロンの1人でビクトリーレオである。

ビクトリーレオ『久しぶりだなピーストコンボイ』

コンボイ「そちらも元気で良かったよ…それで頼んでいたバシンコンボイのトランステクターについての結果が出たのかい？」

そう言うビクトリーレオにコンボイも返した後に繋げた理由を聞く。

それにビクトリーレオは頷く。

ビクトリーレオ『ああ…調べた結果だが…やはり我々とは違うシステムで出来たトランステクターみたいだ』

コンボイ「そうか…」

話された事にコンボイは顎を撫でる。

ビクトリーレオ『前の俺達の様にトランスフォームしたトランステクターにゴッドマ

スターがパーツな感じにトランスステクターと一体化するのではなく、トランスフォームしたトランスステクターに文字通り一体化してトランスフォーマーになると言う事事態が驚く事だ。さらに極め付けなのがだ』

そう言ってビクトリーレオは何か操作すると別の画面に何かが映る。

それは角が角ばってない四角形のケースの様な物であった。

ビクトリーレオ『君達を送ってくれたこれを調べた結果とバジンコンボイの証言に基づくとケースが起動する事で近くの乗り物や生き物の情報をスキャンニングして中に入っているコアと思われる結晶体により言わば疑似的なトランスフォーマーになる：だが、コアとなる結晶体がない時に起動した場合は変わりに自分に適合する者、ゴッドマスターを探して見つけたゴッドマスターを主と認識する』

コンボイ「ただ、彼の場合は絵の奴を元にスキャンニングしてバジンコンボイが誕生したみたいだけどね」

説明するビクトリーレオにコンボイはそう言う。

コンボイ「この世界にはトランスフォーマーがいないと彼から聞いている。すると：」
ビクトリーレオ『我々が知らない世界の技術で出来たトランスステクターと言う事になるな』

コンボイの言いたい事を引き継いでビクトリーレオが言う。

それにコンボイは喰る。

自分や他のライオコンボイ部隊にビツクコンボイ部隊、さらにカーロボット+αを送り込んだ人物に別の世界のサイバトロンの話は聞いていたが聞いていた中でトランステクターがあったのがビクトリーレオの世界だったのでビクトリーレオに繋げたのが結果は今の報告である。

分かった事と言えば送り込んだ人物が知らない世界に存在するトランスフォーマーの技術かもしれないと言う事だ。

ビクトリーレオ『期待した結果を得られずにすまん』

コンボイ「いや、それだけ分かっただけでも良いさ、ただ、ファイヤーコンボイ達に起こった事を考えるとそのトランステクターの技術を応用されて作られたと言う事も分かったとも言えるな」

謝るビクトリーレオにそう返した後にそう言う。

ビクトリーレオ『そうかもしれないな：そう言えば、ジンライは見つかったか？』

コンボイ「……残念ながら、今の所見つけられていない」

報告を終えた後にそう聞くビクトリーレオに申し訳ない顔で言うコンボイにビクトリーレオは残念そうにそうか：と呟く。

☆

場所変わり、IS学園でクラス対抗戦が始まっていた。

その第1試合にて箒と麗奈は向かい合っていた。

麗奈は赤いレオタードの上に両腕に鉤爪の付いた白いアームアーマーを付け、両足は白いライオンの様なレッグアーマーを付け、左肩に丸くされた白い肩当てを、右肩には金色の鬘を持った白いライオンの顔が装着されていた。

箒「それがお前の専用機か」

麗奈「ああ、これが僕の専用機、白獅子（しろじし）だよ」

聞く箒に麗奈はそう言う。

待機室にて一夏や鈴、セシリアは珍しそうに麗奈のISを見ていた。

セシリア「あれが麗奈さんのIS」

鈴「あのライオンの顔、飾りなのかしら？」

一夏「どうなんだろうね？」

千冬「だが、意外な武器を持つてる可能性があるぞ」

束「自信作だよ」

各々にそう言う3人に千冬が言い、束が自信満々に言う。

一夏「あれ？千冬姉は教えられてないの？」

千冬「ああ、楽しみにしろと言われてな」

聞く一夏に千冬はお腹を擦りながら言う。

箒「本音が言うその強さ、見せて貰うぞ」

麗奈「こつちもそちらの実力を見せて貰うよ」

そう言葉を交わした後に開始の合図と共にそれぞれ接近する。

箒「おおおおお!!」

麗奈「ライオクロー!!」

両手を振り下ろす箒に麗奈は両腕の鉤爪を展開してそれで受け止める。

その後お互いに距離を取る。

麗奈「ライオミサイル!!」

箒「っ!!」

距離を取った後に麗奈は右肩の獅子の顔から砲門を2門出すとミサイルを放ち、それに箒はさらに距離を取った後に空裂からエネルギー刃を飛ばして撃ち落とす。

箒「まさかその顔からミサイルとはな」

麗奈「こつちからも出せるよ!」

驚いている箒に麗奈はそう言って鉤爪を変形させてそこからミサイルを放つ。

箒「なかなか良い専用機だな」

麗奈「まあね(だけど、なんか違和感が来る。それにこの頭の痛みも…僕はホントに

…」

そう褒める箒に麗奈も返しながら内心響める。

箒「何か考えてる暇はないぞ！」

麗奈「！この！」

その間に振り下ろす箒に麗奈はエネルギートンファーを出して防いでからぶつかり合いを続ける。

☆

セシリア「す、凄い。箒さん、渡り合っておりますわ」

一夏「いや、違う。箒が押されている」

ぶつかり合いを見てセシリアがそう洩らす隣で一夏が難しい顔で言う。

鈴「え？けれど上手く防いでいるじゃない？」

千冬「良く見ろ風、防いでいるがそれだけだ。攻勢に出れてない」

それに食いつく鈴へ千冬がそう言い、2人は改めて2人のぶつかり合いを見る。

そして千冬の言葉を示す様に箒が攻撃していない事に2人は気付く。

千冬「どちらとも近接武器だが篠ノ之の刀と違い獅子のは鉤爪だから相手との距離が密着に近い所で振るう速さなら鉤爪が有利だ」

東「刀でも相手に密着させればいけるかもだけどそれをさせないように麗奈ちゃんは

動いているね。あれは戦い抜いた人の動きに近いね」

鈴「色々と記憶を失う前はと言う生活をしたあの人の？」

一夏「（もしかして…）」

説明する千冬と補足する束のを聞いて鈴が呟く中で一夏はある考えを浮かべる。

すると…

ズドオオオオンツ!!!

千冬&束&鈴&一夏&セシリア「!?」

いきなりの大きい音に誰もが驚く。

☆

ズドオオオオンツ!!!

箒&麗奈「!?」

一方のアリーナでは凄まじい衝撃がアリーナ全体に響いていた。

それにぶつかり合っていた2人が驚いているとISのハイパーセンサーからステーション中央に熱源、所属不明のISと断定：ロックされています！と言う緊急通告を来る。

自分達をロックしていると言う事態に気づいた2人は慌ててその場を離れる。

それと共に2人のいた場所をビームが通り過ぎる。

土煙が収まるとそこにいたのは前回箒と一夏、セシリアのクラス代表決定戦の時に現

れたのに似た無人ISだった。

ただ、その腕が重火器の様な感じに変更されているが…

もしかしたら前回の事を考えて接近されない様にされたのだろう。

箒「どうする？」

麗奈「遠距離…と行きたいけどそこら辺している可能性もあるだろうしな…」

話しかける箒に麗奈はそう言って飛んで来る攻撃を避けながら顔を顰める。

相手だつてバカではない筈、前回の事を考慮して従来のISの武器では効かない様にしている筈だ。

だが2人に撤退と言う事は許されない。

もし2人が離れたら無人機は無差別に重火器を放つだろう。

そうなれば被害は甚大になるだろう。

箒「織斑先生！早く生徒の避難を！」

千冬『っ、す、すまないし、ののの…』

すぐさま千冬に連絡を取ろうと繋げると苦しそうな顔をしている千冬が映る。

それに箒は驚いた顔で言う。

箒「どうしたんですか!?!まさか発作が起きたんですか!?!」

束『なんかそうみたい!後、あの無人機が来たと同時にISアーリーナの遮断シールド

が勝手に作動して他の生徒達が閉じ込められちゃったんだよ！しかも設定されたのより固いプロテクトされてて必死に解除してる所だから2人だけで頑張つて!!」

聞く筈に東が変わりに答えて現状を伝えると集中したいのか通信を切る。

箒「どうやら私達だけでやる事になるみたいだな」

麗奈「そうみたいだね」

そう交わしながら2人は無人機に向き直る。

その時麗奈は知らなかった。

自分の胸元が光っていた事に：

☆

一方外ではサイバトロンが無人機集団と戦っていた。

ライオコンボイ率いるアパッチ、ビッグホーン、タスマニアキッド、スクーバ、ダイバー、スカイワープにサントンとバシンコンボイにデストロン軍団とタイガトロンが出迎えていた。

ギガストーム「アングルモアフレーム！」

スカイワープ「ウインギャリバー・剣の舞!!」

ヘルスクリーム「テールワインダー！」

ダイバー「ダイバーシャボン！」

それぞれが自分達の武器で無人機を撃墜して行く。

バシンコンボイ「フォースチップ！イグニッション！！」

一方のバシンコンボイは咆哮するとその体から放たれた光が天空へと行き上空に渦を巻き起こす。

その後に上空の渦の中から飛び出してきた物、フォースチップがバシンコンボイの後ろ腰のスロットに装填された後にバシンコンボイの両肩のパーツが分離してそれぞれ3つの爪の様になるとバシンコンボイの両腕に鉤爪の様に装着される。

バシンコンボイ「ライジングクロー！！」

装着された爪でバシンコンボイは向かって来る無人機を両断して行く。

タイガトロン「地よ水よ風よ！拙者に力を貸してくれ！！」

離れた場所では自然の力を借りてタイガトロンの無人機を撃退して行く。

ライオコンボイ「これ以上I S 学園の生徒達が集まってる場所に近づかせるな！

…っ

アパッチ「どうされたんですかライオコンボイ！」

指示を出していたライオコンボイが左胸を抑え出した事に近くにいたアパッチが慌

てて聞く。

ライオコンボイ「この痛み：アパッチ、此処の指揮を任せて良いだろうか？」

アパッチ「は、はい！」

何かを感じ取ってそう指示するライオコンボイにアパッチは敬礼するのを見届けてライオコンボイはビーストモードになって急いで駆け出す。

向かうは I S 学園のアリーナ：

☆

無人機の攻撃を避けている箒と麗奈は攻撃をし続けるが予想通り I S の武装ではダメージを与えられてなかった。

さらに先ほど無人機の攻撃が掠っただけでシールドエネルギーが大幅に激減したのに驚いた後に当たらない様に動く。

しかも閉じ込められて避難出来ない生徒へ当たらない様に上空を飛んでいるが避ける事に神経を使っていて徐々に疲れが溜まって行く。

逆に無人機は疲れを知らずに 2 人を追い詰めて行く。

すると、遮断シールドが開き、生徒達は教師の誘導の元、避難していく。

麗奈「良かった」

箒「！避ける麗奈!!」

避難していく様子に気が緩んでしまった麗奈は箒の声に自分に攻撃が向かっているの
に気づいて慌てて避けるが掠ってしまい、シールドエネルギーがなくなつてISが消え
てしまう。

麗奈「しまっ!？」

箒「麗奈!?!くっ!」

それにより地面へ落下する麗奈に箒は救出に向かおうとするが無人機がそれを邪魔
する。

麗奈「うわああああああああ!!?!」

絶叫しながら落下して行く中で麗奈の脳裏にある光景が浮かぶ。

それは必至に崖らしい場所で誰かが落ちない様になっている光景。

なんとか這い上がろうとして掴んでいた所が崩れ落ちて落ちかけた時、何かに掴まれ
る。

???『諦めるな!我が息子よ!』

捕まれた人物に助けた存在は言う。

ほとんどばやけて誰なのか分からないが麗奈にはなぜか温かく感じた。

誰もが麗奈に叫んだ時:

???「諦めるな!」

麗奈「!?」

聞こえて来た声に麗奈は驚いた後に襟首を掴まれる。

麗奈を掴んだ存在、それは白いライオンであった。

白いライオンは背に乗せた後にそのまま着地し、麗奈は恐る恐る降りる。

簪「あれは…」

本音「白いライオン！」

蜜「で、でもなんで此処にぶーん？」

避難しかけていた者達や簪たちは現れた白いライオンに戸惑う。

箒「麗奈！大丈夫か！」

麗奈「う、うん…けれどこのライオンは…」

白いライオンに警戒してか砲撃を止めた無人機を見ながら近付いて聞く箒に麗奈は

答えた後に白いライオンを見る。

すると麗奈の胸元が青く輝き、それと共に白いライオンは痛みに耐える様に右前脚で

胸を抑える。

箒「麗奈、何か光っているぞ」

麗奈「？もしかして」

箒に指摘されて麗奈は胸元から何かを取り出す。

それは青い球体であった。

白いライオン「つう、この痛み、そしてマトリックス…やはり君は…」

麗奈「ライオンが喋った!？」

箒「まさか、ハインラッド達と同じ…」

顔を顰めながら何か確信を持った白いライオンから出た言葉に麗奈は驚き、箒が言うとする前に無人機から来た攻撃に箒は麗奈を抱き抱えて白いライオンと避ける。

そして白いライオンは無人機を睨み付ける。

白いライオン「貴様にこれ以上我が子を傷つけさせはしない！」

麗奈「え!？」

箒「我が子？」

発された言葉に麗奈と箒は驚いている間に白いライオンは攻撃を避け…

白いライオン↓ライオコンボイ「ライオコンボイ!変身!!」

変形すると共に白いライオン、ライオコンボイは着地する。

麗奈「ライオ…コンボイ!!」

箒「コンボイとはまた別のコンボイ!?それよりあの姿!？」

ファイティングポーズを取るライオコンボイに麗奈は目を見開き、箒はその姿に驚く。

本音「ねえねえ、あのロボットさんの姿」

簪「うん……麗奈の専用機に似てる」

それは本音達も同じでライオコンボイを驚いて見ている。

ライオコンボイ「うおおお!!」

それを知らずにライオコンボイは駆け出し、無人機は攻撃を放つ。

攻撃をライオコンボイはサイドステップで避けた後に接近し：

ライオコンボイ「ライオクロー!!」

鉤爪を展開して無人機を攻撃して行く。

ライオコンボイ「ライオミサイル!ライオビーム!」

続けざまにミサイルとビームを浴びせて行く。

簪「あの武装に姿……ほとんど麗奈の専用機にそっくりだ……」

麗奈「う、く……」

無人機を圧倒して行くライオコンボイの戦いに簪はそう呟くと麗奈は頭を抑えて膝を付く。

簪「!?どうした麗奈!」

麗奈「あ、頭が……」

いきなりの事に驚く簪に麗奈は呻いているとライオコンボイの攻撃によりポロポロ

になって火花を散らす無人機が2人を狙いを付ける。

ライオコンボイ「!ません!」

それに気づいたライオコンボイは2人の前に立つと同時に無人機は砲撃を放つ。

ライオコンボイ「ライオタイフーン!!」

右肩のライオンの顔の鬣は回転させることで防御シールドを作って砲撃を防いだ後に竜巻を作り出して無人機を包み込む。

無人機は強烈な回転にそのまま巻き上げられて行き…

ドカーーーーン!!!

最終的に爆発した。

箒「麗奈!しつかりしろ麗奈!」

ライオコンボイ「むっ!」

爆発を見届けたライオコンボイは箒の声に振り返ると倒れた麗奈の姿が目に入った。

ライオコンボイ「どうした!」

箒「頭を押さえた後に意識が無くなって」

ライオコンボイ「早く救護班を!」

訳を聞いてすぐさま指示を出したライオコンボイは束に連絡を入れる箒を尻目に麗奈を見る。

ライオコンボイ「……………っ」

苦しむ様に顔を歪めている麗奈にライオコンボイは左胸を抑える。

第8話：再会する獅子と大帝

前回から少し経ち、クラス対抗戦は中止されて気を失った麗奈は医務室に運ばれていた。

麗奈「ん……」

箒「目が覚めたか麗奈」

呻いた後に目を開ける麗奈に箒は声をかける。

麗奈「箒……それに……誰？」

箒に目を向けた後に隣にいた人物、スカイワープを見て聞く。

それにスカイワープは落ち込む。

箒「彼は私達を助けてくれたライオコンボイの部下だ。確か……」

スカイワープ「スカイワープだ。それよりも無事で良かったです若」

説明する箒のを引き継いでスカイワープがそう言う。

麗奈「若？それって僕の事を言ってるのか？」

スカイワープ「はい、若に起きている事は聞いております」

目をパチパチさせて聞く麗奈にスカイワープは頷いて答える。

麗奈「…教えてくれないか？僕は何者なんだ？そしてライオコンボイは僕を我が子と呼んだ理由を！」

スカイワープ「…：それなんです、流石にいきなり全部話すのは本人の頭に強烈な痛みをするだろうからライオコンボイには全てを話すのはもう少ししてからと言う事で止められてるんです」

頼み込む麗奈にスカイワープは申し訳ない口調でそう答える。

聞いた麗奈はそうか…と呟いた後に微笑んで言う。

麗奈「けれどありがとう。僕を心配してくれて」

スカイワープ「いえ、我々も若が無事で安心しました…ってサントンお前はそろそろ中に入ったらどうなんだ？」

そう言つて入口を見て言うスカイワープに箒と麗奈も見るとサントンが扉の前で挟まっていた。

サントン「いやー、どうやら雑煮を食べ過ぎた象」

それにスカイワープはよろけて、箒と麗奈は寒さに体を抑える。

スカイワープ「ベタなオヤジギャグは止める!!嫌いだと言つただろ！」

サントン「象もすいません」

麗奈&箒「さ、寒い…」

怒鳴るスカイワープにサントンは悪びれもなくまた言つて麗奈と箒は体を震わせる。

鈴「どうしたの箒!? 寒いので!? なら私が揉んで温めてあげるわ!」

セシリア「箒さん大丈夫ですか! 私めも手伝いますわ!」

箒「いやちよ、ま!」

そこに鈴とセシリアがサントンを押しのけて入つて来て箒に抱き付く。

鈴「ちよつとあんた! 邪魔しないでよ!」

セシリア「邪魔なのはあなたですわ!」

箒「ふ、2人とも良いから!」

一夏「あはは;」

タイガトロン「色々騒いではいけないのではござろうか;」

ぎやあぎやあ騒ぐ面々に後から入つて来た一夏は苦笑してタイガトロンはそう洩らす。

それに麗奈はふふつと笑う。

☆

一方、茶道部が使う室内でガルバとピーストモードのライオコンボイが向かい合つて

いた。

ガルバ「こうやってお前と向かう合う日がまた来るとはな」

ライオコンボイ「私もだガルバトロン……いや、今はガルバだったな」

着物を着て茶を点てながら言うガルバにライオコンボイは言つてからガルバが先ほど点てて出した抹茶を飲む。

飲み終えてふうと息を吐く。

ライオコンボイ「お粗末様でした」

ガルバ「ふん。それであの小僧はライオジュニアで間違いなかった訳か」

茶碗を置くライオコンボイにガルバはそう言う。

ライオコンボイ「そう言うからには分かつていた訳か」

ガルバ「ふん、姿かわれどあの時感じた力を忘れはせん。まあ、あっち側は無くして
る様だな」

そう返した後にガルバは正座したままライオコンボイを見る。

ライオコンボイ「それで彼女、麗奈についてどこで保護したか教えて欲しい」

ロボットモードになったライオコンボイは正座した後にガルバを見て本題を聞く。

ガルバ「詳しく聞きたいのなら楯無に聞け」

ライオコンボイ「麗奈を拾ったその楯無と言う子はお前の後ろにいる少女かな？」

??? 「あらあらくガルバ先生以外に気付かれてましたか」

そう言うガルバの後に指摘来たライオコンボイにガルバの後ろから驚く様に呟いた声が出た後に少女が現れる。

その手に握られた扇子には驚き!と書かれている。

ガルバ「前に言った筈だ楯無、お前はIS学園生徒では最強だがワシの様にその最強以上の存在がいるとな」

少女↓楯無「確かにそうですね：私は更識楯無と言います。麗奈ちゃんを保護した者ですわ」

ライオコンボイ「ライオコンボイと言う。我が子を保護してください感謝する」
名乗る楯無にライオコンボイも名乗って頭を下げる。

楯無「1つ伺いたいのですがなぜ麗奈ちゃんを我が子と言うのでしょうか？」

ライオコンボイ「それについてはこれを見て貰えば」

そう問う楯無にライオコンボイは左胸のを展開し、中身を見せる。

楯無「!?その球体はもしかして麗奈ちゃんが持つてるのと同じ…」

ライオコンボイ「これはマトリックス：私や他のコンボイクラスのトランスフォーマーが持つ特殊な部品で、彼女の持つマトリックスは私のから分裂したのなんだ」

そこにあつたのを見て驚く楯無にライオコンボイの言った事に疑問を持つ。

楯無「少し質問を…なぜ姿も種族も違う彼女があなたから分裂したのを持っているのですか？」

ライオコンボイ「…信じられないかも知れないが彼女、いや彼は私達トランスフォーマーと同じ種族だったのだ」

質問して帰って来た言葉に楯無は目を丸くする。

楯無「同じ…いえ、それよりも彼と言うのは？」

ライオコンボイ「言葉通りの意味だ。本名はライオジュニア、とある事で誕生した私の息子だ」

出て来た言葉に楯無は眉間に皺を寄せる。

楯無「ライオコンボイ、話が本当だとしてなぜライオジュニア君は獅子麗奈ちゃんへと変わったのか分かりますか？」

ライオコンボイ「ああ、これは私とは別のコンボイから聞いた話だが…麗奈がなぜ今へと変わったかはある事で起きた時空の穴に吸い込まれたからだ」

詳しく知る為に問う楯無にライオコンボイは言う。

楯無「時空の穴ですか？」

ライオコンボイ「ああ、その穴に吸い込まれた人間ではない存在は一部はその世界に合わされる様にその世界の主な種族の姿へと強制的に変えられるのだ」

首を傾げる楯無にライオコンボイは頷いて説明する。

楯無「成程：だから麗奈ちゃんは：もう1つ聞きたいのですがあなたの所属するサイバトロンは麗奈ちゃん以外に来た目的はあるんですか？」

ライオコンボイ「あるにはある：だが、私達を送って来た存在から話す事は他言無用と言われているんだ」

まあ、それはしようがないわねと聞いた楯無はそう漏らす。

☆

生徒寮の管理人部屋にて：

來奈「うん。今は君の中のは落ち着いてるね」

千冬「そうですか：」

東「良かったねちーちゃん」

真那「ホントですね」

パソコンを見ながらそう言う來奈に病院で見るCTスキャンの様なのに病院着を着せられて寝かさされていた千冬は呟いた後に東と真那はホツとする。

千冬「このお腹とはホントにあの時から長く付き合うが慣れないものだ」

東「そうだね…」

自分のお腹を撫でながら呟く千冬に東はなんとも言えない顔で同意する。

千冬のお腹の中に宿っているのは赤ちゃんではない。

宿っているのは…複数のISコアである。

なぜ彼女の中にISコアがあるのか…それは千冬誘拐の時である。

優勝をした後、1人落ち着いていた所を油断して気絶させられてしまい、彼女は誘拐された者に女性が持つ器官、子宮に数個のISコアを入れられてそのまま赤子の様に定着したのだ。

なぜそうしたかはそれをした女性は喋らなかつた。

いや、喋らなかつたと言うより喋れないと言うのが正しい。

軍より拘束された後、捕まった女性は侵入した何者かにより千冬に関連する記憶が消えてしまったのだ。

それにより千冬は選手を引退し、ISの教師となった。

ただ、入れられたISコアの時たま発作の様な症状が起きる様になったのだ。

その際は真那や東が看病している。

真那「あの、千冬さんのお腹の中にあるISコアはホントに取れないんですか？」

來奈「無理だね。なんとかしようにもホントに赤子の様にでしかも普通の赤ちゃんの

様に墮兎なんて事も出来ないからね」

聞く真那に來奈は困惑も混ざった厳しい顔でそう言う。

束「なんとか取り出す方法が見つかれば良いのにね」

千冬「そう…だな…」

困った顔で言う束に千冬も頷いてお腹を撫でる。

第9話：誕生！百獣の守護者 マグナコンボイ！

前回から3日、麗奈はうーんと背伸びしていた。

その後ろにはビーストモードのスカイワープとサントンがいる。

スカイワープ「若、調子はいかがですか？」

麗奈「大丈夫だよ。それよりも安定にで動けない分運動をしたいよ」

サントン「それについてはしようがない。警備体制やシールドの強度の見直しで部屋に待機だったからな」

そう聞くスカイワープに麗奈はそう返してサントンがそう言う。

前回のも含めた2回による無人機の襲撃により、IS学園は3日間の休校になり、生徒一同は外出せずに寮での待機を言われたので寮にジツとするしかなかったのだ。

スカイワープ「よろしければ我々が組手の相手になりましたでしょうか？」

麗奈「良いのかい？」

サントン「我々は若の部下です。若の手助けを出来なかった分するつもりだぞう」
申し出るスカイワープに問う麗奈へサントンはそう言う。

麗奈「ありがとう。そう言えばライオコンボイは来てるの？」

サントン「アリーナのエネルギーワールドについて話しあつてゐる所だぞう」
礼を言つた後に気になつたのかそう聞く麗奈にサントンはそう答える。

☆

一方、ライオコンボイとコンボイは会議室で楯無と束と共に話しあつていた。

楯無「これを貰つちやつて良いの？」

コンボイ「ああ、我々として手に余らせてるよりそちらの防衛システムのエネルギーとして使えるんじゃないかと思つてね」

目の前に置かれた3つの結晶体の1つを持つて聞く楯無にコンボイはそう答える。

ただ：と前置きしてコンボイは真剣な顔をする。

コンボイ「外部から結晶体に強大なエネルギーを直接受けると大爆発する恐れがあるから慎重に扱つて欲しい」

楯無「そ、それは怖いわね；」

束「つまり下手に別のエネルギーを当てなければ良いつて事でしょ？ならだいいじよぶだいいじよぶ！束さんにお任せだよ!!」

忠告に楯無は扇子に『物騒』と浮かばせながら冷や汗を掻く隣で束が樂觀的に笑う。

コンボイ「頼もしいがホントに注意してくれ、君達に何かあったら提供した者として心臓が悪いからね」

東「心配性だね」

念押しするコンボイに東は肩を竦める。

ライオコンボイ「所で彼女、麗奈は大丈夫かい？」

楯無「ああ、彼女だったら大丈夫ですよ。ただ、運動できないってぼやいてましたよ」
そう聞くライオコンボイに楯無はくすくす笑いながら返す。

そんなライオコンボイにコンボイは苦笑する。

例え身内だろうと厳しいライオコンボイだが内心心配していて結構気にしているのだ。

☆

箒「む、麗奈じゃないか」

鈴「ヤッホー」

サントンとスカイワープと共に広い場所に向かっていた麗奈は途中で鈴に抱き付かれてる箒と出会う。

麗奈「やあ、今日も仲良しだね2人共」

鈴「当然、転校するまで一緒だったもんね♪」

箒「その度に胸を揉んで拳骨貰ったのを忘れてないだろうな?」

箒「そう言う麗奈に笑顔で言う鈴に箒はジト目で見る。」

麗奈「ちなみに2人はどうして?僕はちよつとした運動をしようとするの先の広い場所に向けて歩いてただけだ」

箒「ああ、ちよつとした散歩だ」

鈴「私は付き添い」

聞いてから自分のを言う麗奈に箒も答えて鈴もいる理由を言う。

麗奈「一夏やセシリアは?」

箒「一夏はタイガトロンと一緒に來奈さんと世間話、セシリアは読書だそうだ」

鈴「簪や本音は本音のお姉さんの手伝いをしてるわね」

この場にいる2人について聞く麗奈に箒と鈴は答える。

箒「もし良かったら私達も付いて行って良いか?」

麗奈「別に良いよ」

申し出る箒に麗奈は了承した後5人は目的の場所へ向かうのであった。



戻ってコンボイの方ではどこに設置するかなどの話しあいをしていた。主にコンボイと東が設置する場所をどうするかで言い合っていた。

東「東さんの此処かな？」

コンボイ「成程…だがそれはそれでもしもの場合を考えると…」

そんな話しあいを楯無は『長考』と書かれた扇子を持ちながら見ていて、ライオコンボイもじっとしてる。

ピーピー

ライオコンボイ「？こちらライオコンボイ。どうしたアイ？」

アイ『大変ですライオコンボイ！任務に出ていたビッグコンボイから緊急連絡が来たんです！』

すると通信が来て、出て聞かされた事になんだったと叫ぶ。

コンボイ「こちらコンボイ。何があつたんだ？」

アイ『先ほど任務でとある施設に突入したビックコンボイから緊急連絡が入ったんです。報告によると男性を見下す女性やISにより仕事を失った科学者がそこでISを破壊する為の殺戮兵器を作っていたそうです。それが今、IS学園に向かっているんです。』

！」

ライオコンボイ「殺戮兵器がIS学園に!」

その声に気付いて通信に割り込むコンボイにアイが報告して出て来た言葉に束と楯
無は驚く。

ドカーーーーン!!!

それと共に外から爆発音が聞こえて来る。

コンボイ「くっ!遅かったか!」

爆発音にコンボイは叫んだ後にその場にいた3人と駆け出す。

☆

爆発場所

スカイワープ「どわっ!」

サントン「スカイワープ!くっ!」

何かに吹っ飛ばされるスカイワープにサントンは叫んだ後に来た攻撃に腕で顔や体
を守る。

麗奈「2人共!」

箒「待て麗奈！出たら危ないぞ！」

鈴「そうよ！と言うかあいつ等何なのよ！」

それに出ようとした麗奈を箒が止めて、鈴はスカイワープとサントンを攻撃する集団を見る。

目的の場所に着いて、いざ運動を開始しようとした時に突如、5機の謎のロボットが現れたのだ。

ロボットは箒達を見ると攻撃を仕掛けて来て、それにスカイワープとサントスが応戦に出た。

それに箒達もISを展開して参加しようとしたがISが纏った瞬間にISが機能停止したのだ。

いきなりの事に驚いていた3人へロボットは攻撃を仕掛けようとし、それにロボットモードになったスカイワープとサントスが庇った。

このままで足手まといだと考えて3人はISを解除して隠れているのだ。

スカイワープ「こいつ等……一体何者だ？」

サントン「分かる事は若や2人を狙っていると言う所だぞう」

肩を上下させながら呻くスカイワープにサントンは攻撃を受けた所を抑えながら言う。

するとロボット達は飛び上ると共に変形を始める。

まず隊長機と思われるロボットが手足を引っ込めた後に2体のロボットが両腕、残った2体が両足を形成すると隊長機と合体すると巨大なロボットへとなる。

鈴「が、合体した!？」

ライオコンボイ「スカイワープ!サントン!」

それに鈴が驚いているとピースモードになったライオコンボイと空中からロボットモードのままのコンボイに自分の専用機であるミステリアス・レイデイを纏った楯無が到着する。

ガクン!

楯無「きやあ!？」

コンボイ「楯無!」

突如、楯無が落下し、落ちかけた所をコンボイが慌ててキャッチして地面に降ろす。

コンボイ「大丈夫かい?」

楯無「ええ…けれどココまでとは…」

ライオコンボイ「これがビッグコンボイの言っていたISを機能停止にするという機能を付けたロボットか!」

麗奈「ISの機能を停止するロボット!？」

安否を聞くコンボイに楯無はミステリアス・レイディを待機形態に戻しながら呻く隣でライオコンボイが来る途中で聞いた詳細を思い出しながら巨大ロボットを見る。

巨大ロボットは両腕や両足に付いたビーム砲で攻撃を仕掛ける。

それにコンボイ達はかわして行くが巨大ロボットの無差別な砲撃に手が出せない状況になる。

しかもサントンとスカイワープは麗奈達を守る為に壁になっている。

スカイワープ「ぐうぬう！」

麗奈「サントン！スカイワープ！」

サントン「こんなの、若と離れていた時に比べたら平気だぞう」

叫ぶ麗奈にサントンは安心させる様に振り返って笑う。

それに麗奈は悔しさに手を握りしめる。

過去の記憶がない自分を慕い、庇ってくれている2人を助けたいと心の中で力強く願う。

その時、不思議な事が起こったのです。

麗奈が強く願うと共に彼女の胸元にあったマトリックスが強い輝きを放ち始めたのです。

コンボイ「これは！」

ライオコンボイ「マトリックスの光!」

巨大ロボットもいきなりの事で砲撃を止める中で麗奈が取り出したマトリックスカ
ら光が5つ放出されると2つは傷ついたサントンとスカイワープを包み込み、残りの3
つはIS学園へと飛んで行きます。

☆

束「うわ!」

待機していた束はいきなり来た光に驚く中で3つの光がコンボイとライオコンボイ
が運んで来た水晶体の入っていた3つの箱を包み込む。

“トランステクター、システム、起動。適合情報、スキャニング”

いきなりののに戸惑う束をそのままに箱から音声が流れた後に光の壁が展開されて回
転を始める。

☆

タイガترون「これは!?!」

一夏「スキャンビーム!?!」

それは向かおうとしていたタイガトロンや一夏に他のサイバトロンやデストロン達も気付く中で光の壁は一部の者達をスキャンしていた。

☆

麗奈「今のは一体……」

コンボイ「ライオコンボイ！」

ライオコンボイ「ああ、トランスステクターが起動した！」

光の壁に誰もが驚く中でサントンとスカイワープを包み込んでいた光が晴れるとそこにはメタリックなゾウと驚となったサントンとスカイワープがいた。

スカイワープ「な、これは!？」

サントン「トランスメタルスになったのかぞう!？」

変わった自らの姿に2人はそれぞれ驚く。

しかも体が少し大きくなっていた。

スカイワープ「なぜか分からないが……やるぞサントン！スカイワープ！変身！」

サントン「サントン変身！」

2人は戸惑いながらチャンスと考えてロボットモードになろうとする。

.....ひゅ~~~~~

なろうとしたが……すぐになれる筈のロボットモードになれなかった。

スカイワープ「あ、あれ？」

サントン「コンボイ指令、この体に保証書は付いてるかぞう？」

コンボイ「なんだろうな……デジャビュを感じるよ……」

戸惑う2人にコンボイは顔を抑えて言うと言うと今まで静観していた巨大ロボットが2人へ狙いをつけ……

巨大ロボット「!？」

横からの衝撃に吹き飛ばす。

それに誰もが驚いて巨大ロボットを吹っ飛ばした存在を見る。

吹っ飛ばしたのは……全身がメタリックのライオン、白い虎、青いノコギリザメであった。

鈴「な、何あれ!？」

箒「機械の動物たち？」

ライオコンボイ「まさか……」

現れた3体の動物たちに箒達が驚く中でライオンが咆哮するとマトリックスがまた輝く。

ライオコンボイ「麗奈、彼らに名前を付けてあげるんだ」

麗奈「え？」

次々と起こる展開に戸惑う麗奈へそう言うライオコンボイに麗奈はなぜと考える。

ライオコンボイ「彼らは生まれ立ての存在で君をゴッドマスターに選んだ。だから君が彼らの名前を付けてあげるんだ」

麗奈「名前って……」

理由を説明するライオコンボイに話の中に出て来たゴッドマスターが分からない麗奈は戸惑いながらライオン達を見る。

ただ、麗奈にはなぜか彼らを見てると安心する気持ち湧き上がる。

さらに目を瞑ると共に脳裏に新たな映像が流れた。

それは1人のロボットとスカイワープ、サントンが合体して巨人となる映像。

続いては懐かしさを感じる名前：

麗奈「…君達の名前はマグナシャーク、マグナタイガー、そしてライオマグナだ！」
顔を上げて目を開くと共に麗奈はライオン達の名前を叫ぶとライオン、ライオマグナの目が輝くと共に青いノコギリザメ、マグナシャークと白い虎、マグナタイガーにサントンとスカイワープの目が輝く。

さらに麗奈は頭の中に来た知識のもと次なるプロセスに入る。

麗奈 「ライオマグナ! マグナシャーク! マグナタイガー!」

スカイワープ 「スカイワープ!」

サントン 「サントン!」

咆哮すると共にライオマグナ達は並走した後にサントンが前に出ると背中 of 装甲を展開して姿勢を低くする。

続いてライオマグナが飛んでサントンの上に来ると前足を折り畳み、後ろ足も180度回転させた後に前足上の所にジョイントが現れる。

そんなライオマグナの右側にマグナシャーク、左側にマグナタイガーが来てその体を変形させて後ろ部分にジョイントを繋げる部分を出すとスカイワープがライオマグナの上に来る。

麗奈&スカイワープ&サントン 『百獣、合体!』

3人の叫びと共にライオマグナの背中にスカイワープが着地すると共にマグナシャークとマグナタイガーがライオマグナのジョイントへ合体してライオマグナは降下してサントンと合体する。

その後にライオマグナは咆哮するとサントンが変形し腰と足に変わった後にライオマグナの顔が前に少し出るとスキマが出来て、その出来た所にスカイワープが翼で挟み

込む様に合体すると尾羽が起き上がり、反転するとライオコンボーイに見覚えのある顔が現れる。

その顔は尾羽の部分で鬣の様なものが付いてるが自分の息子、ライオジュニアの顔であつた。

麗奈『ゴッド——オン！』

最後に麗奈の身体が光に包まれた。

その姿を確認できないほど強く輝くその光は、やがて麗奈の姿を形作り——そのまま合体したライオマグナと同等の大きさまで巨大化すると、その身体に重なり、溶け込んでいくと現れた顔の瞳が赤く輝く。

最後にサントンの鼻が分離すると剣へとなり、左腕となったマグナタイガーの口に握られる。

麗奈↓マグナコンボーイ『知恵と希望と勇気と優しさと仲間への愛！5つ揃って！合体司令、マグナコンボーイ！！』

飛び上り、一回転した後にはポーズを取って今なっている名前を叫ぶ。

コンボーイ「マグナコンボーイ！」

鈴「と言うか麗奈が!?!」

箒「なんと!?!」

着地するマグナコンボイにコンボイや他のメンバーが驚く中で巨大ロボットはマグナコンボイへ砲撃を仕掛ける。

マグナコンボイ「ノーズブレードスパイラル!!」

それに対しマグナコンボイは左手になってるマグナタイガーの顔を高速回転させると握られた剣、ノーズブレードによる防壁が出来上がってビームを防ぐ。

砲撃がやむと共にマグナコンボイは接近する。

マグナコンボイ「シャークスナート!」

そのまま右手になってるマグナシャークの吻で切り裂き、続けざまにノーズブレードで斬ってまたマグナシャークの吻でと繰り返し斬る。

箒「す、凄い」

鈴「ホントね」

ギガストーム「なんじゃこりゃあ!?!」

圧倒するマグナコンボイに箒と鈴には固唾を飲んでる中でタイガトロンと一夏、他のサイバトロンやデストロンの面々が到着する。

その後には戦うマグナコンボイを見る。

ダイバー「な、なんやあのトランスフォーマー!?!」

キッド「一体誰なんだよライオコンボイ?」

ライオコンボイ「彼女はマグナコンボイ、トランスメタルスしたサントンにスカイワープに3体のトランステクターが合体して麗奈がゴッドオンしたトランスフォーマーだ」

アパッチ「彼女が?!しかもトランステクター3体!?!」

マグナコンボイ「エレファントキック!」

誰もがライオコンボイの説明驚く中でマグナコンボイは飛び上った後に巨大ロボットに連続蹴りを叩き込んで行く。

叩き込まれる連続蹴りに巨大ロボットは耐えきれずに吹っ飛んで地面に倒れる。

スカイワープ《今です若!》

サントン《止めを決めるんだゾウ!》

マグナコンボイ「了解!」

起き上がるうとしている巨大ロボットを見てそう言うスカイワープとサントンにマグナコンボイは答えると共に必殺技の体勢に入る。

マグナコンボイ&スカイワープ&サントン『フォースチップ、イグニッション!』

マグナコンボイである麗奈とスカイワープ、サントンの咆哮が響き、その声に答えるかのようにフォースチップが飛来し、合体前のライオマグナの背中に当たる所に存在す

るチップスロットへと勢いよく飛び込んでいく。

そのまま全身が光り輝き、それぞれのアニマルの瞳が輝く。

マグナコンボイ『天地咆哮! ビーストストリーム!!』

咆哮と共に全身からエネルギー光波を放ち、光波はマグナコンボイが合体する前の5体のビーストトランスフォームへと変わった後に起き上がった巨大ロボットへと炸裂する。

自らの体に走るダメージに巨大ロボットは火花と煙を体中から迸らせた後によりけた後に仰向けに倒れると爆発四散する。

戦いが終わったのを示す様に胸のライオンが吠える。

ビッグホーン「おお! やったのじゃい!」

ブレイク「くうくうギンギラギンに燃えたぜ!」

それと共に誰もが賞賛する。

賞賛を受けながらマグナコンボイは左腕で鼻に当たる部分を擦る。

☆

夕方

コラーダ「ひえ〜大きくなったな先輩方」

マツハキツク「確かにカーロボットチームと変わんねえな」

待機するライオマガナにマガナシャークとマガナタイガーと並ぶサントンとスカイワープにサイバトロンメンバーは各々に言う。

サントン「変身出来ないと思った時焦ったゾウ」

スカイワープ「まさか合体してロボットの姿になるって言うのがな…」

スタンピー「マガマトロンを思い出させる感じだよね〜」

ロングラツク「確かに言われると…まあ、あつちは3体だけど」

鼻で頭を搔くサントンに同意する様にしみじみ言うスカイワープを見てスタンピーが言つてビックコンボイ部隊の面々は確かにと納得する。

麗奈「あ、あの…」

ライオコンボイ「ん？」

そんなライオマガナ達を見ていたライオコンボイに麗奈は恐る恐る話しかける。

しばらくモジモジしていたが意を決したのか麗奈は顔を上げてライオコンボイを見る。

麗奈「僕は前の記憶を全然持つてない。だからこれを言う資格があるかどうか分からないけど…あなたを、あなたを父さんと呼んで良いかな？」

ライオコンボイ「……………」

不安げに自分を見上げる麗奈にライオコンボイは無言でいたが背を向けて歩き出す。それに麗奈はやっぱ駄目だったと顔を伏せて思った時：

ライオコンボイ「1つだけ条件がある」

麗奈「え？」

背を向けたまま発されたライオコンボイの言葉に麗奈は顔を上げる。

ライオコンボイ「戦いの時、私の事は呼び捨てにするんだ。その代わり私も君をマグナコンボイと呼ぶ。良いね？」

麗奈「!う、うん!分かったよ父さん!!」

振り返って聞くライオコンボイに麗奈は笑顔を浮かばせて言う。

2人のやり取りに誰もが笑い合う。

ライオマグナ達も嬉しそうに吠える。

獅子麗奈&マグナコンボイの詳細

獅子 麗奈

外見：猫耳風の髪型の青い髪を腰まで伸ばし、綺麗な赤い瞳のスバル・ナガシマ
概要

IS学園に所属する2組の代表を務める少女

実は時空の穴に吸い込まれてIS世界に人間になったライオジュニアである。

ただ、ライオジュニアとしての記憶を失っている。

専用機としてライオコンボイを模した白獅子を持つ。

性格はライオジュニアのから変わらない。

ライオマグナ

外見：百獣戦隊ガオレンジャーのガオリオンのカラーリングをビーストモードのライオジュニアのにした感じ

概要

麗奈をマスターとした獅子型トランステクター。

スキヤニング元はライオコンボイ。

ロボットモードは存在しない。

マグナコンボイになる際は胴体を構成している。

フォースチップをイグニッションするチップスロットが背中にある。

マグナシャーク

外見：百獣戦隊ガオレンジャーのガオソーシャークのカラーリングをガオシャークのに変更してゐる。

概要

麗奈をマスターとしたノコギリザメ型トランステクター。

スキヤニング元はヘルスクリーム。

ロボットモードは存在しない。

マグナコンボイになる際は右腕を構成している。

マグナタイガー

外見：百獣戦隊ガオレンジャーのガオタイガーのカラーリングをメタルスタイガトロンのに変更して。

概要

麗奈をマスターとした虎型トランステクター

スキヤニング元はタイガトロ

ロボットモードは存在しない。

マグナコンボイになる際は左腕を構成している。

メタルススカイワープ

外見：百獣戦隊ガオレンジャーのガオイーグルのカラーリングをスカイワープのに変更して。

概要

麗奈の持つマトリックスの光を受けてトランスメタルスへと進化したスカイワープ見た目が変化していてロボットモードにはなれない。

マグナコンボイになる際は頭部を構成している。

ちなみに名前をトランステクター達に合わせようか悩み中

メタルスサントン

外見：サントンの外見をメタリックにした感じ

概要

麗奈の持つマトリックスの光を受けてトランスメタルスへと進化したサントンスカイワープと違いこちらは変形機構が変化していてロボットモードになれない。

マグナコンボイになる際は腰と脚部と鼻は剣を構成している。

名前はマグナサントンでも良いかなと考え中

マグナコンボイ

概要

ライオマグナ、マグナシャーク、マグナタイガー、メタルススカイワープ、メタルスサントンが合体して麗奈がゴッドオンする事で誕生したトランスフォーマー

麗奈主導で動く。

合体プロセスはライオマグナ達は並走した後サントンが前に出ると背中の中身を展開して姿勢を低くし、続いてライオマグナが飛んでサントンの上に来ると前足を折り畳み、後ろ足も180度回転させた後に前足上の所に収められてるジョイントを展開、ライオマグナの右側にマグナシャーク、左側にマグナタイガーが来てその体を変形させ

て後ろ部分にジョイントを繋げる部分を出すとスカイワープがライオマグナの上へ、ライオマグナの背中にスカイワープが着地すると共にマグナシャークとマグナタイガーがライオマグナの展開されたジョイントへ合体してライオマグナは降下してサントンと合体、その後にはライオマグナは咆哮するとサントンが変形し腰と足に変わった後にライオマグナの顔が前に少し出るとスキマが出来て、その出来た所にスカイワープが翼で挟み込む様に合体すると尾羽が起き上がり、反転すると顔が現れ、麗奈がゴッドオンした後にサントンの鼻が分離して剣へとなり、左腕となったマグナタイガーの口に握られる事で完了する。

武器に右腕のマグナシャークの吻にメタルスサントンから分離したノーズブレード。

得意技はマグナタイガーの顔を回転させてノーズブレードによる防壁を作る『ノーズブレードスパイラル』、マグナシャークの吻で切り裂く『シャークスナート』、飛び上った後に連続蹴りを放つ『エレファントキック』

必殺技はフォースチップをイグニッションする事で放つエネルギー光波『ビーストストリーム』

第10話：おいでませ五反田食堂と謎の少女

サイバトロン基地にてビッグコンボイはライオコンボイと共にマグナコンボイの戦いの映像を見ていた。

ビッグコンボイ「マグナコンボイ…記憶を無くしてるとはいえなかなかやりますね。ライオコンボイの子は」

ライオコンボイ「ありがとう。しかしISを機能停止にさせる殺戮兵器…まさか倉田正影から提供されてたとは…」

そう褒めるビッグコンボイにライオコンボイは礼を言った後に目の前に展開された凶面を見てそう洩らす。

凶面は前回、ビッグコンボイが突入した所にあつた麗奈たちを襲い、マグナコンボイに倒されたロボットののである。

調べた所、指名手配されている倉田正影が送って来たのであつた。

アイ「ライオコンボイ、インセクトロンのビッグモスから連絡です」

ライオコンボイ「繋げてくれ」

そんなライオコンボイへ報告したアイはラジャーと答えて操作すると画面に先ほど出ていたビッグモスが現れる。

ライオコンボイ「こちらライオコンボイ、搜索はどうなってるんだいビッグモス？」

ビッグモス『残念ながら進歩していない。それだけ奴は身の隠し方が上手いみたいだ。その代わりとしてなんだが新たなトランステクターを見つけた』

そう聞くライオコンボイにビッグモスはそう報告する。

ビッグコンボイ「また新たなトラステクターが？」

ビッグモス『ああ…ただ、見つけたのがな…』

???『ミー達だミー!!』

なんとも言えない顔をするビッグモスを押し切ってセミが画面を占領する。

出て来たのにああ…とライオコンボイとビッグコンボイは先ほどのビッグモスの様子に納得する。

ライオコンボイ「DJ、君達が見つけたんだね」

DJ『YES!ブンブン飛び回ってたら転がってたのを見つけたんだミー!』

??? 2 『しかも2つと言う大手柄でアーム!』

??? 3 『アミーゴ!』

苦笑して言うライオコンボイに元気よく言うDJの後にカプトムシとロボスターが割り込む。

DJと同じチームのモーターアームとギムレットも加わつてのにホントに騒がしい奴らだなとビッグコンボイは呆れる。

☆

簪「(うずうず)」

本音「かんちゃん落ち着きなよ」

楯無「まあ、しょうがないわよ」

一方、一夏と箒、鈴とセシリアに麗奈と本音、簪、楯無に本音の姉である虚が一緒に歩いていた。

ワクワクする簪に楯無と本音は苦笑し、虚は微笑ましそうに見る。

一夏「もうすぐだからね」

鈴「それにしても久しぶりねあそこに行くのは」

箒「確かに鈴は引っ越し以来だな」

そんな簪に一夏が言う隣で箒の腕に絡み付いて言う鈴に箒も同意する。

羨ましそうに見ていたセシリアは前を見て声を出す。

セシリア「あ、もしやあれですか？」

それに他のメンバーも見えて知ってる3人は頷く。

一夏「うん、あそこだよ」

鈴「変わってないわね〜五反田食堂」

懐かしそうに言って駆け出す鈴に他のメンバーも続く。

??? 「だ〜か〜ら！ワシが考えたのがええじゃろうが！」

??? 2 「値段とコストを考えろ！此処は食堂なのだから貴様の考えたのでは不釣り合い

だ！」

近付いて行って聞こえて来たのに誰もが何だ？と思う中で一夏と箒はまたかと呆れ、

鈴はあーとなる。

一夏「まーたやってるよ。あの2人」

箒「ことあるごとに言い争っているな」

鈴「今もやってるんだあの2人、変わらないわねこれも」

そう言つて3人は入つて行き、戸惑つたがセシリア達も続いて入る。

中に入ると成人男性位の女性2人がにらみ合っていた。

1人は野性的に感じる赤髪で緑色の瞳の持ち主、もう1人はキリツとした顔立ちで水

色の腰まで来る髪に赤い瞳の持ち主であった。

セシリア「あの箒さん。あのお2人は？」

箒「赤い髪の女性は赤蟹（あかがに）大（だい）さん。もう1人は水☒（みずえ）電（でん）さん。電さんは元軍人でもある」

榎無「水☒ 電：聞いた事あるわ。厳格で単独行動に出やすい事から同僚から憎まれていたけどその行動力と機転で幾つもの問題を解決した凄腕の女軍人」

虚「ただ、ISが登場してから軍を退役し、今はプロレスラーになったそうですね。もう1人の赤蟹さんもプロレスラーで電さんとライバル関係だそうですね」

???「そうそう。んでプロレスの予定がない時はウチで働いてくれるって訳です」
紹介する箒のを聞いてそう言う榎無のを補足した虚のを肯定してつけ加えた声に一同は顔を向ける。

そこにいたのは赤い長髪にバンダナを巻いた少年がいて、鈴があつと声をあげる。

鈴「弾じゃない。久しぶり！」

弾「おう、久しぶりだな鈴、中国でも元気にしてたか？」

笑顔で言う鈴はそう返す少年、弾に当たり前よと答える。

セシリア「あの、箒さん、彼は？」

箒「こいつは五反田食堂の息子である五反田 弾だ」

弾「紹介されたように五反田弾って言います。こいつ等とは小さい頃からの付き合い、鈴は小学校からの付き合いです」

話しかけて来た弾を見て聞くセシリアに箒は紹介し、紹介された弾は鈴や箒、一夏を除いたメンバーに会釈する。

虚「こちらこそ」

楯無「(おんや〜)」

挨拶する虚の顔がほんのり赤いのに楯無は気付いてニヤニヤする。

簪「止めなくていいの？」

弾「ああ、大丈夫大丈夫。そろそろ……」

???「こらー!!」

言い争ってる2人を見て言う簪は手を振ってそう言うのと怒鳴り声と共に言い争っていた2人の頭を誰かがハリセンで叩く。

叩いたのは弾と同じ髪色でバンダナを付けた少女であった。

ああ、やつぱりと箒と一夏、鈴が思っていると少女はむすつとした顔で言う。

少女「2人共いつも言ってるけどそう言うのはウチに相談してからやって!お爺ちゃんだつていきなり出されても困るだけだからね!」

大「す、すまん」

電「…えーい」

ぶんすかと怒っていた少女は一夏達、特に箒に気付くと顔をパーと輝かせた後に鈴を見てそれをすぐ消して睨む。

少女「帰ってんだ揉み魔」

鈴「ほほう、言うわね抱き付きっ子」

売り言葉に買い言葉を交わしてにらみ合う2人に久々に始まったと弾は顔を手で覆う。

一夏「蘭ちゃんは何時も通りだね」

箒「そうだな…」

セシリア「(むむむ)」

そんな2人に苦笑する一夏と箒に対してセシリアはそう言うのが出来る鈴と蘭と呼ばれた少女に嫉妬する。

本音「ねえねえくあの子はダンダンの妹さん？」

弾「(ダンダン;) ああ、五反田 蘭。俺の妹で…箒の毒牙にかかった1人だ」

箒「おい待て弾。なんだその言い方は!?!」

話しかける本音に弾の言った事に箒は噛み付く。

弾「いやだってお前の胸に埋もれた後に心地良いとかでIS学園に行くまで抱き付い

ているあいつを見てそうとしか言えねえよ」

箒「む、胸の事は言うな！」

半目でそう言う弾に箒は胸を庇う様にするがそれに弾はそう言うのをやるからあいつが揉もうとするんだらうなと思つた。

一夏「それで弾、今回はこれ関係で来たんだけど…」

弾「お？了解だぜ」

そんな2人に苦笑していた一夏は弾に指で何かを描いて言うと言はそれで理解してこつちだと歩きだす。

箒「ほら行くぞ2人共」

鈴「あ、待ちなさいよ」

蘭「待つてください！」

にらみ合っている2人に箒は声をかけると2人は慌てて続く。

弾に続いて歩くと店の裏に着く。

なぜ此処なのかとセシリア達が思った時、前の建物の壁が光つたと思つたら…

???? 「いやゝ今日も逃しちやつたなゝ」

2 「ホント、赤い車にナンパするのを飽きないな」

2人のロボットが会話しながら現れて、驚いているセシリア達に気付く。

ただ、楯無と簪には懐かしい顔でもあった。

弾「ようスピードブレイカーにゴッドマグナス、今日も来たんだな」

???↓スピードブレイカー「あつたり前だろ。此処は良い休憩所だからな」

???2↓ゴッドマグナス「そうだな。静かな所も良いがこう言う所もなかなか」
気楽に話しかける弾に2人もそれぞれ返す。

楯無「久しぶりスピードブレイカー！」

簪「ゴッドマグナスも」

そんな2人へ楯無と簪が駆け寄る。

駆け寄った2人にスピードブレイカー達はじーと見た後にあつと声を上げる。

スピードブレイカー「もしかして刀奈と簪か！うわ久しぶり!!」

ゴッドマグナス「誘拐されかけた時以来だな。その様子じゃあ元気にしてたみたいだな」

簪「うん。また会えて嬉しい」

楯無「ホント久しぶり。後、今は楯無と名乗ってるから楯無と呼んで欲しいわ」

はしやぐスピードブレイカーの隣でそう言うゴッドマグナスに簪は頷き、楯無がそう
言つて『お願い』と書かれた扇子を見せる。

スピードブレイカー「分かったぜ楯無」

「ゴツドマグナス」んで、こいつらがいるのはオマエが連れて来たんだな一夏」
一夏「うん。そうなんだ」

了承するスピードブレイカーの後にそう言うゴツドマグナスに一夏は頷く。

簪「何時から知り合いなの？」

弾「そうだな：俺と蘭がとある時にある事件に巻き込まれてそれが切っ掛けになつたな」

一夏「それで僕と簪ともね」

気になつたので聞く簪に弾がそう答え、一夏も続く。

楯無「そうだったので：どうせなら連絡してくれればいいのに」

スピードブレイカー「いや／＼実はちよつと諸事情で色々と忙しかつたんだよ：」

ゴツドマグナス「しかも住所と電話番号も聞くの忘れてたしな」

そう言つた楯無に返した2人のに誰もがあゝとなる。

確かに住所を聞いてなきやあ分からないもんである。

本音「事情って何かあつたの？」

スピードブレイカー「あー……：わりい。これ身内話だからちよいと話せねえんだ」

ゴツドマグナス「すまないと思つてるが、理解してくれ」

虚「まあ、仕方ありませんね」

出て来たので質問する本音だがスピードブレイカーとゴツドマグナスは困った顔で
そう言い、そう言うのには詳しい虚と楯無も仕方ないと頷く。

弾「まあ、とにかく色々と話したらどうです？最近の話とか」

麗奈「良いねそれ」

鈴「ならば最近の箒の胸の成長を」

箒「言うな！」

そう提案する弾に麗奈も同意した後の鈴に箒が張り倒すと誰もが笑いあう。

その後は話に花を咲かせて夕方まで話したのであった。

☆

その夜、暗い夜道をパトカーが走っていた。

運転していた女刑事は一度パトカーを脇道に止めてからうーんと背伸びする。

女性「くくくく…色々大変だったが、今の体”にやつと慣れて来たな”

肩を揉みながらそう呟いた後に女性は今の所平和だな…と呟いた時

女性「むっ？」

画面に何かの反応が出ると女性は厳しい顔をしてすぐさまパトカーを走らせる。

少しして止まった後にパトカーのライトで辺りを照らす。

女性「!やはり!」

そして目の前に不思議な穴が宙にあるのに気づいてすぐさま連絡を取る。

女性「こちら野音(やおと)警(けい)!サイバトロン基地、応答願う!!」

しばらくして画面にアイが写る。

アイ『どうしたの?』

警「エリアAにて時空の穴を視認!様子からして出口側と思われる。至急応援を…つ

!

報告してる途中で穴がバチバチしだす。

警「穴から何かが出て来る!応援を早めに頼む!」

アイ『了解!気を付けてね!』

そう言うのと警は穴を見て警戒する。

すると、穴から1人の少女が現れて地面へと落ちて行く。

警「!?!いかん!ゴッドオン!!」

距離からこのままでは死んでしまうと警はそう言うのと光に包まれ、パトカーと一体化

した後に走らせ:

マッハアラート「マッハアラート!トランスフォーム!!」

変形すると共に本来の姿であるトランスフォーマーとしての姿となつて激突寸前だった少女をキヤッチする。

マツハアラート「ふう…怪我は…」

安堵の息を吐いた後にマツハアラートは軽くサーチする。

少女は服が所々ボロボロだが頭を打った以外に怪我は見られなかったが頭にダメージを受けていると言うので早めに精密な検査をしなければならぬ。

マツハアラート「早く来てくれると嬉しいが…ぐっ！」

少女を地面に横たわらせて眩いた後に体中から電気が漏れ始める。

マツハアラート「ご、ゴッドオフ…」

膝を付いてそう言うのとマツハアラートは光りに包まれると元のパトカーになり、運転席で警は息を荒げる。

警「はあはあ…やはり数秒だけしか元に戻れないのはきついな」

スピードブレイカー「兄貴」

息を整えながらそうぼやいた警の所にスピードブレイカーとゴッドマグナスが来る。

ゴッドマグナス「大丈夫かマツハアラート？」

警「あ、ああ…ちよつと少女を助ける為に元の姿にな…」

スピードブレイカー「数秒だけしかかなれないってマジきついよな…」

ロボットモードにトランスフォームして近寄って聞くゴッドマグナスに警は頷き、スピードブレイカーは少女に近づいて聞く。

警「と、とにかく基地に運ぼう。彼女が何者なのかを調べる為に」

ゴッドマグナス「そうだな。スピードブレイカー、頼む」

スピードブレイカー「OKマグちゃん！」

そう言う警にゴッドマグナスは頷いて少女をスピードブレイカーに乗せて3人はサイバトロン基地へと向かう。

突如現れた少女、彼女は一体…

第11話：異世界より来たりし、記憶喪失の少女

前回から2日後、サイバトロンの基地にて穴から現れた少女は精密検査を受けていた。

その傍では運んだスピードブレイカーやゴッドマグナス以外にライオコンボイとビッグコンボイにコンボイもいた。

コンボイ「彼女の具合はどうなんだいアイ？」

アイ「頭を強く打ってはいますが命に別状はありません。ただ、脳にどの様な影響が起きているか……」

結果を聞くコンボイにアイはそう答える。

スピードブレイカー「しっかし何者なんだこの子？」

ゴッドマグナス「確かにな……こいつは純粹な人間なのか？それとも人間にさせられた奴なのか？」

アイ「そこも調べた結果、彼女は純粹な人間。そこにあるのが彼女の所持品よ。ただ一部が時空の穴の影響で壊れちゃってるみたいだけど」

首を傾げて呟くスピードブレイカーとゴッドマグナスにアイはそう答える。

ライオコンボイは置かれていた荷物で通信端末の様なのを手に取る。

見た目的に壊れていないが操作しようとする反応しないので壊れているというの
は間違いない様だ。

スピードブレイカー」と言うかこのカードに描かれてる奴らは誰なんだ？」

コンボイ「……もしや」

ライオコンボイ「心当たりがあるのかいコンボイ？」

その後にはスピードブレイカーが並べられた少女が描かれたカードを見て眩く中で思
い当たる様子のコンボイにライオコンボイは質問する。

コンボイ「ああ、見た目と雰囲気からしてこの絵の少女たちは『プリキュア』ではな
いかと思うんだ」

ゴツドマグナス「プリキュア？なんだそりやあ？」

スピードブレイカー「そうそう。どう言う存在なんだよ総司令？」

出て来た言葉に誰もが気になる。

コンボイ「我々をこの世界へと移動させた彼から聞いた話だが…プリキュアとは、平
和を脅かす者達が現れし時に妖精に選ばれ、平和の為に戦う伝説の戦士と言われた少女
たちだ。その人数は様々な世界に存在するから数えられないと言う」

ビッグコンボイ「そんな存在がいたんですか…」

スピードブレイカー「んじゃあこの子もプリキュアの可能性があるって事？」

答えたコンボイにビッグコンボイは驚き、スピードブレイカーは少女を見て首を傾げる。

その問いにはたぶんなどコンボイは答える。

アイ「あ、コンボイ総司令官。ブレイクが篠ノ之博士をお連れしたとの事です」

コンボイ「分かった。此処に案内してくれと伝えてくれ」

そう報告するアイにコンボイがそう指示して少しすると束を連れてブレイクが来る。

束「やあやあ、束さんが来たよ。それで要件は何かな？」

コンボイ「ご足労感謝する篠ノ之博士。実はこの通信端末を直してほしいんだ」

呼び出した件について聞く束にコンボイはそう言うつてからライオコンボイが通信端末を束に手渡す。

束「ふむふむ…中身がイカれてるから束さんの出番と言う訳だね。任せたまえ！」

ドンっ！と大きな胸を叩いてから近くのデスクに通信端末を置いてからどこからもなく工具を取り出して早速分解する。

束「ふむふむ、此処のパーツがイカれてるね。んで、ここも…あ…こりやあデータ

も一部欠損してる可能性あるね…んでここは…」

コンボイ「直せるのかい？」

中を見てぶつぶつ言いながら調べる束にコンボイは質問する。

束「一応ね。ただ一部のデータが欠損してるからそっちの復元に関しては時間をかける事になるね。使えるようにならずに直せるよ」

ライオコンボイ「流石は天才と言われた人だ」

まあねんと褒めたライオコンボイに答えながら様々なパーツを取り出して束は修理して行く。

束「はい、完了」

ブレイク&スピードブレイカー&ゴッドマグナス「はやっ!？」

そしてカバーを付け戻して言う束に上記3人は驚き、その手早さにコンボイは感嘆の息を漏らす。

コンボイ「流石、來奈の弟子さんだね」

束「へへへ：んでまあ、これなんなの？なんか変わったデータあったし」

褒めるコンボイに束は照れた後にそう聞く。

コンボイ「そうだな。君にも話しておこう」

そう言つてコンボイはプリキュアについて話す。

束「なにそれ箒ちゃんを変身させたい」

ゴッドマグナス「妹の了承なしにやろうとするなよ；」

話を聞いて目を輝かせる束にゴツドマグナスは釘を刺す。

その時だった：突如置かれていた沢山のプリキュアが描かれたカードがふわりと浮かび上がる。

スピードブレイカー「うえ!?!何が起こるんだ!?!」

それにスピードブレイカーはゴツドマグナスの後ろに隠れるとカードは通信端末に現れたスリットを通って行く。

すると画面が輝き、そこから映像が流れだす。

映し出されたのは丁度寝ている少女がプリキュアに変身する所であった。

ビッグコンボイ「これは…」

アイ「もしかすると彼女のこれまでの記録かも!」

束「おー見るからに忍者っぽいな〜」

それに誰もが見続ける。

様々なプリキュアとの共闘や1人での戦い…そして…

スピードブレイカー「おいおいおいおい…」

ゴツドマグナス「マジかよ」

次の光景に誰もが絶句する。

野心を持った者により起こりし戦争でのプリキュア同士の戦い、その中で起こりし

数々の悲劇。

誰もが言葉を出せないまま映像は戦いが終わり、自身が付いた所が偽りだった事にシヨックを受けて彷徨っていた少女が時空の穴に吸い込まれる所で終わり、消えて行く。

ビッグコンボイ「コンボイ…」

コンボイ「………立場を利用しての法案を作り、それを切っ掛けで戦争を起こし、あまつさえプリキユア達を戦わせ合わせるとは…」

振るえる拳を握り締めて怒気を放つコンボイに誰もが同意だった。

束「確かにきついね。んでこの子は騙されていたけど黒幕が作り出した組織へと付いていた…大丈夫なのかな？」

スピードブレイカー「だ、だけどよ。騙されてたんだぜ。しかもその前のをみると俺達と同じじゃねえか」

少女が自分達に危害を加えないかと言動に含んで聞く束にスピードブレイカーはそう言う。

ゴッドマグナス「いいてえ事は分かるぜスピードブレイカー…だがな、それで心が壊れて自暴自棄になって暴れまくる可能性もあるぞ」

スピードブレイカー「そ、そうだけどよ…」

ゴツドマグナスの言い分も正論でもあるので口ごもるスピードブレイカーだったが少女が声を漏らし出したのでそつちに顔を向ける。

少女「つ……ここは？」

コンボイ「目が覚めたかい？」

頭を抑えながら体を起こす少女にコンボイは話しかける。

人間ではないコンボイに少女は驚いて警戒する。

少女「だ、誰？」

コンボイ「驚かせて済まない。私はサイバトロン総司令官のコンボイと言う。周りの皆は私の仲間さ。君の名前を聞かせてくれても良いかな？」

警戒する少女にコンボイは自己紹介して安心させる様にして聞く。

少女「名前……つ！名前が思い出せない……それに……私は……誰なんだ？」

スピードブレイカー「思い出せないって……記憶喪失になっちゃってるのか？」

ゴツドマグナス「みたいだな……これも時空の穴を通った際に頭を打った影響か」

聞かれた事に少女は頭を抑えて呻く様子に呟くスピードブレイカーにゴツドマグナスは腕を組む。

束「これにも見覚えがない？」

通信端末を見せる束だが少女はじつと見るが首を横に振る。

ライオコンボイ「覚えていないか…」

東「まあ、もうちよい時間をかけてデータを修復すれば名前とか分かるだろうしなんならパワーアップも「止めて！」うえ!？」

ふうむと呟くライオコンボイの後にそう言った東のに突如少女は叫び、誰もが驚いて見る。

少女「止めて…パワーアップは…止めて…」

スピードブレイカー「だ、大丈夫か？」

ゴツドマグナス「いきなりどうした？」

顔を青くする少女にスピードブレイカーは慌てて、ゴツドマグナスは問う。

少女「わ、分からない。けれどパワーアップと聞いたら嫌な気分になって…」

ビッグコンボイ「記憶のある時に何かあったのだろうか…」

そう答える少女にビッグコンボイが呟く中で考えていたコンボイが顔を上げる。

コンボイ「スピードブレイカーにゴツドマグナス、君達はブレイクと篠ノ之博士と共にこの子をIS学園に連れて行って貰えないだろうか？」

ブレイク「?どうして彼女も一緒に?」

そうお願いするコンボイにブレイクは問う。

コンボイ「此処にいるより同年代の女の子がいる場所の方がゆっくり出来ると思っ

ね。それに篠ノ之博士もその修理は自分の所でやった方がやり易いと思ってね」

東「まあそうだね」

スピードブレイカー「分かったぜ総司令！君もそれで良いか？」

少女「え、あ…うん」

ゴツドマグナス「んじゃあ善は急げだな。行こうぜスピードブレイカー」

おう！と東と少女、ブレイクと共にスピードブレイカーとゴツドマグナスは出て行く。

それをコンボイ達は見送る。

☆

別の場所で…

???「ふうん…此処に飛ばされて来たのね…」

はるか上空で司祭をモチーフにした衣装を纏い、三つの眼を模した装飾を持つサークレットを頭に付けた女性がいた。

顔は左目が包帯で包まれていたが女性は徐に包帯を外すと晒された左目はケガをしてなく、ぱっちり開く。

??? 「……………見つけたわよ。あなたを殺してあげるわ：○○○○○○！」

憎悪の炎を目に宿しながら女性はそう言って移動を開始する。

記憶を失いし少女と憎悪を燃やす女性：一体彼女たちは：

第12話：強襲！キュアメイガスと覚醒！その名はキュアスパイ！

鈴「あー…暇ね（もみもみ）」

箒「そう言いながら私の胸を揉むな！」

広場でぼーとしながら箒の頭に顔を乗せて箒の胸を揉みながら呟く鈴に箒はしやがみ込んだ後にアツパーを食らわせる。

鈴「だって弾の所に行った日からまだ休校状態が続くって退屈じゃない！ほとんど箒の胸を揉む以外ないじゃない！」

箒「私の胸を揉む事以外ないのか貴様は！」

セシリア「そうですね！勉強とかないのですか！」

そう叫ぶ鈴に箒は顔を赤くして叫び、一緒にいたセシリアも叫ぶ。

鈴「ない！箒の胸しか眼中なし！」

箒「威張るな!!」

箒「そう言えば…一夏は？」

本音「そう言えばイッチーいないね」

同じ様に見ていた簪が気になったのかそう眩き、本音も聞くと3人は同時に顔を逸らす。

簪「その、一夏はな…」

セシリア「ええ、そうですね…」

鈴「今は一夏の事は話さない方が良いかな…」

ほんのり顔を赤くして言う3人に何があつたんだろうと簪と本音は思っていると目の前が光つた後にスピードブレイカーとゴツドマグナスが飛び出す。

スピードブレイカー「ほい着地」

ゴツドマグナス「到着だ」

そのまま着地した後に束とブレイクに少女が降りる。

簪「スピードブレイカーにゴツドマグナス。こんにちわ」

スピードブレイカー「オッス！遊びに来たぜ」

簪「姉さんお帰り、呼ばれた事はもう終わつたんですか」

束「まあね。だけどちよいとやる事あるから行くね！」

挨拶する簪とスピードブレイカーの隣でそう話しかける簪に束はそう言うとしゅっぱ！と走って行く。

ブレイク「はええな…」

セシリア「あの、この方は？」

それにブレイクは呆れた顔をする中でセシリアが少女について聞く。

スピードブレイカー「あー…その子は二日前に意識を失っていた状態で保護されたんだけど、記憶喪失になっててさ」

ゴツドマグナス「だからどこから来たのかも検討が付いてねえんだよ。気晴らしに連れて来たんだ」

鈴「そうなの？」

少女「う、うん…それにしても…」

答えるスピードブレイカーとゴツドマグナスのに確認する鈴に少女は頷いた後に箒を見る。

正確に言うなら箒のどたぶんな胸をである。

箒「な、何見てるんだ!？」

少女「いや、その…大きいな…と…分からないけど、小さいから羨ましく思ってた」

鈴「はっはっはっ、Cはある癖にぬかしおる」

胸を庇う箒にそう言った少女に鈴は半目で笑う。

セシリア「確かに普通に鈴さんより胸はありますからね」

鈴「うむ、普通に小さくないでしょう」

少女「うーん…だけど小さいと思う」

本音「モツピーの様な胸の大きい人が周りに沢山いたのかな」

簪「本音…それは確かにコンプレックスになりそう…と言うか私が今なりかけてる」

そう言うセシリアに鈴も同意する中で少女はまだ腑に落ちない感じで本音の言った事に簪は自分の胸を掴みながら落ち込む。

スピードブレイカー「俺達には入れない話題だねマグちゃん」

ゴツドマグナス「そうだな」

ブレイク「確かに」

そんな少女たちの会話を男性陣はぼけろと見ていた。

平和なひと時はその直後に破られた。

ゴツドマグナス「！あぶねえ!!トランスフォーム!!」

それに気づいたゴツドマグナスはすぐさまトランスフォームして簪の前に立ち…

ゴツドマグナス「マグナレーザー!!」

飛んで来た暗黒の光へと向けて放ち、爆発させる。

簪「な、なんだ!?!」

スピードブレイカー「また無人機か!?!」

誰もが飛んで来た方を見るとそこにいた存在に驚く。

鈴「お、女の人!」

セシリア「ISがないのに浮いてる!」

そこにいたのは女性でセシリアの言う通り、ISを纏ってないのに浮かんでいるのだ。

ゴツドマグナス「何者だ!」

女性「私?私は悪意の魔眼」

ゴツドマグナスの問いい女性は笑った後に一回転し:

キュアメイガス「キュアメイガス」

少女「キュア:メイガス?」

ブレイク「まさかプリキュアか!」

スピードブレイカー「けど攻撃してきたって事は:」

名乗るキュアメイガスにブレイクとスピードブレイカーは警戒する。

キュアメイガス「ええ、あなた方の敵よ。特にあなたのね蜂須賀ルリカ!」

少女「え?」

そう言つて指さされた少女は戸惑いを隠せずについて、その反応からキュアメイガスは成程:と呟く。

キュアメイガス「どうやら記憶を失っているようね。ならば好都合。戻る前に消して

あげるわ」

そう言つてキュアメイガスは殺意を向け、箒とセシリアはルリカの前に出る。

スピードブレイカー「そんな事させねえ！スピードブレイカー！トランスフォーム！！」

ブレイク「ブレイク！変身！！」

それにスピードブレイカーとブレイクはロボットモードになるとゴツドマグナスと並び、箒とセシリア、鈴と簪もISを纏う。

前回の襲撃事件もあつて専用機持ちは万が一を考えて緊急の事態が起きた際は無許可で纏えるようになったのだ。

簪「本音、その子と離れてて」

本音「は、はい！」

振り返つて言う簪に本音は頷いて少女を連れて離れる。

ブレイク「ブレイクアンカー！」

スピードブレイカー「エグゾーストボウガン！！」

キュアアヌビス「おおっと」

先手必勝とブレイクとスピードブレイカーが攻撃を仕掛け、キュアメイガスはあつさり避けると箒が雨月を持って攻撃を仕掛ける。

キュアメイガス「物騒ね」

箒「不意打ちで攻撃してきた奴が何を言う!」

避けながらそう言うキュアメイガスに箒は返しながら雨月を振るう。

続けているのを避けた所にキュアメイガスへと向けてレーザーが飛んで来る。

キュアメイガスはそれを避けてから見るとスターライトmkIIを構えたセシリアとマシンガンを構えた箒がおり、箒の攻撃で避けた所を狙う。

2人の攻撃にキュアメイガスは身をよじって避けていると衝撃が来る。

鈴「良し!命中!」

箒「良いぞ鈴!」

うっし!とばかりな鈴を見てからキュアメイガスはやれやれとぼやく。

キュアメイガス「流石にこの人数で1人はきついわね」

ゴツドマグナス「だったらどうする?降参するのか?」

まさかとキュアメイガスはそう返すと斬りかかったスピードブレイカーのを避ける

と共に:

キュアメイガス「増援を呼ぶだけよ。あなたの記憶から読み込んで」

そう言つてスピードブレイカーの頭に左手で触れた後に光らせてから箒の斬撃攻撃を避ける。

スピードブレイカー「お、俺今何されたの？」

キュアメイガス「色々目白押しね：なら！来なさい！プリキュア・サモンメモリーズ!!」

地面に降り立ち、そう言つて左手を付き出すと妖しい光りが迸り、それに誰もが目を隠し、収まった後に目を開けるとそこにいた存在に驚く。

鈴「そ、双頭の龍!? しかも機械の!？」

スピードブレイカー「あ、あれは!？」

ゴツドマグナス「デビルドラゴンだと!？」

吠える双頭の龍に鈴が驚く中で見覚えのあるスピードブレイカーとゴツドマグナスは驚く。

ブレイク「な、なんでこいつが!？」

キュアメイガス「驚いたかしら? けどまだまだいるわよ」

ゴツドマグナス「なんだと!?! どういうお!?!」

話を聞いていたのかさう言うブレイクにキュアメイガスはそう言い、ゴツドマグナスは問おうとして横からの攻撃に慌てて避ける。

スピードブレイカー「デビルバット!?! しかもデビルノドンまで!?!」

箒「み、見ろ!?! あっちには機械の像がいるぞ!」

ゴツドマグナスを攻撃したのにスピードブレイカーが驚くと箒が別の方向を指して叫ぶ。

スピードブレイカー「『デビルエレファントもいるのかよ!?!』」

ゴツドマグナス「なんで同一である箒の奴が複数存在してるんだ!?!」

キュアメイガス「ふふ、やっちやいなさい!」

驚く一同を前にキュアメイガスは命令する。

その言葉と共にデビルドラゴンが双頭の口から火炎弾を放つのを切っ掛けに攻撃が始まる。

ブレイク「あぶなっ!?!」

鈴「ひゃあ!?!」

それに誰もが慌てて避ける。

火炎弾を避けたブレイクと鈴へとデビルエレファントが襲い掛かる。

ブレイク「おお!?!」

鈴「この!」

突進を避けた鈴は双天牙月を取り出して斬りかかる。

それにデビルエレファントは牙で応戦する。

箒「くっ!動きが早い!」

セシリア「箒さん！この！」

こちらはデビルバットやデビルノドンと戦っているが早く動くので箒は苦戦し、簪とセシリアも援護するが避けられてしまう。

スピードブレイカー「うおっと！」

ゴッドマグナス「このマグナバルカン!!」

デビルドラゴンにスピードブレイカーとゴッドマグナスが火炎弾を避けながら攻撃する。

キュアメイガス「ふふ、トランスフォーマーと言うのもなかなか良いわね」

そう言った後にキュアメイガスは離れて様子を見ていた少女と本音へと顔を向ける。

キュアメイガス「さて、邪魔者がいないから…」

???「アンゴルモアフレーム!!」

少女へと攻撃しようとしてキュアメイガスは飛んで来た火炎弾を上へ飛んで避ける。

ギガストーム「何やってやがるんだサイバトロンドも！五月蠅くて準備ができないじゃないか！」

ヘルスクリーム「あら？見慣れないのもおりますね」

スピードブレイカー「ギガストーム！」

ゴッドマグナス「ナイスタイミングで来てくれるぜ！」

そう言って現れたデストロンにゴッドマグナスはそう言う。

ダージガン「何やら見られないのけつたいな女がおりますな…ギガストーム様、どうするんでつか?」

ギガストーム「ふん。姉ちゃんがいる事でやる気満々だ!ダージガン!スラストール!ヘルスクリーム!マックスビー!邪魔ものを排除して再開するぞ!」

スラストール「アイアイサー!」

ヘルスクリーム「了解です」

マックスビー「マックスラジャー!」

麗奈「皆!」

そう指示するギガストームの後にライオマグナに乗った麗奈とサントン達にISを纏った楯無が来る。

楯無「これは凄いわね」

スカイワープ「若!合体を!」

サントン「ああ言うのは合体した方が良いぞう!」

麗奈「良し!行こう!」

デビルドラゴン達を見て呟く楯無の後に麗奈はスカイワープとサントンの提案に乗って合体に入る。

麗奈「ライオマグナ！マグナシャーク！マグナタイガー！」

スカイワープ「スカイワープ！」

サントン「サントン！」

咆哮すると共にライオマグナ達は並走した後にサントンが前に出ると背中の装甲を展開して姿勢を低くする。

続いてライオマグナが飛んでサントンの上に来ると前足を折り畳み、後ろ足も180度回転させた後に前足上の所にジョイントが現れる。

そんなライオマグナの右側にマグナシャーク、左側にマグナタイガーが来てその体を変形させて後ろ部分にジョイントを繋げる部分を出すとスカイワープがライオマグナの上に来る。

麗奈&スカイワープ&サントン『百獣、合体！』

3人の叫びと共にライオマグナの背中にスカイワープが着地すると共にマグナシャークとマグナタイガーがライオマグナのジョイントへ合体してライオマグナは降下してサントンと合体する。

その後ライオマグナは咆哮するとサントンが変形し腰と足に変わった後にライオマグナの顔が前に少し出るとスキマが出来て、その出来た所にスカイワープが翼で挟み

込む様に合体すると尾羽が起き上がり、反転すると顔が現れる。

麗奈『ゴッド——オン！』

最後に麗奈の身体が光に包まれた。

その姿を確認できないほど強く輝くその光は、やがて麗奈の姿を形作り——そのまま合体したライオマグナ達と同等の大きさまで巨大化すると、その身体に重なり、溶け込んでいき、現れた顔の瞳が赤く輝く。

最後にサントンの鼻が分離すると剣へとなり、左腕となったマグナタイガーの口に握られる。

麗奈↓マグナコンボイ『知恵と希望と勇気と優しさと仲間への愛！5つ揃って！合体司令、マグナコンボイ!!』

飛び上り、一回転した後にポーズを取って名を叫ぶ。

ギガストーム「足を引っ張るんじゃないぞ」

マグナコンボイ「それはこっちのセリフだ」

そう交わした後にギガストームとマグナコンボイはデビルドラゴンへと向かう。

ギガストーム「テールストーム！」

尻尾を振るい竜巻を起こすギガストームのにデビルドラゴンは吹き飛ばされない様に踏ん張る。

マグナコンボイ「シャークスナート!!」

そこにマグナコンボイがマグナシャークの吻で斬撃を入れる。

超音波を放つデビルバットには同じ超音波を使うダージガンが相手をして相殺し、楯無も加わった事で押して行く。

キュアメイガス「あらら、また逆転しちゃったかしら」

スラストール「何者かは知らへんけど、こんなあいつ等よりライオコンボイの方がよっぽど質悪いわ!」

そう呟くキュアメイガスにトラッシュユホーンでデビルエレファントを凍らせたスラストールがそう言う。

それを聞いたキュアメイガスはほくそ笑む。

キュアメイガス「そう、そのライオコンボイが強いつて訳ね」

スラストール「そや!さらにギガストーム様の兄上であるガルバトロン様も強いんですよ!」

ゴッドマグナス「ば、バカ!それ以上言うな!」

確認する様に聞くキュアメイガスにスラストールが叫ぶが彼女の意図に気づいたゴッドマグナスが止めようとするが遅く、キュアメイガスはスラストールへと接近して頭を掴む。

スラストール「な、何するんや!!」

キュアメイガス「あなたの記憶、読ませて貰ったわ!プリキュア・サモンメモリーズ!!」

そう言つてキュアメイガスは手を再び輝かせ、誰もが目を守り、収まった後に驚く。そこにいたのは明るい紫色の龍とライオコンボイが立っていた。

スピードブレイカー「げげっ!?今度はライオコンボイを出しやがった!?」

ギガストーム「兄ちゃんの偽物だど!」

キュアメイガス「やりなさい!」

それにスピードブレイカーは叫び、ギガストームも驚く中でキュアメイガスの命令に偽ライオコンボイはライオタイフーンと共にミサイルを放ち、偽ガルバトロンビーストモードは火炎放射を放ち、さらにデビルドラゴンとデビルノドンも攻撃に加わる。

スピードブレイカー&ブレイク&ダージガン&スラストール「うわああああああ!!」

ヘルスクリーム「のおおおおお!!」

マックスビー「!?」

箒&セシリア&鈴&簪「きやああああああ!!」

マグナコンボイ&ギガストーム&ゴッドマグナス「ぐああああああ!!」

楯無「皆！」

それに避けた楯無を除いたメンバーはダメージを受けて押されてしまう。

キュアメイガス「ふふ、凄いわ。さて…」

苦戦するスピードブレイカー達から本音や少女へと顔を向けたキュアメイガスは杖を取り出してそれにエネルギーを纏わせる。

少女「あ、ああ…」

本音「こ、この子には指一本触れさせないよ」

キュアメイガス「そいつを守るの…ならば一緒に葬ってあげる」

そう言つて杖を振り上げるキュアメイガスに本音は少女を守る様に抱き抱える。

キュアメイガス「蜂須賀ルリカ、罪を抱いたまま死ぬがいい!!」

本音「！（ギョッ）」

そのまま接近してキュアメイガスは2人へと振り下ろす。

簪「本音!!」

ガキン!!!

その瞬間、誰もが驚く。

目を閉じていた本音も衝撃が来ない事に気づいて目を開けてみる。

??? 「へへ、間一髪だったな」

目に入ったのはキュアメイガスの杖を木刀で止める暴走族のコートみたいなのを羽織っている黒髪の少女であった。

キュアメイガス「何が起きたの？」

少女2「怯えている女に対し危害を与えると、恥を知りやがれ!!」

まさか木刀で止められると言う事に驚くキュアメイガスに少女2はそう言うて蹴りを叩き込む。

スピードブレイカー「だ、誰だあいつ？」

楯無「大道寺ほむら!?!なんで彼女がここに!?!」

戸惑うスピードブレイカーの隣で楯無が本音や少女を助けた少女を見て叫ぶ。

ブレイク「知り合いか？」

楯無「え、ええ：同じクラスの子よ」

本音「番長」

少女「何で：見ず知らずな私を助けたの？」

目を輝かせる本音の隣で少女は自分達を助けた少女、ほむらへと問う。

ほむら「困ってる人間を助けるのに理由があるのか？困ってる人間は助ける、それがオレのリーダーの信条だ!!」

そう叫んでほむらはキュアメイガスへと前を向いた後にスマートフォンを取り出す。

ギガストーム「なんでスマートフォンを取り出すんだ？」

ゴツドマグナス「ま、まさか!？」

それにゴツドマグナスはある予感を抱いた後、それは正解だった。

まずほむらはスマートフォンのアイコンの1つをタッチする。

ほむら「プリキュア・ブレイブコンバイン!!」

咆哮と共にスマートフォンの液晶場面が輝き、ほむらを包み込む。

光の中でほむらはその身に赤ずきんチャチャのマジカルプリンセスをベースにしたワンピースでその胸部分に鷲を模したブレストアーマーを装備し、肩にファイヤーダグオンの肩を模したショルダーアーマーを装着し、スカートの下はスパッツを履き、腕に肘まで覆うアームカバーを装着しており、右手が赤、左手が白になってる。

足に膝まで覆う黒いブーツを履いていて、胸の真ん中に宝石が装着し、頭にファイヤーダグオンの顔の横の翼状のと頭の金色の角を模したカチューシャを装着すると髪は炎の様な深紅に染まる。

ほむら↓キュアコマンド「特命の勇者戦士、キュアコマンド!!」

ダージガン「きゅ、キュアコマンド!？」

スピードブレイカー「あの子もプリキュアだったのか!？」

名乗りあげるほむら、いやキュアコマンドに誰もが驚く中で少女は頭を抑える。

少女「（プリキュア：…なんだろう。凄く頭が痛くなる。私は本当に…）」
キュアコマンド「ルリカ！」

顔を歪める少女へとキュアコマンドは叫ぶ。

キュアコマンド「お前は奴の言う通り罪を犯しちまった。けどな！過去は変えられねえが明日をどうしたいのかは変えられる！お前はどうしたいんだ！」

少女「わ、私は…私は!!」

キュアコマンドの言葉に少女は顔を上げると共に脳裏に名前が浮かぶ。

少女↓ルリカ「そうか…私の名前は…蜂須賀ルリカ！私は守ってくれた皆と一緒に戦いたい！」

束「どうやらジャストタイミングだったみたいだね！」

叫んだ所に束が現れる。

そしてルリカへと近づいて紫色のスマホを手渡す。

ルリカ「これは、さつきと色が違う」

束「ちよいと手直ししといたよ。後はねく出ておいで〜」

驚いて言うルリカに束はそう言うത്スマホの画面に女の子が写る。

ルリカ「？この子は？」

束「その子はそのキュアチェンジャーに入れたあなたの相棒になる電子妖精のピーコ

ちやんだよ」

ピーコ「よろしく」

聞くルリカに束は説明して挨拶するピーコにルリカは顔を綻ばせた後に気を引き締める。

ルリカ「行くわよ！」

ピーコ「お〜」

そう言つてルリカはスマホ、キュアチェンジャーを構える。

まず、底部分をずらしてスリットを出した後にカードを一枚取り出す。

ルリカ「プリキュア！カードスラッシュユ！！」

そう言つて現れたスリットにカードをスラッシュユする。

ピーコ「ちえくんじ!!」

その後ピーコの声と共にスマホの画面が光り輝くと光の風がルリカを包み込む。

光の風が身体に張り付くとスパッツを下に履いた紫色の縁にフリルが縫われた右胸に手裏剣型アクセサリーを付けたミニスカなくノ一衣装へと変わり、両腕にアームカバー、両足にフットカバーと足袋型ブーツと変わって行き、最期に腰までであった髪が足の膝まで伸びて手裏剣型の髪留めでポニーテールに纏められる。

そして前を向いて名乗りあげる。

ルリカ↓キュアスパイ「真実を求める闇夜の忍者、キュアスパイ!!」

スピードブレイカー「キュアスパイ…」

ゴッドマグナス「それがお前の名前か!」

強く決意した目で言うキュアスパイに2人はおお…と眩く。

スラストール「アイエエエ!ニンジャ!?ニンジャナンデ!」

ダージガン「あ、挨拶せな!ドーモ、キュアスパイ!!サン」

ギガストーム「しとる場合か!」

キュアスパイにボケるスラストールとダージガンをギガストームは怒鳴り、怒鳴られた2人はすいませくんと謝る。

キュアメイガス「くつ、記憶を取り戻すなんて…だけど取り戻したからって勝てるかしら?」

???「ならばワシ等が加われれば良いだけだ」

その言葉と共に偽ガルバトロンに銃撃が放たれる。

誰もが目を向けると打鉄と同じ量産型のISであるラファール・リヴァイヴを纏ったガルバが両手にマシンガンを持って飛んでいた。

セシリア「ガルバ先生!」

ガルバ「遅れてすまん。ちよいと合流していた」

キュアメイガス「あらあら、また来たの」
???「ここにもいるぞ！ライオタイフーン&ミサイルビーム!!」

続けざまに竜巻とビームにミサイルが偽ライオコンボイへと炸裂して偽ライオコンボイは消滅した。

マグナコンボイ「ライオコンボイ！」

ライオコンボイ「待たせたね」

コンボイ「どうやらプリキュアとして再び守る力を手に入れたようだね」

ビッグコンボイ「さて、部下を可愛がってくれた礼はさせて貰おうか」

降り立った本物を含めたトリプルコンボイにキュアメイガスは苛立ちげに杖を握る力を籠める。

キュアメイガス「つゝゝゝゝゝやりなさい!!」

その言葉と共に偽物たちは襲い掛かる。

コンボイ「マトリックスブラスター!!」

ライオコンボイ「ライオタイフーン!!」

ビッグコンボイ「ビッグキャノン！ゴー!!」

だが、トリプルコンボイの同時攻撃にデビルノドンとデビルバットは体を貫かれて爆発四散する。

ガルバ「これでも食らえ」

そう言つてガルバはロケットランチャーを二丁取り出すと普通ではありえない弾幕を連発する。

それによる弾幕を浴びた偽ガルバトロンは咆哮しながら爆発に飲み込まれて消える。

ガルバ「さらば過去のワシよ」

キュアコマンド「やるじゃねえか!ならオレも!コール!ブレイブソード!!」

呟くガルバやトリプルコンボイを見てキュアコマンドは変身に使用したスマートフォンを取り出してアイコンを一つタッチしてそう叫ぶ。

すると液晶画面から剣が飛び出し、飛び出した剣をキュアコマンドは手に取る。

キュアコマンド「はあ!」

気合の言葉と共に胸の宝石から光が放たれてデビルエレファントへ命中すると動きを束縛する。

その後キュアコマンドは背中に炎の翼を出現させてデビルエレファントに向けて滑空する。

キュアコマンド「プリキュア!ファイヤー・フィニイイイシユ!!!」

すれ違いざまに十文字に切り裂くとデビルエレファントを背にし、剣を横に構える。

それと共にデビルエレファントは浄化の炎に包まれて消えて行く。

スピードブレイカー「ようし！後1体！」

キュアコマンド「決めろ！キュアスパイ！」

鈴「いっけえ！」

キュアスパイ「ええ！」

メンバーの言葉にキュアスパイは頷くと右胸に付けている手裏剣型アクセサリを取り外すと大きい水晶の手裏剣へと変化させる。

キュアスパイ「クリスタルクロス！はあああああ！！」

取り出した大型手裏剣、クリスタルクロスに集中して光りを集めるとクリスタルクロスはさらに大きくなる。

キュアスパイ「プリキュア！」

そのまま回転して勢いをつけ…

キュアスパイ「コウガノジョウカ！！」

投擲し、デビルドラゴンを切り裂いた後にクリスタルクロスは頭上に飛んで行き、そこから光のシャワーを浴びせる。

キュアスパイ「成敗！」

その言葉と共にデビルドラゴンは光となって消える。

キュアメイガス「くっ！覚えてなさい！！」

悔しそうに顔を歪めながらキュアメイガスはその場から消える。

キュアスパイ「はあく……」

箒「大丈夫か? 蜂須賀……で良いのか?」

それを見届けた後、キュアスパイはへたり込むと共に変身が解け、そこに箒が駆け寄って聞く。

ルリカ「う、うん。合ってるわ……」

スピードブレイカー「その様子じゃあ記憶は戻ったのか?」

頷くルリカにスピードブレイカーは問う。

ルリカ「あ……名前とプリキュアとしてのだけで……」

ブレイク「そうなのか?」

ほむら「まあ、のびのび、取り戻していく方が良いな(しばらくその方が良いしな)」

申し訳なさそうに返すルリカにブレイクは頬をポリポリ搔くと変身を解いたほむらが内心そう呟きつつ言う。

ギガストーム「んで、途中で入って来てお前何者だ?」

ガルバ「そうだな。担当としても詳しく聞かせてほしいものだ」

ほむら「うげ……説明とか苦手なんだよな」

???「それについては私が説明します」

そんなほむらへと問う姉弟にほむらは呻くと別の声が変わりに答える。

誰もが向くと空色の長髪でヘアバンドをしている女性がいた。

鈴「むむ、Hあるわね」

簪&ルリカ「お、大きい」

楯無「あなたは天海スバル先生」

ヘルスクリーム「誰なの？」

本音「楯無お嬢様と番長のクラスの副担任の先生だよ」

そんな女性の胸を見て分析する鈴の隣で簪とルリカは落ち込み、楯無が驚く中でのヘルスクリームの問いに本音は答える。

突如現れたキュアメイガスと箒たちに味方したキュアコマンドことほむらに天海スバル。

彼女たちは一体…

第13話：防衛組織グランガード

サイバトロンネット

そこではビルドボーイ率いるビルドマスターズとギガストームと共に来たオートローラーズと一緒に新たなサイバトロンネットを建設していた。

ビルドボーイ「皆、ドンドン作るから頑張ってくれ。オートローラーズも気合を入れて頑張ってくれよ」

オートステインガー「了解した」

オートジエッター「はあく俺この中でめっちゃ浮いてるよな…」

ビルドサイクロン「確かにあんたはジエツト機だもんね」

ビークルモードの状態で作業しながら言うビルドボーイにロボットモードの状態で答えるオートステインガーの隣でぼやくオートジエッターにビルドサイクロンは言う。

ビルドハリケーン「不満なら再スキヤニングしたらどうです？」

オートジエッター「うーん。と言ってもこの姿は長くいるからな…」

ビルドタイフーン「分かりますな。長く同じ姿でいると愛着が湧きますからな」

オートクラツシャー「だよな。長くいると換え難いよな」

オートランチャー「俺も」

そう言つてワイワイ話し合うのに賑やかになったなどビルドボーイはしみじみとなる。

オートステインガー「む？ビルドボーイ。トランステクターを見つけたぞ」

ビルドボーイ「ホントかい！また地中から見つかるなんて…ホントどうなってるんだろうな？」

すると掘つていたオートステインガーがそう言つて見つけたのを見せて、ビルドボーイは首を傾げて呟く。

☆

IS学園の会議室にて、そこであの場にいたコンボイ達にIS学園の学園長である轡木十蔵がいた。

ちなみにスピードブレイカーやゴッドマグナスにギガストームなどの体の大きいメンツは通信を介して参加しており、デストロンの方はヘルスクリームとマックスビーが参加していた。

十蔵「どうやらバレたみたいですね」

スバル「ええ、そうなんです。主にほむらが関わったので」

東「え？学園長もしかして知ってるの？」

そう言う十蔵のに苦笑して返したスバルの会話から東が代表で聞く。

十蔵「ええ、なんとたつて直接聞いて私が許可したので」

ガルバ「成程な：どろりで住所などが偽造だったのかに納得だ」

ほむら「そこもバレバレかよ」

答える十蔵のにガルバがそう言うとはむらはうへえとなる。

ガルバ「今のワシの妹の情報網を舐めるな」

ギガストーム『流石姉ちゃんの妹だぜ！』

スバル「はは：それでは改めて自己紹介。私は天海スバル。防衛組織グランガードか

ら彼女と共にこの世界に派遣されて来たプリキュアです」

コンボイ「防衛組織グランガード？」

そう言うガルバに称賛するギガストームの後に苦笑してから名乗るスバルの言った

名にコンボイは首を傾げる。

スピードブレイカー『どういう組織なんだ？』

ほむら「プリキュアのような戦士だけではなくあらゆるヒーロー達を支援するために

結成した防衛組織。ヒーロー達を邪悪な人間に悪用させないよう、ヒーロー達の素質を持った人達の保護もやっているんだぜ。元々はプリキュアを初めとするヒーロー達ばかりに護られるだけでは世界の平和にならないと考えた心ある人達が自分達もヒーローたちの様に平和を守る為、そしてヒーロー達が心置きなく出来る様に援護する為に結成したんだつてよ」

ゴッドマグナス『そりやまた立派だな…俺達が見たあの戦いのを余計に感じるぜ』
その言葉にほむらとスバルは顔を顰める。

ほむら「あんた等が言ってるのはとある世界でのプリキュア同士の戦いもあつた戦争だろ？知つた時はオレ達も憤慨感じたぜ」

スバル「本当にね…」

骨を鳴らして怒りを発するほむらの隣でスバルは悲しそうに同意する。

どうやら彼女達もある事で知つた事をコンボイは察する。

ライオコンボイ「それで、君達はどうしてこの世界に？」

ほむら「それはとある組織がこの世界に潜り込んだからだ」

ヘルスクリーム「ある組織？それは一体？」

本題を聞くライオコンボイに答えたほむらのにヘルスクリームは問う。

スバル「ワールドデストラクターズ…キュアエクストリーマーを首魁とする組織よ」

箒「ワールドデストラクターズ…」

ビッグコンボイ「名前からしてそいつもプリキュアか…」

ルリカ「なんでそいつらは此処に？」

出て来た名前を呟く箒とビッグコンボイの後にルリカは聞く。

スバル「奴は主にプリキュアを欠陥品と見なし、全ての世界のプリキュアを滅ぼし、自らを真のプリキュアになろうと目論んでいるわ。組織的な目的は全世界の支配よ」

コンボイ「全世界の支配か…」

スピードブレイカー『うへえ、俺達の知る奴らみたいな感じかよ』

そう言ったスバルのにコンボイは呟き、スピードブレイカーはそうぼやく。

ほむら「それで俺達が派遣されて、学園長にも事情を話して生徒と先生でいるって訳だ」

ガルバ「成程、話は分かった。そちらで勝手にして貰おう。ヘルスクリーム、マックスビー」

ヘルスクリーム「はっ！」

マックスビー「ラジャー」

そう言つてガルバは席を立ち、ヘルスクリームとマックスビーも伴う。

スバル「まだ話は終わってないけど？」

ガルバ「大体のを聞ければいい。それに今のワシよりそいつ等がそいつに対抗するのにもっとも最適だ。まあ、今度来る家族に手が伸びたらこちらも動くがな」

そう言つてガルバ達は出て行く。

東「うーん、ガルさんいつも通り」

ほむら「ホントあの人、なんか分かんねえな」

コンボイ「そちらの事情は分かった。それで？」

スバル「まあ、察しがついてると思いますですが私たちに協力してください。そちらの事情はそちらのを優先して貰えれば良いですし」

その背を見ながら呟く東とほむらの後に聞くコンボイにスバルはそう言う。

コンボイ「……分かった。拒む理由もないからね」

そう言つて手を差し出すコンボイにスバルも握り返す。

コンボイ「ビッグコンボイ、君も今日からIS学園の警備に入ってくれ。君ならばどんな時でも対処できる」

ビッグコンボイ「分かりましたコンボイ。俺に任せてください」

セシリア「何やら壮大ですわね」

鈴「確かに」

簪「けど……凄い」

本音「ああつとお嬢様の特撮関連のにビビツと来たんだね」

箒「好きなのだな…：そう言えば、ガルバ先生の言っていた事は？」

そう言つて敬礼するビッグコンボイの隣で話を聞いていたセシリア達がそう話す中で箒が気になって聞く。

東「ああ、フランスからガルバさんの妹さんがしばらくしたら此処に転入して来るんだよ。ドイツから来る2人と一緒にね」

セシリア「はて…：確かガルバ先生の妹と言うと…」

ブレイク「そう言えばよ。気になったけどあんた等のいる所は大型組織なんだろう？もうちよい他に来てる人員とかいたりするの？」

それに東は説明し、セシリアが思い出して言おうとした所でブレイクが質問する。

そんなブレイクの問いにほむらとスバルは疲れた顔をする。

ほむら「あ…：その…：確かにオレと同じチームのリーダーが一緒に来る筈だったんだが…」

スバル「…：ゴタゴタで遅れて来る事になったのよ」

何があったんだろうかと誰もが思ったが2人の様子から深く聞かない方が良かったらうと考える。

その後にはむらが気を取り直してとルリカへと顔を向ける。

ほむら「ルリカはこれからどうする？」

ルリカ「え？私？」

十蔵「それでしたらIS学園に入学するのはどうでしょうか？」

いきなり聞かれて戸惑うルリカへと十蔵がそう提案する。

ルリカ「あ、あの…良いんですか？」

十蔵「良いんです。それに当てもない君をほうって置ける程、薄情な大人ではないからね」

そう言った十蔵の自分を心配する真剣な目を見てルリカは少し考えた後に頭を下げる。

ルリカ「こんな自分ですがよろしくお願いします」

十蔵「こちらこそ…そうですね…知っている人が良いですし、箒くんとセシリア君のクラスで面倒を見てください。後で織斑先生や山田先生にプリキュアの事は伏せてサブトロロンに保護されたのをこちらで預かる形で話しておきます」

箒&セシリア「分かりました」

笑ってからルリカのについてそう言う十蔵に2人も頷く。

その後は色々と話してから解散となり、ルリカは1人だったほむらのルームメイトになった。

☆

フランスにて

??? 「ええ、はい。ありがとうございます。今後ともウチをよろしくお願いします」

そう言つて高級な椅子に座つて電話に出ながら書類を書いていた少女は通話を終え、書類も書き終えるとふうと息を吐く。

??? 「シャルロット社長、お疲れ様ですごつつんこ」

そんな少女に赤いフォーマルスーツを着た女性が少女にお水を渡す。

シャルロット 「いえいえ、フェルノさんには世話になりっぱなしですよ」

フェルノ 「こちらこそあちきがこうしてられるのも先代の社長、今や会長のお蔭で
ありんす」

水を受け取つて飲んでから笑つて言うシャルロットにフェルノも笑つて返す。

シャルロット 「んー…さてと、今ここで行えるのは終えたし、そろそろ向かうね。もし私じゃないと無理なの来たら送つて頂戴」

フェルノ 「了解しました。久々の姉妹の語り合いと楽しい学園生活を満喫してきてください」

背伸びして椅子から立ち上がって傍に置いていた旅行鞆を持ってそう言うシャルロットにフェルノはそう言う。

シャルロット「そうだね…ただ、先輩にはあの人がいるからドタバタになるかな…」
フェルノ「あー…そう言えばいましたね」

困った顔で言うシャルロットにフェルノも思い出してなんとも言えない顔をする。

???「あ、社長。丁度向かう所でしたか」

そこに紫髪の白衣を着た女性が来る。

シャルロット「うん、そっちはどうタラさん？」

タラ「そりや勿論。社長のお蔭であちしは色々と開発出来るし、社長の提案で作った I S の技術を応用して作ったサポートマシンは妊婦で満足に動けない人や体の不自由な人に大絶賛！喜びで笑いが止まらないですよしゃしゃしゃ♪」

フェルノ「それで時たま起こるハプニングに苦労するテラやポルコスにライクに同情するであります」

高笑いするタラに呆れるフェルノの隣でははと苦笑したシャルロットは胸元にかけていたペンダントを取るとその中に収められた写真を見る。

写真には異母姉妹である姉と肩車して貰っている小さき自分が写っている。

シャルロット「ふふ、久々に会えるね…ガルバ姉さん」

☆

同時刻、ドイツにて

??? 「シユバルツ・ハーゼ！コンバットロン！全員集合！！メガロ大隊長より知らせがある！」

黒髪で赤い目の軍服を着た女性が号令すると眼帯を付けた女性達と色が違うジャケットを着た5人の女性達が集まり、並ぶと号令をかけた女性は後ろにいた長身な女性へと前を譲り、前に出た女性はうおっほんと咳払いする。

メガロ「コンバットロンのシユバルツ隊長の言つた通りお知らせがある。ラウラちゃんにクロエちゃん！」

その言葉に眼帯を付けた女性達の中から小さい銀髪の少女と目を閉じた少女が前に出る。

メガロ「えー、各自も知っていると私が娘であるラウラ・ボーデヴィツヒちゃんとクロエ・ボーデヴィツヒちゃんがこの度、IS学園に入学する事になりました」

??? 「もうそんな時期か」

2 「そうなるのとクロエ嬢のともでもクツキングは見れなくなるんだな」

??? 3 「あー、それはそれで静かになるな」

クロエ「コンバットロンのコードネームダンガーさん、シャトラーさんにグリジバーさん。行く前に腕によりをかけた料理を作って差し上げますね」

お知らせに緑色の瞳にオレンジのジャケットを着た女性が呟き、小麦色なジャケットを羽織った女性の白いジャケットを着た女性が同意してクロエの言葉に2人してギヤースとなり、俺巻き添え!!?と最初に呟いたオレンジのジャケットの女性は叫ぶ。

??? 4 「バツカーだな…」

??? 5 「まったく…そう言えば大隊長、噂で聞いたんですがあの女がIS学園にいるそうですか?」

それを見て濃い青色のジャケットを着た女性が呆れた後に緑色のジャケットを着た女性の言った事に女性達の誰もがざわめく。

メガロ「はい静かに!お前たちも知っているラウラちゃんやクロエちゃんを侮辱してあまつさえお前達の頑張りも否定した事で俺様によりシユバルツ・ハーゼを除隊されたあの女はドルレイラーの言う通り、一足先に上の命令でIS学園に2年前に入学してなんだよね…だからリハビリ交じりでウチで顧問をしていた千冬ちゃんがいるけど心配なんだよな…だから行っても良い?」

シユバルツ「だめに決まってるでしょ!」

ラウラ「は、母上大丈夫です！私だって頑張ってますから！」

それにメガロは一喝してからそう言ってシュバルツを見て見られた本人は突っぱねて、ラウラも続き…

ラウラ「それに獅子は我が子を谷から落として這い上がって来たのを温かく迎えると
言うらしいですから私はIS学園で頑張ってます！」

メガロ「惜しい！正確に言うなら育てるね！後それ、今の状況だと試練を受けるの俺様になるから！」

シュバルツ「また貴様かクラリツサ！生半可な日本知識は抑えろと言っただろ!!」

??「違っていましたか!？」

続けて言った事にメガロはツツコミ、シュバルツは叫んで言われたと思われる深緑の髪的眼帯を付けた女性が驚いて叫ぶ。

クロエ「ふふ、このやり取りもしばらく見れないとなると寂しいものですね…丁度お昼ですし頑張つて作りますね」

クラリツサを除いたシュバルツ・ハーゼ&コンバットロン一同「(それなんて地獄…!?)」

それにクロエは笑って言った事に誰もが戦慄する。

なお、阿鼻叫喚だったのは言うまでもない。

☆

少し時間が進み、夕方の道を1人の金髪の少女が苛立った様子で歩いていた。

少女「くつ、まさかあの憎い2人が来るとは…なぜエリートである私が除隊させられなければならないのだ…」

顔を歪め、怒気を発しながら少女は漏らす。

少女はある部隊に所属していた。

様々な事に通じてて誰よりも優れていると自負していた。

だが、とある事で隊長により部隊を強制的に外された。

それに至る2人が来る事に少女は苛立ちを隠せずにいられなかった。

???「エレクトラ・V・ハルトマンさんね」

すると少女、エレクトラは呼ばれて振り返る。

そこには緑髪のショートの女性がいた。

エレクトラ「何者だ？私を知る限り貴様の様なのはIS学園にはいないのだが」

女性「ふふ、初めまして私は琴場麗子。あなたに良いお話があるのだけど」

そう言うエレクトラに女性はふふつと笑って自己紹介する。

エレクトラ「ふん。何者かは知らないが私は今虫の居所が悪い。消えなければ痛い目に遭うぞ」

麗子「あら怖い。せっかくあなたにあなたの抱えている鬱憤を晴らせる良い機会を与えられると言うのに」

そうやって殺意を見せるエレクトラに麗子はくすくす笑いながらそう言う。

殺意を見せていたが出て来た言葉にエレクトラは何だと？と顔を顰める。

麗子「どう？結構良い話なんだけど乗らない？」

エレクトラ「……………」

そうやって手を差し出す麗子をエレクトラはじつと見る。

次なる波乱は近い……………

プリキュア紹介

蜂須賀ルリカ

外見：腰まである黒髪に目の色は紫色で胸はCのハイスクールD×Dの姫島朱乃

概要

突如出来た時空の穴から現れた少女。

別の世界では悪人や悪組織などに諜報活動や潜入捜査をして悪を倒すくのいち忍者、別名『時空忍者ルリカ』と呼ばれていた。

とある戦いの際に自分が犯した罪により茫然自失となり彷徨っていた所を現れた時空の穴へと吸い込まれる。

時空の穴を通る際に頭を打って全ての記憶を失うが後述のキュアコマンドの言葉で名前とキュアスパイダと言う事だけを思い出す。

パワーアップと言う言葉を毛嫌いしている。

胸が小さい事がコンプレックスで気にしている。

キュアスパイ

外見：足の膝まで来る黒髪のポニーテールで紫色の縁にフリルが縫われた右胸に手裏剣型アクセサリーを付けたミニスカなくノ一衣装を纏つていて、くノ一衣装の下部分の下にはスパッツを履いており、両腕にアームカバー、両足にフットカバーと足袋型ブーツを履いている。

概要

ルリカのプリキュアとしての姿。

コスチュームのデザインは忍者である。

プリキュアカードをスラッシュするとそのプリキュアに変身でき、さらに、プリキュアの専用道具だけのカードもあり、これをスラッシュすると専用道具だけが出て来るが13話時点では時空の穴の影響とそこらへんのデータ修復がまだなので他のプリキュアへの変身能力と武器召喚に一部の力は使えない。

専用道具は、右胸に付けている手裏剣型アクセサリーを変化させた巨大な手裏剣型のクリスタルクロスを使う。

ブーメランのように動くので二重にダメージを与えることも可能。

変身コード『プリキュア・カードスラッシュ！』

名乗り口上は『真実を求める闇夜の忍者』

必殺技

・プリキュア・コウガノジョウカ

クリスタルクロスに光を最大限まで貯めて大きくした後に回転をして勢いよく投擲する。

相手を切り裂いた後に頭上に飛んで行き、そこから光のシャワーを浴びせて浄化する。

漢字で書くと光牙之浄化

キュアチェンジャー

外見：紫色のスマホで底部分を少しずらすとスリットが現れる。

概要

ルリカの変身アイテム。

通常時は普通のスマホと同じ様に使える。

ずらす事で現れるスリットにプリキュアカードをスラッシュユする事でプリキュアに

変身出来る。

ちなみにスマホの容量として500GBと普通のじゃあありえない容量になっている。

ピーコ

外見：神次元ゲームネプテューヌVのピーシエを小さくして妖精の様な感じにした感じ

概要

東がキュアアエンジャーに入れた電子妖精でルリカの相棒。

アイを参考にされて誕生しているのでアイの妹とも言える。

ただアイと違い、キュアアエンジャーの中から実体を持つて現れる事が出来る。

ルリカに懐いていて、ルリカをるりるりと呼んでいる。

天海スバル

外見：空色の長髪でヘアバンドをしている大人の女性に成長した胸はHある魔法騎士
レイアースの龍咲海。

年齢20

イメージＣＶ：平松晶子

概要

別の世界から来た女性。

礼儀正しく快活な女性で教師を務めている。

元の世界の相方同様モテる方だが、女性ばかりモテてしまうのが目下の悩み。

一見落ち着いているように見えるが怒るとかなり怖い。

普段は教師の仕事をしているためか眼鏡をかけてる。

格闘術「星光闘技（スターライトアーツ）」の使い手で実家も格闘技関連の道場を開いてる。

正義感は強いが、本人は正義も悪も決めるのは使う人の心次第という考えを持ち、その為、正義でありながら、自分勝手な考えを持つものや正義を独善としか見ない考えを持つものを人一倍嫌ってる。

理由は学校に居た頃は風紀委員をやっていたため。

ワールドデストラクターズを追って、後述の大道寺ほむらと共にＩＳトランスフォーマービーストの世界に来て中心となるＩＳ学園の教師をしている。

大道寺ほむら

年齢：17

外見：髪をそのまま降ろしたりリカルなのはvividのハリー・トライベツカ
イメージCV・内山夕実

概要

プリキュアチーム、ブレイブソウルプリキュアのメンバー。

天海スバルと共にワールドデストラクターズを追って、ISトランスフォーマービーストの世界に来てIS学園の生徒となり、楯無のクラスに所属している。

ある出来事でブレイブソウルプリキュアのリーダーに関わった事でプリキュアとして目覚めた。

喧嘩っ早いタイプで当初は暴走族と間違えそうな格好をしており、その口調から怖い人と呼ばれたりするが、実際は気さくで姉御肌で正義感の強い熱血少女。

人望は高く、暴走族みたいな格好でいたせいか一人称がオレ。

普段から木刀を持ち歩いており、その腕前は高い。

ブレイブソウルメンバーでは生身の能力は高い。

悪意感知にも強い。

IS学園にいる際は制服の上に暴走族のコートみたいなのを羽織っている

キュアコマンド

外見：赤ずきんチャチャのマジカルプリンセスをベースにしたワンピースでその胸部分に鷲を模したブレストアーマーを装備し、肩パーツがファイヤーダグオンを模した形状になっている。

スカートの下はスパッツを履き、腕に肘まで覆うアームカバーを装着しており、右手が赤、左手が白になってる。足に膝まで覆う黒いブーツを履いている。

胸の真ん中に宝石が装着している。

頭にファイヤーダグオンの顔の横の翼状のと頭の金色の角を模したカチューシャを装着している。

髪は炎の様な深紅に染まる。アーマーデザインはファンタジー系にアレンジして、服のカラーリングはメインが赤でサブに白が来ている

モチーフ・勇者指令ダグオン

概要

大道寺ほむらが変身するプリキュア

名乗りは特命の勇者戦士、キュアコマンド!!

闘志を燃やし、力強く戦う。

ブレイブソード

ブレイブソウルプリキュアが持つ共通武器。

邪悪に特効ありで、勇気の力が強いほど威力が増す。

変身アイテム ブレイブモバイル

概要

スマートフォン型の変身アイテム。

変身の他に様々なツールを呼び出す

変身コードはプリキュア・ブレイブコンバイン

キュアメイガス

外見：司祭をモチーフにした衣装を纏い、頭のサークレットには三つの眼を模した装飾を持つ。紫色の長い髪に変わる。

概要

ルリカへと襲い掛かったワールドデストラクターズ所属のプリキュア

ルリカに恨みを持っている様だ。

メイガスの左手に魔力があり、左手に触れた相手の記憶を読み取り、その記憶の中に

ある者を実体化させ具現化する能力を持つ。

モチーフはダークブレイン
名乗りは『悪意の魔眼』

第14話：姉妹と師弟の再会と暗躍

シャルロット「ようやく着いた〜」

朝日の中、んー！と背伸びしながらそう漏らしたシャルロットは嬉しそうに笑う。

さて、行こうとした所で声をかけられる。

??? 「すまない。少し良いか？」

振り返ると自分と同じ様に旅行鞆を持った2人の少女、ラウラとクロエがいた。

シャルロット「あなた達は？」

ラウラ「私はドイツよりIS学園に入学に来たラウラ・ボーデヴィツヒと言う。隣にいるのは私の姉のクロエ・ボーデヴィツヒだ」

クロエ「よろしくお願いします。あなたはもしやフランスのシャルロットデュノア社長でしょうか？」

聞くシャルロットにラウラとクロエは挨拶して聞く。

シャルロット「あなた達が私と同じ日に入学するドイツの人だったんだね。ちなみに敬語は良いよ。これから一緒に学ぶ生徒になるんだし、よろしくね」

ラウラ「こちらこそ」

そう言つて握手を交わして進もうとし：

スラストール&ダージガン「ようこそおいでなさいました!!」

「歓迎! シャルロットお嬢様!」と書かれた横断幕を持つてスラストールとダージガンが3人の前に現れる。

いきなりの事に茫然とするラウラとクロエの隣でシャルロットはあーと声を漏らす。

シャルロット「もしかしてあなた達がガルバ姉さんが言つてたダージガンとスラストール?」

ダージガン「おお! わて等の事を知つとりましたか! その通り、わてがダージガン」
スラストール「うちがスラストールです。フランスからのお疲れ様です」

そう聞くシャルロットに2人は嬉しそうに笑う。

ラウラ「シャルロット。この奇妙なロボットは?」

シャルロット「この人達は私のお姉ちゃん達の昔の部下さんで後は他にオートローラーズにヘルスクリームとマックスビーがいるんだよね?」

ヘルスクリーム「その通りでございます」

恐る恐る聞くラウラにシャルロットは答えるとヘルスクリームがマックスビーを伴つて現れて肯定する。

ヘルスクリーム「言われたヘルスクリーム、ただいま推参しました。隣にいるのが

マックスビー。シャルロットお嬢様。よろしくお願ひします」

マックスビー「マックスラジャー」

シャルロット「うん、よろしくね。それで…あなた達の今の上司である…」

ギガストーム「俺様なら此処にいるぜ！」

一礼するヘルスクリームとマックスビーにシャルロットは聞こうとしてギガストームが現れる。

ラウラ「きよ、恐竜!?!」

クロエ「これはこれは」

シャルロット「あ、あなたが」

ギガストーム「ガルバ姉ちゃんの弟分、ギガストームだ」

驚く2人の後に目を輝かせるシャルロットにギガストームは意気揚々と名乗る。

シャルロット「あなたがお姉ちゃんが言っていた弟さんなんだね。よろしくね」

ギガストーム「おう！俺様も姉ちゃんから聞いてるぜ！若いながら会社を纏めてるんだってな。よろしくな」

そう言つて挨拶しあうシャルロットとギガストームをラウラとクロエは見ていた。

そこに千冬とガルバが来る。

初めてギガストームを見る千冬は驚くがガルバはシャルロットへと近づく。

ガルバ「久しぶりだなシャル」

シャルロット「うん、久しぶりお姉ちゃん」

ふつと笑つて言うガルバにシャルロットも笑つて抱き着き、ガルバは頭を撫でる。

ギガストーム「(やつぱ姉ちゃん、以前より軟らかくなつたな…人間として生まれ変わったからか…だが覇気はトランスフオーマーの時から変わつてないから姉ちゃんはすげえ…)」

千冬「さて、そちらがシャルロット・デユノアで…久々だなラウラ、クロエ」

ラウラ「はっ！お久しぶりです織斑教官！」

クロエ「お久しぶりです千冬様。あなたと束様にまた教われる事を光栄に思います」

そんなガルバにギガストームはそう感じる中で千冬はシャルロットを見た後にラウラとクロエを見て、2人は敬礼する。

千冬「私は今は先生だから今日からは教官ではなく織斑先生と呼べ、クロエもだ。様付けはくすぐつたい」

ラウラ「分かりました先生！」

クロエ「はい」

困った感じに言う千冬にラウラとクロエは頷く。

千冬「さて、3人とも遠路はるばるご苦労。部屋もそれぞれ用意してある。シャル

ロットとラウラは同室、クロエは今は1人になる。荷物を部屋に置いたら自分達の入る教室に行く様に頼む」

シャルロット「分かりました」

ラウラ「了解です」

クロエ「はい」

鍵を手渡して言う千冬に3人は頷いた後にラウラが思い出した様に言う。

ラウラ「そう言えばきよ：先生。ここにはサイバトロンが警護でいるんですよね？」

千冬「ああ、それがどうした？」

そう聞くラウラに千冬は怪訝として問う。

ラウラ「1つ、彼らには、メガロ大隊長から伝えたい事があるので」

??? 「なら俺が総司令に伝えよう」

クロエ「誰ですか？」

そう言ったラウラのに答えた声にクロエは声のした方へと言うと…マンモスが現れる。

シャルロット「ま、マンモス!？」

千冬「サイバトロンか？」

マンモス「そうか、千冬にはビーストモードのは見せていなかったな…ビッグコンボ

イ！変身！」

その言葉と共にマンモスは姿を変えてビッグコンボイになる。

ラウラ「ビッグコンボイ！あなたでしたか！」

クロエ「お久しぶりです」

ビッグコンボイ「久しぶりだなラウラ、クロエ、ドイツでの I S によるテロが起きた際の鎮圧の時以来だな」

敬礼するラウラとクロエにビッグコンボイはそう言う。

千冬「知り合いだったのか？」

クロエ「はい、相手側が強敵で苦戦していた所を助けられました」

ラウラ「ビッグコンボイならば丁度よかった！実は少し前にシュバルツハーゼとコンバットロンの基地以外の軍事基地から軍用車両が盗まれる事が起きたのです」

ビッグコンボイ「盗まれるだと？それで？」

問う千冬にクロエは頷いた後にそう言うラウラのにビッグコンボイは続きを促す

ラウラ「それ以外にも地中から掘り起こされた謎のケースも盗まれたのです。サイバトロンには軍用車両や謎のケースの搜索をお願いしたいとの事です」

ビッグコンボイ「謎のケース!?(まさかトランステクター…ドイツも持っててそれが盗まれていたのか…)」

シャルロット「あ、それフランスでもあった！こつちもオーバーツなケースを一夜で盗まれたとか」

ガルバ「ふむ…もしかすると同一犯の可能性も考えられるな」

そう言ったラウラののにシャルロットも反応して言い、ガルバが顎を摩って呟く。

ビッグコンボイ「分かった。総司令に伝えておこう」

ラウラ「よろしくお願いします」

了承するビッグコンボイにラウラは頭を下げる。

千冬「さて、長話は放課後でな」

ガルバ「そうだな。お前たち早く教室へ向かえ、シャルとボーデヴィツヒ妹は織斑が担当する1組、ボーデヴィツヒ姉はワシの担当する2組だ」

シャルロット&ラウラ&クロエ「はい！」

それぞれ返事をした後にビッグコンボイと別れ、ビッグコンボイは見送りながら考える。

ビッグコンボイ「(盗まれた軍用車両にトランステクター…利用すると…倉田正影か…もしくはワールドデストラクターズ…もしもキュアメイガスがスピードブレイカーの記憶からトランステクターについての知識を得ていたのなら…)」

そう思案しながらビッグコンボイはコンボイに連絡をする。

☆

一方、IS学園男子寮では、1つの部屋で1人の少女が苛立っていた。

こちらは女子寮と違い、2人ではなく5人で一部屋を使う感じになつていて、女子寮より大きく広いが一纏めにしといた方がマシだと言う女性達の意見も取り入れている。

また、無人機により女性にされた男性達も一緒にされている。

「くそ！あの無人機め！」

2 「きよ、恭介様落ち着きなよ。そんなに荒れてちや他の奴らと同じですよ」

3 「そうだけ恭介、リラックスした方が良いぜ」

苛立ちげに机を叩く少女に別の少女2人が宥めに入る。

「お前等は悔しくないのか！罵倒していた奴らと同じ女にされて！あの時味わつたのより屈辱だ！」

4 「ですが烈火や翔平殿の言う通り、一度落ち着かれた方がよろしいです」

5 「けどさ、凍矢の言う通り落ち着いても神様に用意して貰った専用機も女にされてから使えなくなるし、この有人様の腕でもどうする事も出来ないし、どうするべきかな……」

恭介と呼ばれた少女を宥めながらも1人の少女の後に最後の1人がそうぼやく。彼らの会話から察するだろうが彼らは一夏やガルバと同じ転生者だが違いがある。

一夏達は死んでからそのまま新たな生として転生した形だが彼らが神により強制的に死なされて転生させられた存在だ。

転成特典と言うのを付けられたのだがそれにより世界の歴史や人の成り立ちが歪んでしまう事もある。

閑話休題

誰もが荒れる恭介のにどうしようかと4人は顔を見合わせた時：

??? 「ふふ、血気盛んで良いわね」

恭介 「!? 誰だ!？」

誰でもない声に5人は身構えるとそこには1人の女性、麗子がいた。

烈火 「ええ!？ 誰!？ 何時の間に!？」

凍矢 「!? (烈火に気配を感じ取られなかっただど!?)」

麗子 「ふふ、初めまして私は琴場麗子。あなた達に良いお話があるの」

恭介 「はん、いきなり現れて、しかも女の言う話なんて良い事ないだろ」

驚く烈火の隣で驚愕する凍矢や恭介達へと名乗って言う麗子に恭介はそう言う。

麗子 「あら、乗ってくれたら男に戻れると言いたかったのに」

翔平「!?も、戻れるのか!？」

有人「マジで!？」

出て来た言葉に翔平と有人は食いつく。

恭介「止せよ2人とも。いきなり現れてそんな美味い話はないと思うぜ」

麗子「あら酷い。疑り深い子ね…せっかく見下していた女達へと見返すチャンスを取

り戻せるのに」

そう突っぱねる恭介だが麗子のに、ギリッと歯を食いしぼる。

恭介自身、一刻も戻りたいと言う気持ちがある。

だけど目の前の麗子が何者なのか分からないので歯止めがかかる。

麗子「それに他の子も元に戻れるのに拒否しちゃうなら他の人に持っていきこうかし

ら」

恭介「……………足元を見やがって……………」

凍矢「恭介殿……………」

そう言う麗子に恭介は手を握り締めるがやがて力を抜く。

恭介「……………話に乗ってやる。どうすれば良い?」

麗子「ふふ、簡単よ。この腕輪を付けてくれればいいわ」

そう言って麗子は5つの腕輪を取り出して見せる。

色は銀色、赤、青、紫、黄色で恭介、烈火、凍矢、翔平、有人の手に渡される。

こうかとそれぞれ右腕だったり、左腕の手首に付けた瞬間：光が迸る。

恭介&烈火&凍矢&翔平&有人「うわああああああああああああ!!」

麗子「うふふ、これで貴方達は私の、いえ、ミストレスの忠実なる部下よ」

絶叫が響く中で麗子は笑い声をあげる。

不思議な事にそれは誰にも聞かれなかった。

☆

一方：IS学園整備室

虚「ふう：これで良いですね。後は放課後で仕上げれば大丈夫ですね」

本音「そうかく良かったねグリちゃん」

1つの存在を前にしてふうと整備服姿でそう言う虚のと同じ格好の本音が隣にいる少女にそう言い、少女も嬉しそうに頷く。

同じ様に見ていた薫子もすいませんねと虚に謝る。

薫子「ウチの同室の相方をお願いを聞いて貰って」

虚「いえ、それに彼がどういいう存在か知りたいですし」

そうやって虚は整備台に横たわる存在を見て言う。

見た目は赤い戦闘機の様なロボットで……その両翼にはデストロンのマークが描かれていた。

第15話：新たな守護者！スターコンボイ！

前回から数分経ち、SHRでシャルロットやラウラ、ルリカが紹介されていた。

真那「皆さん。今日からこの3人がウチのクラスで一緒に勉強する事になります人達です」

シャルロット「シャルロット・デュノアです。フランスから来ました。こうやって皆さんと学園生活出来る事を嬉しく思います」

そう挨拶するシャルロットにクラス中ざわめく。

生徒「シャルロット・デュノアってあのデュノア社の若社長？」

生徒2「デュノア社ってIS以外にも身体の不自由な人や妊婦の人が大絶賛の商品を作ってるって言う」

自分の会社の話題にシャルロットはあははと苦笑する中で千冬が手を叩いて話を止めさせる。

千冬「静かに、まだ2人の自己紹介が終わってないぞ」

真那「そうですよ。話すのは休み時間にしてください。はいボーデヴィツヒさん」

ラウラ「了解です山田先生。ラウラ・ボーデヴィツヒと言う。私は通信教育だったから学園生活を楽しみにしていたのでよろしく頼む」

そう言つて頭を下げるラウラに誰もが拍手する。

ルリカ「え、えっと、蜂須賀ルリカって言います」

千冬「彼女はサイバトロンに保護されたのだが名前以外は記憶喪失で記憶を取り戻すまで学園長にウチで預かつてほしいと頼まれたんだ。彼女が困っている時は手を貸してあげて欲しい」

挨拶するルリカの後に千冬がそう言い、誰もがはーいと言う。

千冬「セシリア、箒。お前たちがルリカの手助けをしてやってくれ。なんでもお前達は少し話したそうじゃないか」

箒&セシリア「はい！分かりました」

指名する千冬に指名された2人は了承する。

その後授業が開始された。

☆

時間が経ち、放課後

千冬「ふう」

真那「お疲れ様です」

授業を終えて一息を付く千冬に真那はお茶を差し出す。

ありがとうと礼を述べてから千冬はお茶を飲む。

東「お疲れ様だねちーちゃん」

千冬「ああ、特に蜂須賀だ。彼女の事は聞いてて馴染めるか心配だったがちゃんと馴染めてよかったよ」

スバル「そうですか。こちらとしても嬉しい限りですね」

肩を揉んで労う東に千冬はそう言い、スバルが微笑んで言う。

千冬「天海は前日に蜂須賀と知り合っていたそうだな」

スバル「ええ、馴染めるかどうかこちらも心配でしたので」

そんなスバルへとそう言う千冬は返されたのに確かにと頷くと3人の女性教師が来る。

女性教師1「あ、織斑先生方、丁度おったんでんな」

真那「えっと、赤蛙（かえる）さんにギルさん。それにスモツスーさんどうしたんですか？」

ギル「実はスモツスーの担当してるクラスで驚きの事があったそうなのだ」

東「確か女性になつた男性生徒達が入っている3年のだよね？」

話しかける赤髪の女性に真那が代表で聞くとギルと呼ばれた水色髪の女性が残りの紫髪の女性を指して言い、東は思い出して聞く。

スモツスー「そうなのよ。んで担当していた生徒達が女として生きるって言いだしたのよ」

スバル「んー…今戻る目処もないからそう言う事になつてもしょうがないんじゃない？」
驚く所はなさそうだと思うけど…とスバルが思っているとスモツスーが真剣な顔で言う。

スモツスー「それを言つた生徒が皇恭介達だとしても？」

真那「ええ!？」

千冬「それは…確かに驚きだな」

それには真那や千冬達も驚く。

皇恭介、皇グループの御曹司だったが女尊男卑の影響でグループから放逐され、その屈辱から女に見返すために様々な努力を重ねてきた人物なのを真那と千冬や東は彼が入学して来た時から知っている。

同じ様に彼を慕う者達は女性にされた際はなんとしても男に戻つて見返すと言うのを聞いている。

スモツスー「あたし聞いてビックリしちゃったわよ。しかも名前も女らしい名前に変えちゃつてたのよ」

ほらこの通りとスモツスーは渡されたのであろう書類を全員に見せる。

皇恭介↓皇恭子

月島烈火↓月島烈華

月島凍矢↓月島氷織

忍野翔平↓忍野はやて

菱川有人↓菱川有理

そこに書かれた名前変更のに千冬は眉を顰める。

千冬「何か心境を変える事があったのだろうか？」

スモツスー「それでも今日突然よ。昨日は今まで通りだったんだから」

男に戻ると言っていた者達の急な変化に教師達は唖る。

☆

同時刻、整備室にて、それは目覚めた。

??? 「うっ…私は…」

うめき声を上げながら起き上がる存在に薫子はおお、起きたと少女と共に喜び、虚は存在に話しかける。

虚「私の声に分かりますか？」

???「あ、ああ…ちゃんと聞こえている…ここは地球なのか？」

上半身を起こし顔を抑える存在に虚は話しかけて、返された事にそうですと頷く。

本音「ねえねえくあなたはトランスフォーマーなの？」

???「!?トランスフォーマーを知っているのか？」

薫子「ええ、サイバトロンとかね」

質問した本音のに聞き返す存在へ薫子は頷く。

???「そうなのか…(サイバトロンだけ…デストロンは存在しないと言うのか?)」

虚「それであなたの名前を聞いてもよろしいでしょうか？」

考え込む存在に虚は聞く。

???「…私の名前はスタースクリーム」

少女「!!」

名乗った存在…スタースクリームに少女は嬉しそうに反応する。

スタースクリーム「な、なんだこの少女は？」

薫子「ウチの相方でグリッドって名前だそうだけど、声を発せれないみたいなのよね」

本音「グリちゃんも嬉しそうだね〜」

戸惑うスタースクリームに薫子は肩を竦めて答え、本音はそう言う。

スタースクリーム「(グリッド…だと…!?まさか、いや…)」

ただスタースクリーム自身、出て来た名前に驚き、グリッドを見る。

グリッドの外見にスタースクリームは1人の少女を被らせた。

☆

その後、スタースクリームはグリッドと本音によって引つ張られて外に出され、後ろを薫子と虚が微笑ましそうに見る。

虚「そう言えばグリッドさんとはどうやって?」

薫子「あー…実はグリッドは2年前にお姉ちゃんが保護した子でIS学園には一緒に入ったんですよ」

思い出して聞いた虚は返された事に成程…と納得して妹と歩くグリッドを見る。

スタースクリーム「(なぜ私は生きて、マイクロンと人間と同じ大きさになっているか分からない…神が何かを私に成せと言うのか?)」

引つ張られながらスタースクリームは思考していると頭上からの悪意に顔を上げる。

キュアメイガス「あら、気づかれちゃった」

そこにいたのはキュアメイガスで本音はビクツとする中でスタースクリームが前に出て左翼を変形させてウイングブレードにして構える。

スタースクリーム「貴様は何者だ！」

キュアメイガス「私は悪意の魔眼、キュアメイガス。ワールドデストラクターズの一員よ」

切っ先を向けるスタースクリームにキュアメイガスはそう名乗る。

スタースクリーム「ワールドデストラクターズだと？何が目的だ？」

キュアメイガス「ふふ、しいて言うならこの子達の相手探しかしら」

何？とスタースクリームが警戒すると前方から向かって来る5機のマシんに気づく。

それぞれ巨大な銀色の消防車と赤と青のヘリコプター2機に紫のステルスカーに黄色のパワーカーであった。

キュアメイガス「メガエンプレスたち！トランスフォームよ！」

消防車「了解です！メガエンプレス！トランスフォーム！」

赤ヘリコプター「ルナクローバー！トランスフォーム！」

青ヘリコプター「ムーンハート！トランスフォーム！」

ステルスカー「フロウスペード！トランスフォーム！」

パワーカー「トリックダイヤクランスフォーム!」

キュアメイガスの指示のもと、5機のマシンはロボットに変形する。

スタースクリーム「トランスフォーマーだど!」

メガエンプレス「違いますわ。私たちはゴッドマスターと言う存在ですわ」

本音「ゴッドマスターって：レオレオと同じ!」

驚くスタースクリームへと答えたメガエンプレスのに本音は驚く。

キュアメイガス「さあ、行きなさい!」

スタースクリーム「グリッド!お前たちは離れる!!」

号令と共に襲い掛かるメガエンプレス達にスタースクリームはそう言つて虚達を巻き込まない様に走り出してメガエンプレスが持つていたピツケルによる攻撃をジャンプで避けると共に彼女の肩を踏み台にして後ろに飛ぶ。

ルナクローバー「良くも女帝を踏み台に!フレイムソード!」

ムーンハート「ブリザードブレード!!」

そんなスタースクリームへとルナクローバーとムーンハートはそれぞれ持つ剣から炎と氷を放ち、スタースクリームはバックステップで避ける。

フロウスピード「トルネードカッター!」

避けた直後のスタースクリームへと向けてフロウスピードが手裏剣を投げつけると

竜巻が起こる。

スタースクリーム「でやああ！」

それに対しスタースクリームはウイングブレードを構えると気合の一閃と共に竜巻を両断する。

フロウスペード「何!?! 竜巻を切り裂いただと!?!」

トリックダイヤ「人間サイズの癖に生意気く! クエイクシールドく」

それにフロウスペードは驚いた後にトリックダイヤが手に持っていたシールドを地面に叩き付ける。

シールドが叩き付けられると震動が起こり、スタースクリームは動きが止まる。

スタースクリーム「しまった!?!」

メガエンプレス「覚悟しなさい! レールカノン砲!」

そのまま動けないスタースクリームへとメガエンプレスは背中のレールカノン砲を放つ。

薫子「やばい!?!」

虚「あれでは直撃!?!」

迫るビームに軽減しようとスタースクリームはウイングブレードを前に出す。

ビッグコンボイ「ビッグキャノン! ゴー!!」

だが直撃する前に放たれたビッグコンボイのビームが相殺する。

虚「ビッグコンボイ!」

スタースクリーム「コンボイだど!」

ビッグコンボイ「どうやらまたやって来た様だなキュアメイガス!」

ブレイク達と共にビッグコンボイはキュアメイガスを見る。

ただブレイク達はスタースクリームを見て驚く。

ブレイク「おい、あいつって!?!」

コラーダ「スタースクリームか!?!」

ハインラッド「けど、僕達の知るのととは違う気がするんだな」

マツハキツク「確かに俺達の知る知識のとは違う闘気を発してやがる」

スタンピー「つ、つまり、平行世界のもつて事ですか?」

ロングラック「ど、どうしますビッグコンボイ」

隊員達がそれぞれ言う間にビッグコンボイはスタースクリームの隣に来る。

ビッグコンボイ「1つ聞く。お前は我々の敵か?」

スタースクリーム「目の前の奴らの敵と言えば?」

返された事に十分だとビッグコンボイはビッグキャノンメガエンプレス達へと向ける。

キュアメイガス「仕方ないわね：メガエンプレス、4ガード！合体しなさい！」
メガエンプレス「了解しました！」

スタースクリーム「何!？」

ブレイク「合体だど!？」

驚くスタースクリームとビッグコンボイ部隊を前にメガエンプレス達は飛び上がる。

メガエンプレス「メガエンプレス!!」

ルナクローバー&ムーンハート&フロウスベード&トリックダイヤ「4ガード!!」

メガエンプレスとルナクローバー達4ガードの咆哮が響き渡り、5人は飛び上がる。

メガエンプレス&4ガード『ゴツドリंक!』

宣言と同時にそれぞれが変形を開始、合体体勢に入る。

まずルナクローバーとムーンハートがそれぞれ頭部を収納し、両足を合体させるとその下から手が出現させて腕へとなる。

続いてフロウスベードとトリックダイヤはビークルモードとなつた後に車前部分が真ん中から動物が口を開く様に展開して合体ジョイントを露出し、後方部分には足が展開して脚となる。

最期にメガエンプレスがレールカノン砲を分離させた後に頭部を収納し、両腕をそれ

ぞれ肩に収納した後に足を腰まで収納して左右にそれぞれ90度回転させて合体の為のジョイントを展開すると変形した4ガードがメガエンプレスの周囲に配置され、ルナクローバーとムーンハートはメガエンプレスの肩アーマーと合体してそれぞれ右腕と左腕となり、フロウスピードとトリックダイヤはメガエンプレスの両足に合体、新たな右足と左足となり、最後に分離したレールカノン砲が変形してメガエンプレスの胸に合体して追加装甲となり、レールカノン砲先端が新たな顔となった後に新たな姿となったメガエンプレスは4ガードと自身の武器が合体した合体剣デストピアを握り名乗りあげる。

メガエンプレス↓メガトロニア『女帝合体!メガトロニア!!』

名乗りあげたメガトロニアは驚いているスタースクリームとビッグコンボイ部隊の前に降り立つ。

スタースクリーム「が、合体したと!?」

スタンピー「で、デカい…」

マツハキツク「改めてカーロボットチームやギガストームの大きさが羨ましいと感じるぜ」

誰もがメガトロニアに圧倒される中でメガトロニアは合体剣デストピアの赤色発光

する剣先をビッグコンボイ達に向ける。

ビッグコンボイ「散開しろ！ 奴の剣に当たらない様に動き回れ！」

ブレイク「りよ、了解!!」

すぐさま全員その場を離れると先ほどまでいた場所に合体剣デストピアが振り下ろされる。

ビッグコンボイの指示の元、ブレイク達はサイバトロンバスターや持ち前の銃火器で攻撃を仕掛けるがメガトロニアはもろともせず合体剣デストピアを振るう。

メガトロニア「そんな攻撃、全然効かないわよ！」

スタースクリーム「くっ！この！」

そこにスタースクリームがエネルギーを込めたウイングブレードで斬りかかるが合体剣デストピアに防がれて体格さと力の違いもあって手から弾き飛ばされ…

メガトロニア「はあ！」

右翼を両断されてしまい、続けざまのパンチで吹き飛ばされる。

スタースクリーム「ぐあ!!」

本音「スタースクリーム！」

グリッド「!?!」

木にぶつかり、地面に倒れるスタースクリームに本音は叫び、グリッドも顔を歪める。

メガトロニア「ふふ、これで終わりですわね」

ビッグコンボイ「させん!ビッグキャノン!」

キュアメイガス「撃たせないわよ!プリキュア!アイズブラスター!!」

スタースクリームへと迫るメガトロニアにビッグコンボイは攻撃を仕掛けようとしたがキュアメイガスが放った暗黒の光に妨害される。

その間に倒れていたスタースクリームはなんとか起き上がろうとする。

スタースクリーム「わ、私は…また死ぬ訳にはいかない…なぜ生き返ったのか…その答えを知る為に…」

メガトロニア「ならその答えは私に殺されると言う事で…散りなさい!」

そう言って起き上がったスタースクリームへとメガトロニアは剣を振り下ろそうとして…飛んで来た鉄拳が脇腹へと炸裂して倒れる。

メガトロニア「がはっ!」

キュアメイガス「何!」

スタースクリーム「今のは…」

???「間一髪だったでありますな」

???2「ギヤツギヤツギヤツ!何ピンチになってるんだよスタースクリーム。しかも小

さくなってるしよ」

いきなりの事に誰もが驚く中で聞こえてきた声に誰もが見る。そこにいたのは青色の二足歩行の龍に緑色のロボットがいた。

鉄拳はロボットの両腕へと戻る様に装着される。

スタースクリーム「その声は…姿が違うがアイアンハイドにサンドストームか!?」

2??? ↓ドラゴストーム「懐かしい名前だな。今の俺はドラゴストームだ」

3??? ↓アイアンゼノン「自分はアイアンゼノンになったであります！それとスタースクリーム、お前に届け物であります」

困惑するスタースクリームに近寄って自分の名を言った後にアイアンゼノンがそう言っている物を取り出す。

それは金色の輪っかで包まれた青く輝く球であった。

ビッグコンボイ「あれは!?まさかマトリクス!?」

マツハキツク「マジかよ!」

スタンピー「でも、なんでデストロンと思われる人たちが!」

何なのかに気づいて驚くビッグコンボイ達を後目にアイアンゼノンはスタースクリームへとそれを渡す。

スタースクリーム「なぜ私にサイバトロン司令官の証を!」

ドラゴストーム「それが違うらしいぜ。そのマトリクスは」

アイアンゼノン「穴に吸い込まれかけた自分達を助け、そして預けた者が言うには未来を守る、守る者（コンボイ）の証との事であります」

2人から告げられた事を守る者の証…とスタースクリームが呟いた後にマトリクスは輝きを強め、スタースクリームを包み込むと光りは大きくなっていく。

キュアメイガス「クッ！止めなさい！」

メガトロニア「はっ！」

ドラゴストーム「おっと！それはさせねえぜ！」

アイアンゼノン「であります！」

それを食い止めようとするメガトロニアにドラゴストームとアイアンゼノンが阻む。

アイアンゼノン&ドラゴストーム「フォースチップ！イグニッション!!」

咆哮するとその体から放たれた光が天空へと行き上空に渦を巻き起こす。

その後上空の渦の中から飛び出してきたデストロンのエンブレムが描かれたフォースチップが無い降りて2人の背中のチップスロットへと飛び込む。

アイアンゼノン「ゼノンビーム!!」

ドラゴストーム「ドラゴグラーズ!!」

アイアンゼノンは額と胸のデストロンマークから光線を放ち、ドラゴストームは口から強烈な氷結弾を放つ。

メガトロニア「きゃあああ!」

それにメガトロニアは吹っ飛び倒れる中でスタースクリームを包んでいた光りが弾け飛ぶとそこには姿が変わり、大きさもアイアンゼノン達と変わらない大きさになったスタースクリームの姿があった。

身体は飛行機から裝飾などがほとんどないトレーラーへと変わり、右肩にサイバトロ、左肩にデストロンのエンブレムが刻まれていた。

顔の形は変わっておらず、スタースクリームは自分の手を見る。

スタースクリーム「これが：私の新たな姿：守る者（コンボイ）としての姿：」

ビッグコンボイ「あの身体：間違いない：一部の色と細部は違うがスターコンボイだ！」

ブレイク「す、スターコンボイ!」

ロングラック「そんなコンボイがいるんですか!」

驚くスタースクリームの姿を見てそう言うビッグコンボイに誰もが驚く。

ビッグコンボイ「ああ、ビクトリーレオ達の世界の初代コンボイがなっていた姿だ。コンボイと共に見た記録の中にあつた」

スタースクリーム↓スターコンボイ「スターコンボイ：別の世界の：しかも始まりのコンボイがなっていた姿とは：ならば恥じぬ様にせねばな!」

そう言ったビッグコンボイのにスタースクリーム改めスターコンボイはふつと笑ってそう言ううとメガトロニアにより弾き飛ばされたウイングブレードを掴んで構える。

するとウイングブレードもスターコンボイが光りに包まれた様に輝くとスターコンボイの手に相応しい大きさととなり、中央がフォースチップの様な柄となつて刀身が白銀に輝く剣へと生まれ変わる。

メガトロニア「ふん、姿が変わつたからつて良い気にならない方が良いですわ」

スターコンボイ「舐めないで貰おう！戦士として！そして守る者（コンボイ）として選ばれた者として！スターコンボイ！参る!!」

その言葉と共にスターコンボイの顔はコンボイ達と同じフェイスガードで覆われると共に駆け出し、メガトロニアの合体剣デストピアとぶつかり合う。

体格差が縮まったがまだ大きいメガトロニアにスターコンボイは先ほどとは打って違つて互角の、それ以上の剣舞を見せる。

メガトロニア「な、なぜ!？」

スターコンボイ「成程な、どうやらそちらは剣の腕は長けてない様だな。ただ巨大な体と力任せのに負ける程、甘くはない!」

その言葉のまま、スターコンボイはメガトロニアの手から合体剣デストピアを弾き飛ばす。

そしてスターコンボイは先ほど光に包まれていた時に聞こえたアイアンゼノンとドラゴストームの声や新たな姿となった事で頭に来たプロセスを行う。

スターコンボイ「フォースチップ！イグニッション!!」

咆哮するとその体から放たれた光が天空へと行き上空に渦を巻き起こす。

その後上空の渦の中から飛び出してきたデストロンとサイバトロンのエンブレムが描かれたフォースチップが舞い降りて剣のチップスロットに飛び込み、剣の刀身が光り輝く。

そのままスターコンボイは剣を天高く掲げ、その全身がフォースチップの力の輝きに包まれる！

スターコンボイ「必殺!」

渦巻くエネルギーに導かれ、浮き上がったスターコンボイは一気にメガトロニアに突っ込み：

スターコンボイ「スターライト！ファイニイイイイッシュ!!!」

渾身の力で振るった一撃がメガトロニアの身体を深々と斬り裂くと同時に叩きつけられたエネルギーが爆裂する。

メガエンプレス&4ガード「きゃあああああああああ!!」

その一撃にメガトロニアは吹き飛んでる途中で合体が解除され、5人は地面に倒れ

る。

キュアメイガス「っ!予想外過ぎるわ!」

そう言うときュアメイガスはメガエンプレス達と自分を囲む様に魔法陣を展開すると消えてしまう。

スターコンボイ「逃げたか…」

マグナコンボイ「おーい!」

それを見届けてスターコンボイはフェイスガードを解除する中でマグナコンボイや箒達が来る。

ラウラやシャルロットも付いて来ていてそれぞれ専用機を纏っている。

タスマニアキッド「おいおい、なんか見慣れないのいるぞ」

ダイバー「テストロンマークが付いてるみたいやけど…」

ラウラ「分かる事はもう終わった所か?」

ビッグコンボイ「ああ、我々が見たのとそちらの情報交換をしよう」

それぞれスターコンボイやアイアンゼノン達を見る中でグリッドがスターコンボイに近寄る。

スターコンボイ「ん?なんだ?」

グリッド「スター…コンボイ…ありが…とう」

薫子「おお!?グリッドが喋った!喋れる様になった!!」

しゃがんで聞くスターコンボイにグリッドはたどたどしいがお礼を言い、それに薫子は驚きながらも嬉しそうに万歳する。

それに虚と本音は良かったねと笑いあう。

☆

一方その頃、IS学園のひっそりとした場所でキュアメイガスの姿があった。

キュアメイガス「まさかまた新たな存在が現れるとは…これは他にも増やした方が良いわね」

???「おい、そこで何してやがる」

ぶつぶつ呟いていたキュアメイガスは後ろからの声に振り返る。

そこには2人の女性がいた。

???2↓ゾルフ「こいつ、前に隠れて見ていた戦いで女じゃないか、しかもこの俺、ゾルフ・アビコの女にしようとした本音を殺そうとした」

キュアメイガス「あら?それならどうする?」

???↓メラン「こちとら暴れられなくて苛立つてるんだ!このメラン・シュナイダー様

のストレス発散になりやがれ!」

それに殺気出す2人の少女にキュアメイガスはあらあらと呟く。

キュアメイガス「なら、あなた達はミストレスの駒にしてあげるわ」

その言葉から数分後、誰にも聞こえない様にされた空間でメランとゾルフの悲鳴が迸る。

新たな戦士達が加わる中、相手も自らの手下を作り上げる。

負けるなコンボイ、箒達よ!

細 スターコンボイ&アイアンゼノン&ドラゴストームの詳

スターコンボイ

外見：トランスフォーム リターン・オブ・コンボイのスターコンボイに近いが顔はマイクロン伝説のスタースクリームで両肩の上のシヨルダーキャノンが外されていて、左肩のエンブレムがデストロンのに変わっていてカラーリングもマイクロン伝説のスタースクリームのに沿ったのになっている

概要

スタースクリームがマトリクスにより変化した姿。

戦う際は顔はフェイスガードで覆われコンボイと変わらない感じになる。

武装が極端に減っていて武器としてウイングブレードが変化した中央がフォースチップの様な柄となって刀身が白銀に輝く剣スターカリバーだけであるがそれを補う剣術を駆使する。

トレーラーにトランスフォームするが原典のスターコンボイの様に基地形態は持つ

ていない。

チップスロットはスターコンボイ自体に存在していないがスターカリバーの柄に搭載されている。

スターカリバーにイグニッションする事で強力なエネルギーを身に纏い、強烈な一撃、スターライトファイニッシュを発動する事が出来る。

アイアンゼノン

外見：見た目は電光超人グリッドマンのゴッドゼノンだが、各アシストウエポンのメインカラー部分を緑色に統一しており、胸のマークがデストロンのに変更されている。

概要

アイアントレッドがとある人物の力で変化した姿。

この姿になった際にその人物の力でアイアンハイドの時の記憶が戻ってアイアンハイドの時の性格に戻っている。

ビークルモードになる際は大型ジェット機、ドリル戦車、戦車へと分離する。

メインの意思は大型ジェット機にあり、ドリル戦車と戦車はアイアンゼノンの意思で動く。

戦車に付いている二門の砲門は腕に装着される。

チップスロットを背中（外見元のサンダージェットのサンダーグリッドマンの胸部部分となる所の上半分）にある。

イグニッションする事では額と胸のデストロンマークから光線、ゼノンビームを放てる。

ドラゴストーム

外見：見た目は電光超人グリッドマンのダイナドラゴンだが、メインカラーである赤色の所を青色に変更されており、おでこの部分にデストロンのエンブレムが刻まれている。

概要

スノーストームとある人物の力で変化した姿。

笑いが『ギヤツギヤツギヤツ』になっている。

龍の姿がロボットモードになっており、ビークルモードは超大型戦闘機にトランスフォームする。

口から氷の息吹きや氷結弾を放つことが出来る。

チップスロットは背中に存在する。

イグニッションする事で口から強烈な氷結弾、ドラゴグラースを放てる。

第16話：新醒再誕！フォー스コンボイ!! 前編

前回から少ししてコンボイ達の前にスターコンボイとアイアンゼノンにドラゴグ
ラースがいた。

コンボイ「初めましてだね。私はこのサイバトロンの総司令官を務めるコンボイと言
う。ビーストコンボイでも呼び方は好きにして良いよ」

スターコンボイ「あなたがこの世界のサイバトロンの総司令か：しかしコンボイが複
数いると言うのに驚きだ：後小さい」

アイアンゼノン「確かにそうでありますな：人間サイズでありますな」

ドラゴグラース「まあ、こつちはどうでも良いけどな：小さいのはデフォなのか？」
タスマニアキッド「あ、やっぱそこ突っ込む？いやー俺達もホントビックリしたから
な……」

自己紹介するコンボイにスターコンボイ達3人はコンボイ達を見てそう言い、タスマ
ニアキッドは腕を組んでうんうんと頷く。

コンボイ「君達もやはり彼によってかい？」

ドラゴグラース「あんたの言う彼があ存在で合ってるなら変な穴に吸い込まれそう

になった時に助けられてな」

アイアンゼノン「その際にスタースクリームもといスターコンボイの事を聞いて、さらにそちらが探しているマジンの事も聞いたであります」

スターコンボイ「マジン? すまないがマジンとは一体?」

確認するコンボイにそう答えたアイアンゼノンのにスターコンボイは首を傾げて聞く。

コンボイ「君達の世界では有名になつてるか分からないが…破壊神マジンザラックの事さ」

スターコンボイ「ま、マジンザラック!? あの伝説の破壊神!? それがこの世界に存在するのca!」

ライオコンボイ「理由としてこの世界の歪みに引つ張られてどこかで眠っていると我々を送った人物は言っていた」

驚いて聞くスターコンボイにライオコンボイが代わりに答える。

スターコンボイ「マジンザラックが暴れば大災害ではすまないぞ!」

コンボイ「だからこそ我々も探してはいるんだが…なかなか手がかりを見つけれないんだ」

アイ「様々な所から情報を探してはいるけど見つからない事から…」

アイアンゼノン「誰かに回収されている可能性があるって事でありませぬ」
スターコンボイの腕を組んで言うコンボイのを引き継いで言ったアイはアイアン
ゼノンのにそれが高いわと返す。

ドラゴストーム「やれやれユニクロンの次はマジンザラックってか？」

スターコンボイ「怖気づいたか？」

そうばやくドラゴストームにスターコンボイは茶化すとドラゴストームは笑う。

ドラゴストーム「ギャツギャツギャツ！誰が怖気づくか！逆に暴れがいがあつてやる
気満々だぜ！」

スターコンボイ「貴様ならそう言うと思つたぞ：コンボイ、デストロン代表としてサ
イバトロンと共闘を申し出たい」

その言葉の後にスターコンボイは手を差し出して握手を求める。

コンボイ「こちらこそ、ありがたい。ワールドデストラクターズと言う組織もいるか
ら協力者は多い方がよい。チェンジ！パワーコンボイ！」

そう言つてコンボイは言うコンボイの体は光に包まれてスターコンボイ達と同じ
大きくなり、大きくなった手でスターコンボイと握手する。

アイアンゼノン「大きくなれるでありますか!？」

パワーコンボイ「まあ、この姿はあくまで君達のように大きいトランスフォーマーと

握手する際のね。そこまで強い力を発揮できないからあつちの姿でいるんだ。チエン
ジ! ビーストコンボイ!」

それに驚くアイアンゼノンにそう答えた後に再び小さくなる。

☆

翌日、ルリカは肩にピーコを肩車しながら一夏達と外出していた。

向かうのは五反田食堂でルリカやシャルロット達の歓迎会をする為である。

ピーコ「楽しみだねルリルリ」

ルリカ「そうだね」

ほむら「俺がいても良いのか?」

簪「お姉ちゃんの変わりですし」

虚「そうですよ。お嬢様には書類を纏める仕事がありますし」

シャルロット「だからお姉ちゃんに頼んでたんですね」

本音「お姉ちゃんがない時はいつも頼んでるからね」

嬉しそうに言うピーコにルリカは微笑む中でそう聞くほむらに簪はそう言い、虚もう
んうんと頷いてそう言い、本音のに大変だなお姉ちゃんとシャルロットは呟く。

しばらくして五反田食堂に着く。

弾「いらつしやい！つて一夏達じやねえか。今日は何の用だ？」

一夏「今日は転校してきたこの人達の歓迎会をしようと思つたんだ」

出迎えた弾に一夏はそう言う。

ラウラ「初めまして、私はラウラ・ボーデヴィツヒと言う」

クロエ「その姉のクロエ・ボーデヴィツヒと言います」

シャルロット「シャルロット・デユノアです。よろしくね」

ルリカ「蜂須賀ルリカだよ。よろしく」

ピーコ「ピーコだよ」

ほむら「俺は大道寺ほむらだ。よろしくな」

弾「よろしく…つてデユノアつてあの有名なデユノア社か!?しかも社長!?!」

挨拶するラウラ達のを聞いた後に弾はシャルロットを見てマジか!?!と驚く。

鈴「へえゝ意外ね。弾の事だから知らないと思つてたわ」

弾「ウチに来るレスラーの人達や身体に不自由な人達が話したりしてる時に話題出て

るからそれで知ってるんだよ」

心底意外そうに言う鈴に弾はそう返す。

虚「弾さん、前日はありますがどうございます」

キュアメイガス「それにしても……洗脳で変貌させたとはいえあんな臆病だったのが凄く変わったわね……」

さりげなく元より劇的に変わった変貌ぶりに少し驚きながらであったが……

☆

そんな事を知らない一夏達は早速頼もうとすると2人の男性が入って来る。

男性「こんにちわ〜食べに来ました」

男性2「へえ〜ここが荒岩さんのオススメの食堂なんですわね」

蘭「いらつしやい！今日は連れの方がいるんですわね」

そう言つて入って来る男性の後ろにいた人物に蘭は聞く。

荒岩「ああ、彼……ジンライ君は先ほど困つていた所を助けてくれてね。なんでも気づいたら無一文でお腹が減つていたからお昼と一緒に食べる事にしたんだ」

ジンライ「いや、こつちこそ初対面なのに世話になつて貰つて……」

お金は必ず返しますと言うジンライにまずは働く場所を見つけてからだよと笑う荒岩にジンライはそつスねと笑う。

その中で弾は驚いた様子でジンライを見ていた。

荒岩「そう言えば、名物の2人はいないんだね」

弾「あ、ああ…あの2人は今日は本業の方に行ってます。だから来るのは夜です」
聞かれて我に返った弾の返しに成程…と納得して荒岩はジンライと共に座ろうとし

：

ドカーーン!!

一夏「わとと!?!」

鈴「何事!?!」

いきなりの爆発音と悲鳴に誰もが驚いて出る。

するとそこに6体のロボットがビームを撃って暴れていた。

荒岩「あ、あれは一体!?!」

シャルロット「見るからに悪者だよね!」

鈴「もしかしたらワールドデストラクターズかもね」

驚く荒岩の後ろでシャルロットと鈴は小声で話す。

弾「やべえ! 荒岩さん、早く避難を! ジンライさんも!」

そう言っつて弾は走り出し、ジンライもあ、どこに行くんだ!と走り出す。

箒「弾! 我々も行くぞ! ラウラとクロエはサイバトロンに連絡を! セシリアと簪にルリカと本音と虚先輩、ほむら先輩は避難誘導の手伝いを、鈴とシャルロットは私と一夏

と共に奴らの注意を引くんだ」

鈴「OK！」

シャルロット「分かった！」

箒の指示に誰もが頷いた後に箒達はISを身に纏ってそれぞれ行動を開始する。

ほむら「あーくそ、専用機があればな……」

ルリカ「言っても仕方ないから私達に出来る事をしましょう先輩」

それにほむらはぼやいたがそうだなとルリカのに頷いて荒岩と共に本音と虚に続く。

一方の弾は誰もいない事を確認して両腕を交差する。

弾「マスターフォー스!!」

掛け声と共に右腕に付けていたブレスレットが光りを発し、それと共にジンライが来る。

光りが晴れると弾の姿はバシンコンボイに似た姿となっていた。

ジンライ「な、弾くん……なのか!？」

弾↓バシン「はい！この姿ではバシンと名乗ってます。ジンライさん。いえ、別の世界のサイバトロン総司令で元ゴッドマスターのジンライさん！」

驚きの声を上げるジンライにバシンはそう言うと言おうとジンライはさらに驚く。

ジンライ「なぜ俺がサイバトロンで元ゴッドマスターだと!？」

バシン「あなたの知り合いから総司令を通じて行方不明になったあなたを探してほしいと頼まれたからです!そろそろ行きます!詳しい話は後で!」

そう言つてバシンは建物を飛び移りながら移動し、それを見ていたジンライも慌てて追いかける。

☆

戻つて箒達はロボット達と交戦を開始したが鈴を見ると箒達を無視して鈴へと狙いを定めて攻撃を仕掛けて来たのだ。

鈴「何なのよ〜!」

ロボット「撃て撃て!」

箒「鈴!この!」

必死に上空で逃げ回る鈴をロボット達がビームを放つ中で箒は助けようとリーダー格であるロボットに斬撃を放つ。

ロボット「うお!?!このワールドデストラクターズの一員でビルドローンのリーダーでゴッドマスターのスクラップパー様を狙うのは誰だ!」

箒「やはりワールドデストラクターズか!しかもゴッドマスターだ?!?だが貴様等の

好き勝手にはさせせん！」

??? 「その通りだ！」

怒るロボット、スクラッパーに対して箒が返すと言葉と共にスピードブレイカーとゴッドマグナスに龍型ロボットに乗ったバシンが来る。

スクラッパー「何者だ！」

バシン「お前と同じゴッドマスターだ。違いは俺はお前の様な暴れ者を止めるサイバトロンの一員だ！ 行くなバシンドラゴン！」

問うスクラッパーにバシンはそう返すと龍型ロボット、バシンドラゴンは吠える。

バシン『トランスフォーム！』

咆哮と共にバシンドラゴンも再び咆哮すると腰部部分が後ろにスライドし、立ち上がって後ろ足が直立になる。

次に前に出ていた前足も手首部分が縦回転してカギヅメから人の手へと変わる。続いて龍の顔が胸へと移動すると共にコンボイフェイスが出て来る。

バシン『ゴッド——オン！』

最後にバシンの身体が光に包まれた。

その姿を確認できないほど強く輝くその光は、やがてバシンの姿を形作り——そのまま

まロボットモードになったバシンドラゴンと同等の大きさまで巨大化すると、その身体に重なり、溶け込んでいき、現れた顔の瞳が水色に輝く。

バシンコンボイ『バシンコンボイ! ブレイヴイン!』

拳をぶつけあつた後にポーズを取って力強く名乗りあげる。

スクラツパー「なーにがブレイヴインだ! 何人増えようと貴様達が俺様に勝てるなんて出来ねえよ!」

名乗りあげてから着地するバシンコンボイにスクラツパーはそう言う。

スピードブレイカー「すっごい自信だな」

ゴツドマグナス「自意識過剰過ぎて足元掬われると思うぜ」

五月蠅い五月蠅い五月蠅い! とスクラツパーは叫んだ後に5体のロボットに向く。

スクラツパー「ロングハウル! ミックスマスター! グレン! ボーンクラツシャー! ス

カベンジャー! 俺様達ビルドロン of の恐ろしきを見せてやる! 合体だ!」

バシンコンボイ「何!?!」

箒「奴も話に聞いたメガトロニアの様に合体が出来るのか!?!」

それに誰もが驚いている間にスクラツパーは合体プロセスを行う。

スクラッパ 『ビルドロン！ゴッドリンク開始!!』

咆哮と共にスクラッパを含めて6体のロボットはビークルモードとなると走り出す。

スクラッパ 『フェイズワン!』

ダントラップのロングハウルはダンプトラックから変形して胴体の様になる。

続いてシヨベルドーザーとなったスクラッパがミキサー車となったミックスマスターと共に変形して足となるとスクラッパは右脚、ミックスマスターは左脚となる。

クレーン車となったグレンはロングハウルの上部分に合体すると胸部分にプレストアーマーが装着される。

スクラッパ 『フェイズツー!』

ブルドーザーになったボーンクラッシャーと装軌式シヨベルカーとなったスカベンジャーが腕へと変形し、ボーンクラッシャーは左腕、スカベンジャーは右腕となって合体する。

最期に合体したグレンから顔が展開されると目が輝く。

スクラッパ ↓デバスター 『巨人合体！デバスター!!!』

ビームライフルを持ってその名を名乗りあげる。

スピードブレイカー「こいつ等も合体すると大きくなるな」

ゴツドマグナス「しかも6体合体とは…だが数が多けりやいいだけでもないぜ!」

デバスター「ほぎけ!デバスター様の力を思い知らさせてやる!」

ビームライフルを発砲するデバスターのにバシンコンボイは上に飛び上がって避けた後に蹴りを叩き込む。

デバスター「効かんわ!」

バシンコンボイ「ぬお!」

だがデバスターは微動だにせず、バシンコンボイを掴むと投げ飛ばす。

投げ飛ばされたバシンコンボイはなんとか態勢を立て直して着地する間にゴツドマ

グナスはマグナバルカンで攻撃し、スピードブレイカーも援護射撃をする。

鈴「いつけ!」

シャルロット「この!」

それに鈴も自身の専用機である甲龍の衝撃砲、シャルロットも持っていたガトリング砲で追撃する。

デバスター「効かんわ!!」

飛んで来る砲撃にデバスターは腕でガードして防いだ後に鈴とシャルロットに向けて目からビームを放つ。

鈴「わとと!？」

シャルロット「危ない!」

慌てて2人は向かって来るビームを避ける。

気を逸らそうと一夏と箒が攻撃を仕掛けようとしてキュアメイガスが遮る様に現れる。

キュアメイガス「はい、そこまで」

箒「お前はキュアメイガス!」

一夏「この女性が!」

警戒する箒と一夏にキュアメイガスは目の様なのが複数付いた不気味なボールは取り出すと落ちていたクマのヌイグルミに目を付ける。

キュアメイガス「来なさいホシイナー!」

そう言つてボールを投げ付け、ボールがクマのヌイグルミに当たると：

???「ホシイナー!!」

ボールの目がカッと開かれると共に巨大化してモンスターへと変貌する。

一夏「うえ!？」

箒「も、モンスターになつただと!？」

キュアメイガス「さあ、奴らを倒しなさいクマホシイナー!」

クマホシイナー「ホシイナー!」

驚いている2人を指さしてそう言う。

クマホシイナーは腕を振るい、一夏と箒は慌てて避ける。

ルリカ「何、あれ!？」

ほむら「あれはホシイナー!」

現れたのに驚くルリカの隣でほむらがそう言った後に物影にルリカを引つ張りこむ。

ルリカ「え、え?」

ほむら「変身するんだよ。あいつにはプリキュアの力でしか浄化できないんだよ」

戸惑うルリカにほむらはそう言う。

ルリカ「な、成程…：それならピーコ!」

ピーコ「おお!」

納得した後にルリカはキュアチェンジジャーを取り出し、ピーコも頷いてキュアチェンジジャーに戻る。

底部分をずらしてスリットを出した後にカードを1枚取り出す。

ルリカ「プリキュア!カードスラッシュ!!」

そう言つて現れたスリットにカードをスラッシュする。

ピーコ「ちえくんじ!!」

その後にはピーコの声と共にスマホの画面が光り輝くと光の風がルリカを包み込む。

光の風が身体に張り付くとスパッツを下に履いた紫色の縁にフリルが縫われた右胸に手裏剣型アクセサリを付けたミニスカなくノ一衣装へと変わり、両腕にアームカバー、両足にフットカバーと足袋型ブーツと変わって行き、最期に腰までであった髪が足の膝まで伸びて手裏剣型の髪留めでポニーテールに纏められる。

続いてほむらはスマートフォンのアイコンの1つをタッチする。

ほむら「プリキュア・ブレイブコンバイン!!」

咆哮と共にスマートフォンの液晶場面が輝き、ほむらを包み込む。

光の中でほむらは身体が炎に包まれ、炎が弾け飛ぶとその身に赤ずきんチャチャのマジカルプリンセスをベースにしたワンピースでその胸部分に鷲を模したプレスストアーマーを装備し、肩にファイヤードグオンの肩を模したシヨルダーアーマーを装着し、スカートの下はスパッツを履き、腕に肘まで覆うアームカバーを装着しており、右手が赤、左手が白になっている。

足に膝まで覆う黒いブーツを履いていて、胸の真ん中に宝石が装着し、頭にファイヤードグオンの顔の横の翼状のと頭の金色の角を模したカチューシャを装着すると髪は炎の様な深紅に染まる。

変身が完了した後にキュアスパイとキュアコマンドは頷きあつた後に駆け出す。

クマホシイナールと戦う筈と一夏だが攻撃が効かずに焦っていた。

筈「くっ!こいつ…全然効いていない!?!」

一夏「確かにI Sの攻撃が全然効かない!」

キュアメイガス「ふふ、どうやらこの世界の中では太刀打ちできない様ね」

その様子にキュアメイガスが笑っているとキュアスパイとキュアコマンドがパンチを叩き込んでクマホシイナールは地面に倒れる。

キュアスパイ「真実を求める闇夜の忍者、キュアスパイ!!」

キュアコマンド「特命の勇者戦士、キュアコマンド!!」

名乗りあげた後にキュアコマンドはキュアメイガスを指さす。

キュアコマンド「キュアメイガス!てめらの悪だくみはそこで止めさせて貰うぜ!」

キュアメイガス「現れたわね!だけど、貴方達にはこれよ!」

そう言つてキュアメイガスは今度は仮面を取り出す。

キュアメイガス「出て来なさいコワイナール!」

電柱へと投げ飛ばす。

仮面は電柱に張り付くと張り付いた所から変貌し…

???「コワイナール!」

新たな怪物になる。

一夏「また怪物が!？」

キュアコマンド「あれはコワイナーだ!」

箒「コワイナー? 怖い…のだろうか? いや、暗い所で見たら怖いだろうが…」

驚く一夏やメンバーへと説明するキュアコマンドのに箒は仮面のデザインを見てその述べる。

キュアメイガス「ふふ、甘く見てると足元を掬われるわよ」

???'「こういう風にか!」

それにキュアメイガスが笑って言った後にその言葉と共に全体が灰色な大型コンテナトラックが走って来て電柱コワイナーに突進するとそのまま吹っ飛ばす。

電柱コワイナー「コワイナー!？」

キュアメイガス「んな!？」

キュアコマンド「おいおい、誰だよ無茶するのは!？」

それには思わず誰もが驚く中で箒は運転席を見る。

乗っていたのはジンライであった。

箒「じ、ジンライさん!？」

一夏「危ないよ! 早く逃げて!」

ジンライ「悪いがそうはいかない!俺も元戦士として、この状況でジツとなんてして
いられるか!」

慌てて逃げる様に呼びかけるがジンライはそう言つてコンテナトラックを動かす。

キュアメイガス「バカな男ね!プリキュア!」

その言葉と共にジンライの周りに無数の眼が出現し:

キュアメイガス「アイズフラッシュ!!」

無数の目からビームが放たれジンライへと向けて包囲攻撃を仕掛ける。

ジンライ「うわ!?!」

慌ててジンライはドライブテクニクでなんとか避けて行くが乗り捨てられた車も

あるので:

ガンっ!

ジンライ「しまった!?!」

その内の1台にぶつかつてしまい、動きが止まった所に攻撃が降りそそぐ。

ドカーーン!!

ジンライ「うわあああああああ!?!」

箒「ジンライさん!」

攻撃の衝撃でコンテナトラックは吹っ飛び、横転する。

キュアメイガス「ふふ、電柱コワイナー！その男を始末しなさい！」

電柱コワイナー「コワイナー！」

その言葉と共に電柱コワイナーはコンテナトラックへと迫る。

箒「いかん！」

キュアコマンド「させるかよ！」

キュアメイガス「クマホシイナー！」

クマホシイナー「ホシイナー！」

慌てて止めようと向かう箒達だがそれより前にキュアメイガスやクマホシイナーに阻まれる。

スピードブレイカー達も向かおうとするがデバスターの攻撃により思う様に動けない。

大ピンチの中、横転したコンテナトラック内で頭から血を流したジンライは起き上がるうとしていた

ジンライ「うっ…諦めるか…」

そんなジンライへと電柱コワイナーは刻々と近づき、鞭となった電線を振るおうとし

…

ジンライ「諦めてたまるか!!!」

叫びと共にジンライの体からオーラが迸る。

ゴッドマスター登録完了。マスターに合わせて適合します。

それと共に音声が届き響くとコンテナトラックが輝き出し、電柱コワイナーは驚いた後に迸る衝撃に吹き飛ばす。

デバスター「な、なんだ!？」

スピードブレイカー「おいおい、まさかあのコンテナトラック!？」

ゴッドマグナス「トランステクターか!？」

誰もが起こりし事に驚きを隠せないまま光りが消えると灰色だったコンテナトラックはトラックは赤く輝き、コンテナに青いカラーリングが施されていた。

ジンライ「トランスフォー——ム!!!」

地へと響くジンライの咆哮と共にコンテナの横が後ろに行くように展開し、上部分も後ろ部分から先端へと折り畳まれた後に腕が展開され、残りの部分は足へと変形する。

トラック部分が後ろに移動すると共に90度起き上がると足もまた合わせる様に直立するとトラック部分は回転して胸となり、エンジンとなっていたのが追加アーマーとして装着されるとコンボイフェイスが顔として上に出現する。

ジンライ「ゴッドオン!!!」

最後にトラックの中にいたジンライの身体が光に包まれた。

その姿を確認できないほど強く輝くその光は、やがてジンライの姿を形作り——そのまま変形したコンテナトラックと同等の大きさまで巨大化すると、その身体に重なり、溶け込んでいき、現れた顔の瞳が青く輝く。

ジンライ↓フォースコンボイ『悪事を止める為、今再び俺は超人となる！悪人どもよ良く聞け！俺の名はジンライ改めフォースコンボイ！再・誕!!』

力強く名乗りあげる。

フォースコンボイ「超魂！ナツクルパンチ!!」

素早くクマホシイナーにフォースコンボイはエネルギーを収束させて強烈な右ストリートを炸裂させる。

クマホシイナー「ホシイナー!?!」

顔面に受けたクマホシイナーは吹き飛んで地面に倒れる。

その後にキュアメイガスへと指を突き付ける。

フォースコンボイ「さあ！ここからは俺も相手だ！行くぞワールドデストラクターズ！」

力強くフォースコンボイは咆哮し、力強く駆け出す。

第17話：新醒再誕！フォースコンボイ！！ 後編

フォースコンボイ「でえい！」

まずは電柱コワイナーへとフォースコンボイは殴りかかり、殴られて倒れた電柱コワイナーにフォースコンボイは連続パンチを浴びせて行く。

キュアメイガス「ダメージを受けているですって!？」

キュアコマンド「でやつ！」

電柱コワイナーの様子を見て驚くキュアメイガスにキュアコマンドが殴りかかり、キュアメイガスは腕をクロスして防ぐ。

キュアメイガス「ちい！邪魔するんじゃないわよ！」

キュアコマンド「お前等が悪さをやめねえ限りそれはないな！」

そう言つてぶつかり合いを始める。

キュアスパイは一夏と箒と共に動いているがクマホシイナーの暴れっぷりに苦戦する。

クマホシイナー「ホシイナー！」

箒「くっ！頼みの攻撃がキュアスパイだけと言うのが歯がゆいな！」

一夏「確かにこれじゃあ！」

キュアスパイ「なんとか動きを封じれば！」

どうしようかと思われた時、クマホシイナーの動きが止まる。

ラウラ「今だ！早く決めろ!!」

いきなり止まった事に誰もが驚いていると専用機であるシュヴァルツエア・レーゲンを纏ったラウラが手を突き出しながら強張った顔で叫ぶ。

ピーコ『スパイ!』

キュアスパイ「えええ！クリスタルクロス！はあああああ!!」

ピーコのに答えてキュアスパイは取り出したクリスタルクロスに集中して光りを集めるとクリスタルクロスはさらに大きくなる。

キュアスパイ「プリキュア！」

そのまま回転して勢いをつけ：

キュアスパイ「コウガノジョウカ!!」

投擲し、クマホシイナーを切り裂いた後にクリスタルクロスは頭上に飛んで行き、そこから光のシャワーを浴びせる。

キュアスパイ「成敗！」

クマホシイナー「ホワンホワンホワン…」

その言葉と共にクマホシイナナーは光となって消える。

キュアスパイ「後はコワイナナー!」

そう言ってキュアスパイは電柱コワイナナーとフォースコンボイの方を見るとフォースコンボイが上空へと殴り飛ばして居る所でその後両腕に二丁のライフルを握る。

フォースコンボイ「天超魂!」

まずはライフルを天に向けてとエネルギーが収束され:

フォースコンボイ「地超魂!」

続けて地面へとライフルの先端を向けると地からもエネルギーが収束され:

フォースコンボイ「人超魂!」

最期に自身の体からエネルギーを発して二丁のライフルに3つのエネルギーが収束される。

フォースコンボイ「受けて見ろ!人間の魂の力を!超魂!スペシャルファイヤーガッツ!!」

トリガーを引かれると共に強大な光弾が放たれ、電柱コワイナナーは光弾に飲み込まれる。

電柱コワイナナー「コワイナナー!?!」

ドカーーン!!!

光弾に飲み込まれた電柱コワイナーは断末魔を上げながら爆発し、その後に電柱が元の場所に出現し、落ちて着た仮面は粉々になる。

簪「す、凄い…」

虚「化け物を圧倒した！」

セシリア「なんと言う…」

誰もがその強さに度胆を抜かれる中で避難していた荒岩はフォースコンボイを目を輝かせて見ていた。

荒岩「間違いない！変形の仕方や名前を変えて名乗ったが私が前世で子供の頃に見ていた超人マスターフォースのスーパージンライだ！ジンライ君はやはりあのジンライさんだったのか！」

喜びを隠しきれない荒岩は嬉しきもあつたがまだ終わってないのと避難している事を思い出して感動は終わってからと気を引き締めて避難する。

バシンコンボイ「流石は総司令官と言われた人だ！俺も負けてられねえな！」

デバスター「何がフォースコンボイだ！貴様らを倒したら次はあいつだ！」

感心してそう言ったバシンコンボイにデバスターは殴りかかる。

それを避けた後にバシンコンボイはデバスターに指を突き付ける。

バシンコンボイ「そつちが合体ならこつちも合体で対抗するだけだ！来てくれ！ブレ

イブビースト!」

咆哮すると空中から白い機械のワシが飛んで来てその足に蒼いイルカが抱えられており、地上からは紅いライガーが駆け付け、地から黄色のモグラが飛び出す。

バシンコンボイ「行くぜ!ブレイブライガー!ブレイブホーク!ブレイブモール!ブレイブドルフィン!合体始め!」

咆哮すると4機の獣も咆哮する。

その後バシンコンボイが飛び上がると4体の獣も続いて飛び上がる。

バシンコンボイ「ブレイブビースト各機!ゴッドリンクにシステムを移行!」

空中でバシンコンボイを十字で囲む様にブレイブビースト4体が陣形を組むと途中でバシンコンボイは両腕を折りたたんで肩と一体化させ、足も同じように折り畳んで合体ジョイント部分を出現させる。

バシンコンボイ「ゴッドリンク、準備良し!」

その後白い機械のワシ、ブレイブホークが翼を分離、その体を変形させて腕の様にすると手の甲に当たる部分に分離した翼が合体し、バシンコンボイの右腕となって合体する。

バシンコンボイ「ブレイブホーク、OK!」

続いて蒼いイルカ、ブレイブドルフィンと黄色のモグラ、ブレイブモールが顔を除いて90度起き上がると足となり、バシンコンボイにそれぞれ右足と左足となつて合体する。

バシンコンボイ「ブレイブドルフィン、ブレイブモール、OK！」

最期にブレイブライガーはロボットに変形した後に両腕を分離させて飛ばし、両足を折りたたむとそこに分離していた両腕が合体し、カギツメとなつてから巨大な腕に変形し、バシンコンボイに合体して左腕となる。

バシンコンボイ「ブレイブライガー、OK！」

全てが合体し、合体した両腕から拳が作り出された後に作り出された拳をぶつけ合わせ…

バシンコンボイ↓ブレイブコンボイ「各部異常なし！ゴツドリंक！ブレイブ！コンボイ!!」

合体した事での新たな名前を咆哮する。

デバスター「なーにがブレイブコンボイだ！見掛け倒しがああああああ!!」

自らの前に着地したブレイブコンボイにそう言つてビームを乱射する。

ブレイブコンボイ「ギガロニアフォースチップ！イグニッション!!」

それに対してブレイブコンボイは咆哮するとその体から放たれた光が天空へと行き
上空に渦を巻き起こす。

その後に上空の渦の中から飛び出してきた紫色のフォースチップが右腕のブレイブ
ホークのチップスロットに装填されると装着されていた翼が展開されて剣、ブレイブ
レードとなる。

ブレイブコンボイ「ギガントウオール!」

そして守る様に剣の腹を前に付き出すと光の壁が展開されてビームを防いで行く。

デバスター「何!?!小癩な!!」

防がれたのに激昂して向かって来るデバスターにブレイブコンボイは左腕を構える。

ブレイブコンボイ「アースフォースチップ!イグニッション!!」

その咆哮と共に今度は青いフォースチップが左腕のブレイブライガーのチップス
ロットに装填されると装着されていたカギツメが展開される。

その後に青いオーラを纏うとブレイブコンボイもデバスターへと駆け出す。

デバスター「こなくそ!!」

殴りかかるデバスターの右ストレートをしゃがんで避けた後にブレイブコンボイは
左腕にオーラを収束させ:

ブレイブコンボイ「ブレイジング!アツパアアアアアアアアアアアアアアアア!!!」

がら空きとなったデバスターのどてつぱらに強烈なアツパー攻撃を炸裂させる。デバスター「ぐあああああああああ!?!やな感じiiiiiiiiiiiiii!?!」そのままデバスターは吹っ飛んで行き…

キラツ☆

輝く星になった。

キュアメイガス「くっつ！分が悪いわね…覚えてなさい！」

そう言い捨ててキュアメイガスは消え去る。

キュアコマンド「また逃げられたか…」

それにキュアコマンドは頭をポリポリ搔く。

☆

一夏「それじゃあるり力達との出会いに乾杯！」

一同「乾杯!!」

あれから時間が経ち、夕方、五反田食堂で歓迎会が行われた。

その席には弾や蘭の他、荒岩とジンライも交じっていた。

ジンライ「と言うか、俺達混ざっても良いのかい？」

鈴「良いの良いの!多い方が楽しめるでしょ!」

荒岩「ははは、混ぜてくれたからには大人として出せる範囲で奢ってあげよう。あんまり多めに頼まないでね」

簪「あ、ありがとうございます」

そう聞くジンライに箒の隣を陣取った鈴がそう言うので笑って言う荒岩に簪はお礼を言う。

ほむら「んじやあ早速頼むか、ありがとなおっちゃん」

虚「いや、もうちよい遠慮しましょうよ;」

荒岩「おっちゃんってまだ29歳だよ;」

弱ったなと頭を掻く荒岩に誰もが笑う。

楽しそうに笑うルリカに箒は楽しそうで良かったと安堵してジュースを飲む。

コンボイ『そうか:彼は見つかったんだね』

スピードブレイカー「ああ、今楽しくしてるぜ」

ゴッドマグナス「終わったらそっちに連れて行くからな」

外ではスピードブレイカーとゴッドマグナスがジンライについて報告していて、通信を終えた後は聞こえて来る談話を聞いて待ったりするのであった。

???

謎の空間、そこでは玉座に1人の少女が座っており、その前にキュアメイガスが跪いていた。

少女「まさかまた敵が現れる事になるとはね…」

キュアメイガス「申し訳ございませんミスドレス。まさか奴らにゴッドマスターがまた1人追加されるとは思いませんでした」

映像のフォースコンボイを見て言う少女にキュアメイガスは謝る。

少女「まあ、増えた所でこちらも増やせば良いだけの事。そっちはどうなの？」

キュアメイガス「はい、元男ども以外にもあの学園の有望な少女達で5人見つけ、内1人を除いて洗脳し、その1人は目的の為に我が陣営に加わりました」

それはご苦労と少女は満足そうに笑い、映像に映る者達を見る。

少女「愚かな者達よ。見ていなさい」

再びゴッドマスターとなったジンライが加わったサイバトロン。だがワールドデストラクターズも裏で着々と戦力を集めていた。

その戦力とは…

メインキャラ紹介（I S編前半）

篠ノ之箒

外見：原作と変わらないが胸のサイズがアップしてMになっている。

概要

この小説でのI S側の主人公

原作であった重要人物保護プログラムをサイバトロンのお蔭で受けておらず、家族とも離れ離れにならず、姉である束も失踪しなかったので原作より落ち着いていて面倒見の良い少女になっている。

ただ胸に関しての話には後述の鈴の積極的なものもあつて原作より敏感になっている。

初期から紅椿を姉の束から受け取っており、慣れる様に心がけている。

I組のクラス代表になっている。

篠ノ之束

外見：原作と変わらない

概要

箒の姉にしてI Sを作り上げた女性

最初は家族以外に無関心だったが織斑家との交流で原作のから改善されている。

來奈の弟子になっていて彼女を尊敬している。

I Sの発表もホントは來奈に言われ、宇宙でも活動できるのをちゃんと実証するなどを積み重ねてから発表しようとしたがミサイルハッキングによる日本ミサイル着弾未遂事件（白騎士事件）が発生した事で止む無く千冬にも協力してもらい白騎士を出撃させる。

現在はI S学園のI Sの整備長&製作長を務めている

織斑一夏

外見：千冬の目つきを優しくして髪を膝まで伸ばしている。

CV：藤村歩

概要

箒の幼馴染の少女

エアラザーが転生した存在で性格、口調は共にエアラザーと変わらない。

一人称は僕

本人は特に強さに拘っておらず、空を飛ぶ事が大好き

タイガトロン一筋LOVEでタイガトロンと良く寝ている。

スタイルは千冬に似た感じで髪も長くして纏めていない。

織斑千冬

外見：腹部以外は原作と変わらない。

概要

一夏の姉で白騎士の操縦者でもあった。

原作と違い、I S発表時と同時に全世界に白騎士の操縦者だと正体を明かしている。

その後は騒がれていたが原作の様に無敗を期していたが第2回大会のモンド・グロツソを優勝した際、誘拐に遭い、誘拐犯により子宮部分にI Sコアを数個入れられてI Sコアはそのまま千冬の子宮に赤子の様に定着して臨月の妊婦の様になっている。

入れられたI Sコアので時たま発作の様な症状が起きる様になり、それもあって選手を引退し、ドイツでの教導官を務めた後にI S学園の教師となる。

I Sコアの影響か握力とか力が上がっている。

織斑來奈

外見：髪の色を緑色に染め、胸もEはあつて目も開いた侵略イカ娘の相沢千鶴
概要

一夏と千冬の従姉の女性。

ちなみに父親の方ので両親がいなくなった後に一夏と千冬の面倒を見ている。

ライノックスが転生した存在で性格も変わりがない。

髪の色は最初千冬と変わらない黒髪だったが高校を卒業すると共に髪の色を緑に染めたとの事

機械の腕は落ちておらず、そのお蔭で世界一のメカニックに束の師匠と言う事で有名な人になっている。

コンボイとも再開した時は大喜びであった。

セシリア・オルコット

外見：原作と変わらない。

概要

イギリスの代表候補生

原作と違い、両親を失っていない事もあり、原作でのクラス代表戦の後の性格に初期からなっている。

今作でのクラス代表戦の時に乱入して来た無人機の攻撃から箒に庇われた際なので箒に無意識に好意を寄せている。

後述の鈴ので箒の胸に関して悶々としている。

鳳 鈴音

外見：原作と変わらない。

概要

中国の代表候補生でこの作品での超ぶっ壊れキャラ第1号

小学校の頃に箒や一夏と出会い、特に箒は少年達から守って貰った事で好きだったが小6の時のトラブルで箒の胸を掴んでその感触もあつて思いは爆発、箒LOVEで箒の胸を事あるごとに揉みまくる揉み魔ちゃんに変貌した。

ただ箒の胸が絡まなければ原作とほぼ変わりない。

胸に関しては気にしておらず、胸を強調する相手には鼻で笑い、箒の胸に関して叫ぶ。ちなみに両親は離婚しておらず、逆に甘々で砂糖製造機な熱々夫婦生活を過ごしているとの事

シャルロット・デュノア

外見：原作と変わらないが仕事時は束ねている髪を解いている。

概要

フランスの代表候補生でデュノア社の社長を務めている

中学生の時に父親から社長の席に座る様に言われ、驚いてる間に話しが進んで若社長になった。

ちなみにフェルノと社員達からは経営のは父親譲りの手腕の持ち主と評価されている。

ガルバ・デュノアとは異母姉妹だがお互いの母は仲良しで普通に姉妹仲も良好でガルバには親愛のを向けている。

異母姉であるガルバから前世の事を聞いており、ギガストーム達に会えたら良いなど望んでいた。

専用機が変わっており、ガルバの前世であるガルバトロンをモチーフにした『スピラルドラゴン』となっている。

スピラルドラゴン（螺旋の龍）

外見：ラファール・リヴァイヴ・カスタムiiのカラーリングをガルバトロン ドラゴンモードのに近いカラーリングに変更されている。

概要

今作でのシャルロットの専用機で第3世代型に当たるIS

タラ・スパイダーにお願いし、ガルバ・デユノアの前世であるガルバトロンのドラゴンモードを元にロボットモード時の武器とドリルモードのを武器に付け加えて開発されている。

ちなみになぜ名前がドリルドラゴンではないかと言うと開発者のタラ曰く、安着過ぎるのよりカッコいいしょ？との事

パワーは強いがスピードがラファールより遅くなっている。

ガンアックス：ガルバアックスを元にした銃と斧を合体させた銃斧、接近戦時は斧として、離れた際は銃としても活用できる。

ドラゴンガトリング：ガルバトリング砲を元にしたガトリング砲。手に持つ2丁拳銃となっていて、装備されている武装の中ではスペックでは一番の高威力を誇る。

ドラゴンフランム：ガルバトロンドラゴンモードのアンゴルモアファイヤーを元に開発されたガルバトロンドラゴンモードの顔を模した火炎放射器、火炎弾として発射できる。

シゾーラマン：シザーハンドを元にした鋏型の武器、右腕に装備されていて相手を捕まえて拘束する事も出来る。

スピラルスクアーマ（螺旋の鱗殻）・左腕のシールドの裏に装備されている69口径のドリル。ガルバトロンドリルモードのドリルをモチーフにしている。

ガルバ・デユノア

外見：シャルロット・デユノアの目つきをツリ目な感じにし、髪の色をピンク色にして膝まで伸ばしている。身長は190cm

概要

シャルロット・デユノアの異母姉妹の姉

前世はビーストウォーズIIのガルバトロンである。

性格と口調は変わっていないが酒癖のが悪化しており、少々でも酔っ払い絡みまぐる他大量に飲みまくる。

一人称はワシだが酔うと私に変わる。

ちなみに二日酔いはしないとの事

元フランス代表で少し武装を変えたラファール・リヴァイヴを使っており、現在も教師になっているが愛用している。

千冬や東より年上である。

ラウラ・ボーデヴィツヒ

外見：アニメ基準で原作と変わらない。

概要

ドイツの代表候補生で黒ウサギ隊の隊長を務めている。

産まれについては原作と変わらないが原作初期の力が全てな性格ではなく後述の母であるメガロに温かく育てられたお蔭で軟化した方になっている。

母であるメガロを溺愛している。

クロエ・ボーデヴィツヒ

外見：眼球の色が白くなった以外は原作と変わらない…と見せかけて胸はラウラより上でCはある。

概要

ドイツの代表候補生で黒ウサギ隊の隊長代理を務めている。

こちらも原作と変わらないがメガロに発見されて保護されたので姓はラウラと同じので姉となっている。

料理の腕は原作と変わらず上手くなく、それで良く罰ゲームな感じにされていた。

メガロ・ボーデヴィツヒ

外見：ラウラの身長を190cmにし、眼帯をしていない。胸は自称Mカップ
概要

ドイツの黒ウサギ隊とコンバットロンの大隊長を務めるラウラとクロエの母親
ビーストメガトロロンが転生した存在である。

自身が嫌っていた有機体の肉體、しかも女性になった時は愕然としていたがすぐさま切り替え、猛勉強して軍隊に入隊する。

その後に自身のDNAを使われて試験管ベイビーが作られていると聞いて怒った後にそれをしている基地へと突撃し、暴れまわった後に自信のDNAで誕生したクロエとラウラを発見して保護し自分の養子する。

そんな2人を育てている内にリリカルなのはINNOCENTでのプレシアばりに冷酷非道のがすっぽり抜け落ちて娘溺愛の立派な母親になっている。

コンボイと再会した時は誰だお前!?!とマジで言われた。

本編中では明かされない事

原作織斑一夏について

実はと言うとI Sビーストの世界にてとある転生者の願いで魂含めて存在事消滅している。

ならばなぜ女性として織斑一夏が存在しているかと言うと消滅してしまった事で世界崩壊が起こりそうになり、崩壊が起こらない様に世界が代役として別の世界の魂を織斑一夏として転生させて呼び寄せた。

それにより選ばれたのがエアラザーであり、千冬誘拐も実はその影響で起こりし事なのである。

メインキャラ紹介（IS編後半）

更識楯無

外見：原作と変わらない。

概要

IS学園生徒会長を務める少女

生徒の中では一番を自負しており、それを証明する様に自らを鍛えている。凜としているが時たま書類をほっぽりだそうとするのでガルバに見張られてやらされてる時がある。

最近ビッグコンボイが来たので彼に手合わせして貰っている。

更識簪

外見：原作と変わらないが右手中指にクリスタルの指輪を填めている。

概要

楯無の妹で4組の代表

専用機は原作のとは違うオリジナルのになっている。

幼き頃に誘拐されかけた所をスピードブレイカーとゴッドマグナスに助けられて2人を慕っている。

原作初期の雰囲気ではなく人付き合いも良いが最近は箒の胸にコンプレックスを抱いている。

神速

外見：足と肩と背中を除き、白く染められた全体に白い縁どられた青い炎をイメージした模様が入っていて腰は独立したウイングスカートを持ち、足のアーマーはスマーティにし、肩はスピードブレイカーの肩を模したアーマーを付けて背中にゴッドマグナスの背中のバックアップを模したウイングが装着されている打鉄式

概要

今作での簪の専用機。

倉持技研に「最後まで」見て貰い開発されており、外見や武装を簪から聞いたスピードブレイカーとゴッドマグナスを元になっている。

スピードを確認されているI Sの中でトップスピードを誇り、一部の者ではないと捉えきれない。

エグゾーストアロー：スピードブレイカーのエグゾーストボーガンを元にした弓型武器、放つ弓がミサイルとなっており、その中には誘導式のミサイルも混ざっている。

マグナビームガトリング：マグナバルカンとマグナレーザーを元にした銃火器、牽制用のガトリングモードと、収束して強力なビームを放つビームモードの2種類のモードを持つ。

五反田 弾

外見：原作と変わらないが右手首にマスターブレスを模したブレスレットを付けている。

概要

一夏と箒の幼馴染である少年

中学卒業から実家の五反田食堂で働いていてビシバシ扱われている。

ある一件からサイバトロングッドマスターの一人バシンとしてエマーゼンシーサレたら出動している。

トランステクターのバシンドラゴンとゴッドオンする事でバシンコンボイになる。

最近布仏虚とメールでのやり取りをしている。

バシンコンボイ

外見：トランスフォーマーギャラクシーフォースに出るフレイムコンボイのカラーリングや見た目をバトルスピリッツに出る太陽神龍ライジング・アポドラゴンにした感じで顔はコンボイフェイスになっている。

概要

弾がバシンドラゴンとゴッドオンした姿。

フレイムコンボイの様にパワーはないがフットワークの軽さで補う

フォースチップをイグニッションする事で両肩のパーツが分離してそれぞれ3つの爪の様なものになり、バシンコンボイの両腕に鉤爪の様に装着される。

ブレイブピースと呼ばれる4体のピーストランスフォーマーとゴッドリンクする事でブレイブコンボイになる。

ブレイブコンボイ

概要

バシンコンボイがブレイブライガー、ブレイブホーク、ブレイブモール、ブレイブドルフィン の4体と合体した姿。

左腕をブレイブライガー、右腕をブレイブホーク、ブレイブモールが左足、ブレイブ

ドルフィンが右足を形成しているが両腕同士と両足同士を左右入れ替えて合体する事も出来る。

他のトランスフォーマーと違い、地球、スピーディア、ギガロニア、アニマトロスの4つのフォースチップを場にに応じて使い分ける事が出来、イグニッションしたフォースチップで多種多様な技を発揮する。

五反田蘭

外見：原作と変わらない。

概要

五反田弾の妹で五反田食堂の看板娘

とある時に不審者に襲われた所を箒に助けられてから箒に一目惚れしている。

鈴とは箒を巡るライバル同士でもある。

サイバトロンの事情などは知っていて協力者になっている。

布仏本音

外見：原作と変わらない。

概要

I S学園の1年1組。

のんびり屋だが整備はちゃんと出来る。

色んな人を独自のニツクネームで呼んでいる。

実はと言うと箒にとある事で助けられて慕っている。

布仏虚

外見：原作と変わらない。

概要

I S学園の3年生で本音の姉で生徒会会計を務めている。

楯無に苦勞させられているがガルバがいるので負担は減っている。

五反田弾に最初に会った時に一目惚れしてメルアドを交換してメル友になっているが普通に会えたら良いなども考えている。

第18話・新たな転校生、驚異の獣帝合体！ギガベックス

前回から2日経ったIS学園

HRが始まると真那が全員を見渡して言う。

真那「皆さんにお知らせがあります〜なんとまた新しい新しい転校生が来ました〜」
告げられた事にクラス中がざわめく。

千冬「静かに！まだ日も経っていないのに来た事に驚くのは無理がない。我々にも連絡が来たのが前日だったので驚いている」

ざわめきを止めた後にそう前置きした千冬は入って来る様にと扉の前に待たせているのに声をかける。

入って来たのは茶髪のショートヘアのボーイッシュユキさを感じさせるが女の子らしくもある少女が入って来る。

千冬「では、自己紹介してくれ」

少女↓玲央「はい、星川玲央です。宜しくお願ひします」

お願いする千冬に少女は頷いてから自己紹介する。

シャルロット「(どこことなく僕と同じボーイッシュな感じがするな……………)」

箒「(星川玲央：ただ者じゃないな彼女は)」

セシリア「(ボーイッシュな感じがしますが女性らしさもちゃんとあるのですね)」

ラウラ「(此がクラリツサの言っていた男の娘か?)」

各々(ラウラは間違っている)がそれぞれ思う中で玲央は視線がルリカに向けられていた。

ルリカ「(?何で私を見るんだろう?)」

その視線にルリカが気づくと玲央はニコツと笑う。

その笑みにルリカはますます疑問を感じる。

☆

時間が経ち、放課後となって各々に帰ろうとした箒達だったが千冬に呼び止められていた。

さらには組と学年が違う簪や麗奈、鈴に楯無とクロエもいた。

千冬「さて、集まって貰ってすまん」

一夏「えつと千冬姉、どうして僕達を集めたの？」

ガルバ「それについてはお前たちに頼みたい事があるからだ」

シャルロット「頼みたい事？」

出て来た言葉に誰もが顔を見合わせる。

真那「最近、無人機やワールドデストラクターズと言う組織が出ています。もしも夜間に襲撃して来る様な事があったらいけないので学園長から専用機持ちのあなた達と職員は今日からパトロールをする様にとのお達しが来たのです」

ガルバ「文句があるだろうがこれもまた防衛する為でもある。何、さつき山田が言った様にワシらの他、サイバトロンも同行するからお前たちは主に他の者達への連絡、それを終えた後のサイバトロンの援護に努める様に」

説明する真那のを引き継いだガルバのに誰もがはい！と答えた後に組み合わせが決まり、それぞれが決められた場所へのパトロールに向かう。

そんなメンバーで山田と共に向かうラウラとクロエを玲央が見ていた。

玲央「何か嫌な予感がする、山田先生とラウラとクロエを追おう」

そう考えて玲央は3人の後を追う。

☆

メイガス「ふふ、丁度良いわね」

その様子を左目で確認していたメイガスは笑った後に後ろに控えていた5人の人物へと顔を向ける。

メイガス「それぞれ、貴方達と関連する子達の所で暴れなさい。特にあなたもそれがお望みでしょうか？」

そう指示を出してから5人の内の1人にそう問いかけると問いかけられた存在は肯定代わりに笑みを浮かばせる。

☆

ガルバと共に行く事になったシャルロットはギガストーム一行と共にISを纏ってパトロールに出ている。

ギガストーム「姉ちゃんと一緒に歩くつてのは久々だな」

ヘルスクリーム「サイバトロンに付いて来たのが良かったですねギガストーム様」

嬉しそうに言うギガストームにヘルスクリームはそう言う。

シャルロット「ギガストームはお姉ちゃんの前世の弟なんだよね？」

ギガストーム「おう、その通りだ」

ガルバと共に歩いていたシャルロットがそう質問し、ギガストームは意気揚々と答え

る。

シャルロット「それじゃあ私から見るとギガストームはお兄ちゃんになるんだ」

ギガストーム「お、お兄ちゃん？」

出て来た言葉にギガストームは目をパチクリさせた後にも、もう一回言ってくれと頼む。

シャルロット「ギガストームお兄ちゃん♪」

ギガストーム「……姉ちゃん。俺、こんなに胸に響くのが来たの初めてだ」

ガルバ「覚えておけギガストームよ。兄弟ができ、上の者としてそう呼ばれる事の喜びをな」

ジーンと感動しているギガストームにガルバは不敵に笑って言葉を贈る。

ダージガン「ギガストーム様、すっごい嬉しそうやな」

スラストール「そんだけシャルロット様のお兄ちゃん呼びが嬉しかったんやろうな」

上司の喜ぶ様子にダージガンとスラストールはうんうんと微笑ましそうに見るのに
気楽過ぎるわよ……とヘルスクリームは顔を抑える。

その時……

ガルバ「む、センサーに反応……上か！」

誰もがそれを聞いて見上げると5機の戦闘機が飛んで来る。

ダージガン「な、なんや!? 戦闘機が飛んで来たぜ!」

ガルバ「……こちらI S学園担当教師ガルバ・デユノア。貴官達の所属を教えて貰おうか」

驚くダージガンの隣でガルバは戦闘機に通信を試みる。

???『所属…所属はワールドデストラクターズだよ』

シャルロット「え!」

ガルバ「(む?…今の声…)」

通信のにシャルロットが驚く中でガルバは引つかかりを覚える。

???「シルバーボルト! トランスフォーム!!」

すると5機の戦闘機で先頭にいたSeries 101 F-BTSCのコンコルドがロボットに変形して着地する。

それと共に他の4機もトランスフォームして着地する。

ギガストーム「トランスフォーマーか!」

シルバーボルト「いやいや、私はゴッドマスター。この子達は補佐役だよ」

ヘルスクリーム「補佐役? それは一体…と言うかそれよりもシルバーボルトって!」

スラストール「なんやヘルスクリーム。なんで驚いとんねん?」

出て来た名前に反応するヘルスクリームにスラストールは聞く。

ヘルスクリーム「おバカ！シルバーボルトと言うのは初代コンボイが率いていたサイバトロンに存在したエアロボットのリーダーの名前よ！」

ギガストーム「エアロボットだど!?まさか！」

シルバーボルト「ふふふ〜スカイダイブ！ファイアーボルト！スリング！エアライダー！スクランブル合体行くよ〜〜」

叫ぶヘルスクリームのにギガストームは察するとシルバーボルトと4機のロボットは飛び上がる。

シルバーボルト「エアロボット部隊、スクランブルパワー全開〜トランスフォーマーシオン！」

シルバーボルトの咆哮が響き渡ると飛び上がっていたシルバーボルトを除いた4機がビークルモードとなってさらに飛び上がる。

その間にシルバーボルトは変形して胴体を形成する。

F116Aにトランスフォーマムしたスカイダイブは右脚に変形し、F115にトランスフォーマムしたエアライダーは左脚となってシルバーボルトと合体して両足になる。

BAEシーハリアーにトランスフォーマムしたスリングは左腕し、F14にトランスフォーマムしたファイアーボルトは右腕となってシルバーボルトに合体して両腕となる。

最期に新たな顔が現れた後に合体したシルバーボルトは両腕を振り上げ、ガッツポーズをとってから高らかに名を咆哮する。

シルバーボルト↓スペリオン「航空合体戦士!スペリオン!」

地響きを上げて着地するスペリオンにシャルロットたちは下がる。

ダージガン「こいつも合体戦士かいな!」

スペリオン「ふふふ恐れぬのならかかかってきなよ」

ギガストーム「ならば行くぞ!お前たち!姉ちゃんたちと共に遠距離から援護しろ!」

そう言うときギガストームは駆け出して行く。

突進をかまそうとするギガストームにスペリオンは飛び上がって回避する。

スペリオン「そんな単純なの当たらないよ」

ギガストーム「この!ならこれはどうだ!ストームキャノン!」

そう言うとき両肩のキャノン砲をスペリオンへと向けて放ち、それにヘルスクリーム達やガルバにシャルロットも援護射撃をする。

スペリオン「無駄無駄無駄」

飛んで来る銃撃の嵐をスペリオンは巨体に似合わないスピードで避けて行く。

ヘルスクリーム「は、速い!？」

スラストール「あの巨体で早過ぎにも程があるで！」

スペリオン「あはは、当たらないよ〜」

驚く一同へとスペリオンは今度はこっちの番と腕に直に取り付けられたライフルで攻撃を仕掛ける。

ギガストームはストームキャノンで相殺するがその隙に接近されて顎を蹴られる。

シャルロット「ギガストームお兄ちゃん！」

ガルバ「下がれシャルロット」

他の職員に連絡を取っていた叫ぶシャルロットにガルバは掴んで後ろに下がるとギガストームが倒れる。

ギガストーム「だ、大丈夫か姉ちゃん、シャルロット」

シャルロット「大丈夫だよ」

そりやあ良かったとギガストームは起き上がる。

スペリオン「これで決めちゃうよ！」

そんなギガストームへと向けてスペリオンはそう言う。

スペリオン「フォースチップ！イグニッション！」

咆哮するとその体から放たれた光が天空へと行き上空に渦を巻き起こす。

その後上空の渦の中から飛び出して来たあちこちにヒビが入っている青い地球を掴む黒い悪魔の手の様なエンブレムが描かれた漆黒のフォースチップが舞い降りてスペリオンの背中の子ツプスロットに飛び込み、全身がフォースチップの力の輝きに包まれる。

その後フォースチップの力を手に持ったライフルに収束させる。

スペリオン「スペリオルスパーク!!」

トリガーを引く事で放たれたビームにギガストームはやばいと感じてシャルロットとガルバを守る様に背を向ける。

ギガストーム「ぐあああああああああああああ!?!」

シャルロット「ギガストームお兄ちゃん!」

ビームの直撃を受けて倒れ込むギガストームにシャルロットは近寄る。

ガルバ「奴に攻撃をさせるな!」

マックスビー「マックスラジャー!」

スペリオンにこれ以上攻撃させない様にガルバはヘルスクリーム達と共に攻撃を仕掛ける。

その間にギガストームは呻きながらシャルロットを見る。

ギガストーム「大丈夫かシャルロット？」

シャルロット「うん。大丈夫だけどあなたが」

心配いらねえよと返しながらギガストームは起き上がる。

ギガストーム「こんなので倒れてたら姉ちゃんの様な破壊大帝になれねえ！だから俺様は強くなる！姉ちゃんの様に義理とはいえ妹を守る為に！」

強くスペリオンを睨みながらギガストームは咆哮する。

その時、ギガストームの中に残っていたアングルモアエネルギーが反応し、増大する。増大するエネルギーにギガストームの体が輝き出す。

ギガストーム「な、なんだ？」

ガルバ「これは!？」

誰もが驚く中でギガストームはさらに輝き、さらに輝くギガストームの体から4つの光線が放たれてヘルスクリーム、マックスビー、ダージガン、スラストールに命中し、4人も体が輝き出す。

スラストール「な、なんやこれ!？」

ヘルスクリーム「か、体から力が！」

ダージガン「み、漲って来る!？」

マックスビー「!？」

それに驚く間に5人は全身が見えなくなり、スペリオンはやばいと感じたのか攻撃を仕掛けるが跳ね返る。

そして光が収まるとギガストームは顔のサイズが少し小さくなり、両肩が合わせると錨の様な感じの形状に変化し、身体や尻尾もスマートになった。

一方のヘルスクリーム達は大きくなり、大幅に姿が変貌していた。

ヘルスクリームはその体は鯨からメタリックでメカニカルな青いプテラノドンに：

マックスビーはメタリックでメカニカルな紫色のダイアウルフに：

ダージガンは蜂からメタリックでメカニカルな水色のトロサウルスに：

スラストールは見た目はヴェロキラプトルで変わりないが頭の角が前に細長く伸び、他の三人同様にメタリックでメカニカルになり、色も黄緑色になっていた。

ガルバ「おお：」

シャルロット「皆：凄くカッコ良くなってる！」

それにガルバは感嘆の声漏れ、シャルロットは目を輝かせる。

ギガストーム「こ、これは：」

ダージガン「す、スラストール、おま、メタリックになつとるぜ!」

スラストール「そういうダージガンかって、蜂から恐竜になつとるぜ!」

ヘルスクリーム「私はプテラノドン：ああ、飛べる奴になれるのは嬉しい：」

マックスビー「ラジャー」

それぞれが驚く中でスペリオンの攻撃に慌てて避ける。

ヘルスクリーム「食らいなさい！」

飛び上がったヘルスクリームは口から電撃を放射し、避けられず命中したスペリオンは胸から火花を散らす。

スペリオン「くう〜！」

ダージガン「ヘルスクリームだけにはやらせへんで！ピークルモード！」

それにダージガンは足を変形させてキャタピラにすると角から電撃を放ち、それにマックスビーも尻尾のレーザーガンで追撃する。

スラストール「おお：皆凄くなってるな！わてもやってやるぜ！」

そう言うときスラストールも尻尾の先で砲撃してから口から吹雪を放射する。

スペリオン「いた、つめたっ！」

ギガストーム「お前たち：凄すぎるぞ！」

ガルバ「何をやっているギガストーム！お前もぼさつとせずにゆけい！」

4人の活躍にギガストームは感嘆する中でガルバがそう言う。

ギガストーム「分かったよ姉ちゃん！ん？……：そうか……成程な……お前たち！今からお

前たちに新たな名は授ける。そして俺様に力を貸せ！」

ダージガン「あ、新たな名!？」

ヘルスクリーム「どう言う名を？」

スラストール「と言うか力を貸させて？」

誰もが告げられた事に驚く中でギガストームは目を輝かせる。

ギガストーム「ギガストーム!ボルトスクリーム!ダッシュビークー!ダージブラスト!
スラストー!獣帝合体!」

咆哮するとギガストームは両腕を収納すると両肩が胸の前に展開して錨の様なアーマーとなると尻尾が外れ、足は収納して膝だけの状態にして合体ジョイントを展開する。

マックスビークー改めダッシュビークーは体を伏せる様にして屈むと共に後ろ脚を収納、前足を前に伸ばし、尻尾を回転させて背中にくつつける。

スラストール改めスラストーはダッシュビークーの様に身体を伏せて尻尾を回転させてダッシュビークーと同じ様に背中にくつつける。

その後ダッシュビークーとスラストーは顔をそのままに体を180度起こすとジョイントを展開したギガストームが2人の後ろ部分と合体してダッシュビークーとスラストーはギガストームの両足になる。

ダージガン改めダージブラストはビークルモードの状態で顔と尻尾を分離させた後に体は展開して、巨大な両腕となるとギガストームに挟み込む様に合体してギガストームの新たな両腕となる。

最後にヘルスクリーム改めボルトスクリームはギガストームの背中に合体する。

全員が合体し終えた後にギガストームは口を展開、下顎が完全に開いた後にシャツターが展開されて顔が現れる。

その後に自身の尻尾とダージブラストの尻尾が合体してなった槍を右手で握り締め、左手にダージブラストの顔を盾として持つて名乗りあげる。

ギガストーム↓ギガベックス「破壊獣帝！ギガベックス！」

シャルロット「ギガ…ベックス…」

ガルバ「あやつ等、新たな力を得たか」

スペリオン「ふふん、合体したからって追いつけるかな」

そう言つて飛んで行くスペリオンにギガベックスは追いついてやるさ！と言つて…

ギガベックス「ボルトスクリーム！」

ボルトスクリーム「はっ！承知しましたわ！」

ボルトスクリーム「フォースチップ!イグニツション!」

咆哮するとその体から放たれた光が天空へと行き上空に渦を巻き起こす。

その後上空の渦の中から飛び出して来たデストロンエンブレムが描かれた紫のフォースチップが舞い降りてギガベックスと合体しているボルトスクリームの口のチップスロットに飛び込む。

ボルトスクリーム「ジェットブースト!」

エネルギーが放出されると共にギガベックスは勢いよく飛び上がり、瞬く間にスペリオンに追いつく。

ギガベックス「おりゃあ!」

スペリオン「うわ!」

そのまま左手に持った槍を叩き込んで地面へと突き落とす。

スペリオン「くうう…フォースチップ!イグニツション!」

咆哮するとその体から放たれた光が天空へと行き上空に渦を巻き起こす。

その後上空の渦の中から飛び出して来たあちこちにヒビが入っている青い地球を掴む黒い悪魔の手の様なエンブレムが描かれた漆黒のフォースチップが舞い降りてスペリオンの背中チップスロットに飛び込み、全身がフォースチップの力の輝きに包まれる。

その後にはフォースチップの力を手に持ったライフルに収束させる。

ダージブラスト「どうするんでっかギガベックス様!?」

ギガベックス「ふん、そんなの決まってるだろ!こつちも決めるんだ!行くぞお前等!」

それに叫ぶダージブラストにギガベックスは叫ぶ。

ギガベックス&ダージブラスト&スラスサー&ボルトスクリーム&ダツシユビー
「フォースチップ!イグニツション!」

ビーストデストロンが咆哮するとその体から放たれた光が天空へと行き上空に渦を巻き起こす。

その後には上空の渦の中から飛び出して来たデストロンエンブレムが描かれた紫のフォースチップが舞い降りて、ギガベックスの持つ槍の持ち手部分の外側のチップスロットに飛び込んだ後に槍の先端へとエネルギーが収束して巨大なエネルギー刃となる。

スペリオン「スペリオルスパーク!」

放たれたビームにギガベックスはエネルギー刃を纏った槍を構え:

ギガベックス「アンゴルモアブレイク!!」

付き出すと共にビームを貫いてスペリオンへと向かって行く。

スペリオン「わわわ!合体解除く!」

それにスペリオンは合体を解除して避けた後に離れる。

シルバーボルト「流石にこれはきついので帰りまゝす!さいなら」

そう言つてエアロボットはビークルモードとなると飛び去つて行く。

ギガベックス「待ちやがれ!」

ガルバ「待てギガベックス。どうせ奴らはまた来るであろう」

それに追いかけてしようとしたギガベックスをガルバが制止する。

ギガベックス「姉ちゃんがそう言うなら…」

ガルバ「物分かりが良くなつて成長している事を嬉しく思う。それでシャル、状況は

どうだ?」

その後に連絡をしていたシャルロットへと確認する。

シャルロット「お姉ちゃんの思つていた通りだった…:他の場所でもワールドデスト

ラクターズのゴッドマスターが暴れてるよ」

襲来したワールドデストラクターズのゴッドマスター。

さらに他の場所でも現れた。

この事態にサイバトロンたちは…

新生ギガストーム軍団の設定

新生ギガストーム

外見：尻尾のドリルを普通な感じに変化させて付け根部分にチップスロットを装着し、首近くの両肩にキャノン砲を付けて胸部のプレストラーをオミットしてギガストームのカラーリングにしたドラゴンシーザー

概要

ギガストームが残っていたアングルモアエネルギーで変化した姿。

ギガストーム自身は身体がスマートになり、結構気に入っている。

フォースチップをイグニッションする事でアングルモアバーンが強化された火炎弾、アングルモアバーストを放てる。

ボルトスクリーム

外見：充電池を入れる所に普通のプテラノドンに変えて、金色の所を青く塗り、青い所を赤くしたプテラゴードン

概要

ヘルスクリームがギガストームより発されたアングルモアエネルギーで変化した姿。チツプスロットが口の中にある。

また後述の3人と違い、ロボットモードになれる。

口から電撃を放つことが出来る。

ダツシユビー

外見：見た目をダイアウルフに変えて黄色の所を紫に塗り替えた守護獣サーベルタイガー

概要

マックスビーがアングルモアエネルギーで変化した姿

地上を駆け出し、尻尾のレーザーガンで攻撃する。

ラジャーと言うのは変わらない。

ダージブラスト

外見：見た目をトロサウルスに変えて、黒色の所を水色に塗り替えた守護獣ジユウマンモス

概要

ダージガンがアングルモアエネルギーで変化した姿。

飛べなくなった代わりにボルトスクリームの様に角から電撃を放てる。

また外見元と違い、足を畳んでからキヤタピラの様に変形させるビークルモードを持つ。

スラスサー

外見：頭の角が長くなり、ヴェロキラプトルで変わりが完全にはメタリックになっている。

概要

スラストールがアングルモアエネルギーで変化した姿。

他の3人と違い、劇的な変化はないが尻尾の先が砲台になり、口から吹雪を放つことが出来る様になる。

ギガベックス

概要

ギガストームとボルトスクリーム、ダッシュビー、ダージブラスト、スラスサーが獣

帝合体する事で誕生する合体戦士

合体プロセスはギガストームは両腕を収納すると両肩が胸の前に展開して錨の様なアーマーとなつてから尻尾が外れ、足は収納して膝だけの状態にして合体ジョイントを展開する。

ダツシユビーは体を伏せる様にして屈むと共に後ろ脚を収納、前足を前に伸ばし、尻尾を回転させて背中にくつつける。

スラスサーはダツシユビーの様に身体を伏せて尻尾を回転させてダツシユビーと同じ様に背中にくつつける。

その後にダツシユビーとスラスサーは顔をそのままに体を180度起こすとジョイントを展開したギガストームが2人の後ろ部分と合体してダツシユビーとスラスサーはそれぞれ右足と左足でギガストームの両足になる。

ダージブラストはビークルモードの状態で顔と尻尾を分離させた後に体は展開して、巨大な両腕となるとギガストームに挟み込む様に合体してギガストームの新たな両腕となる。

最後にヘルスクリーム改めボルトスクリームはギガストームの背中に合体する。

全員が合体し終えた後にギガストームは口を展開、下顎が完全に開いた後にシャッターが展開されて顔が現れる。

その後、ギガストームの尻尾とダージブラストの尻尾が合体してなった槍を右手で握り締め、左手にダージブラストの顔を盾として持つ。

ボルトスクリームにフォースチップをイグニッションする事で急速加速する『ジェツトブースト』

ギガストームの尻尾とダージブラストの尻尾が合体してなった槍『テンペストランサー』にイグニッションする事で巨大なエネルギー刃を形成して相手に向けて突き出す『アングルモアブレイク』

裏話

当初、ダージブラストとスラスサーの合体位置はお互いにダージブラストが左足でスラスサーが両腕になる筈でした。

ただ、作者のおつむな頭では元々の体系のままでのスラスサーの良い変形が浮かばず、急遽ダージブラストを両腕に、スラスサーを左足に変更しました。

だからダージブラストの外見がトリケラトプスに似たトロサウルスなのはその名残でもあります；

第19話：悪の救命戦士襲来!迎え撃て!正義の激走闘士、ビクトリーブラザー!

鈴「はあく箒とは別の班って言うのが残念だわ…」

セシリア「もう…鈴さんは箒さんいないとやる気ないですわね」

ISを纏いながら職員を待っている中でぶーたれる鈴にセシリアは苦笑する。

鈴「そう言うセシリアだって、残念そうにしてたじゃない」

セシリア「い、いえいえ、わ、私はそ、そんな…」

そんなセシリアに対してそう茶化す鈴にセシリアは顔を赤くしてどもる。

???「おーい、君達が俺と回る専用機持ちの子達だな?」

ニヒヒと笑いながらおちよくろうとしていた鈴は声のした方を見る。

さっぱりとした緑髪のショートカットに緑色のシャツの上にジャケットを羽織り、ジーンズを履いた女性が歩いていった。

セシリア「あら、確か……清掃員の野音 乗さんじょうではないですか?」

セシリア「そ、そうですね!乗さんは人間ですよね!」

乗「確かに今の俺は人間だな…まあ、ちよいと事情があつてな」

詰め寄る2人を宥めながら乗はどうしてなのかを語り出す。

☆

数年前のとある研究所

そこではスピードブレイカー、ワイルドライド、マツハアラートはリーダーである
ファイヤーコンボイと探索していた。

スピードブレイカー「おいおい、全然人がいねえな…此処も外れじゃないのファイ
ヤーコンボイ?」

ワイルドライド「ここには倉田正影はもういなさそうだな」

ファイヤーコンボイ「確かにもぬけの殻かもしれないが、何か情報がないか調べるん
だ」

コンピューターを調べながらぼやいていた2人はファイヤーコンボイの指示にラ
ジャーと答えると…

マツハアラート「皆、来てくれ!」

ファイヤーコンボイ「何か見つけたのか！」

別の部屋を調べていたマツハアラートの声に3人は急いで向かう。部屋に入るとマツハアラートが3つのカプセルの前に立っていた。

ファイヤーコンボイ「何を見つけたんだマツハアラート？」

マツハアラート「これを見てください」

そうやってカプセルを指すマツハアラートにファイヤコンボイ達は見る。

カプセルの中には女性が1人ずつ入っていた。

ワイルドライド「女性だな」

マツハアラート「どうやら眠らされているみたいなんだ」

スピードブレイカー「可哀想に、早めに出してやった方が良いな」

そうやってスピードブレイカーがカプセルにさらに近づいた時だった。

トランスフォーマー感知、キャプターカンファインシステム、起動します――

スピードブレイカー「な、なんだ!？」

突如流れたアナウンスにスピードブレイカーが驚いている間にカプセルが輝き…

ファイヤーコンボイ「スピードブレイカー!」

刹那、ファイヤーコンボイがスピードブレイカーの肩を引っ張って後ろに強引に引き下げる。

スピードブレイカー「でえ!?!」

それによりスピードブレイカーは尻もちを付く形で後ろに下がらせられる。

スピードブレイカー「いつてえ…!?!」

直後、顔を上げたスピードブレイカーの目にはカプセルからの光を浴びたワイルドライド、マツハアラート、そしてスピードブレイカーの代わりとなったファイヤーコンボイが映った。

ワイルドライド&マツハアラート「うわあああああああああああああ!?!」

スピードブレイカー「兄貴!ファイヤーコンボイ!?!」

ファイヤーコンボイ「来るなスピードブレイカー!!」

光りはドンドン強くなり、駆け寄ろうとしたスピードブレイカーを制したファイヤーコンボイやマツハアラート、ワイルドライドの姿が見えなくなる。

強い光りにスピードブレイカーは腕で目を庇う。

そして光りが収まったのを確認してスピードブレイカーは腕を退かすとビークルモードとなった3人が目に入る。

スピードブレイカー「皆!」

慌てて駆け寄ったスピードブレイカーは真つ先にワイルドライドに近寄る。

スピードブレイカー「ワイルドライドの兄貴！返事をしてくれ！マツハアラートの兄貴も！ファイヤーコンボイ！」

必死に揺らすスピードブレイカーだったが3人から返事が返つて来ないので最悪の予想が頭を過ぎった時：

ブシュー…

スピードブレイカー「！」

するとカプセルが開き、スピードブレイカーは警戒する。

??? 「いつつ…何が起きたんだ？」

呻きながら3つのカプセルの中で左のカプセルの中にいた女性が出て来る。

ただ、先ほど見た時は白色だった髪が緑色に染まつていた。

女性「あれ、なんでスピードブレイカーが大きく…ん？」

驚いているスピードブレイカーを見てから喉を抑えた後に下を見る。

そして目に映った自身の豊満な胸に思わず見てから…

もにゅ…

驚掴んで感触を確かめた後に…

女性「な、なんじゃこりやあああああああああ!?」

絶叫する。

その声に他のカプセルに眠っていた2人も目覚めた様で頭を抑えながら出て来て自分ののに驚く。

女性2 「これは一体!？」

女性3 「さっきのキャプターカンファインシステムと言う奴のせいか?…キャプターは捕獲、カンファインは閉じ込めると言う意味なら人の身に我々トランスフォーマーの魂を閉じ込める感じか?」

戸惑う3人にスピードブレイカーも戸惑うのであった。

☆

乗 「…と、そんな訳で人の姿となった俺達はどうせならと各々に人間社会に入った訳だ」

鈴 「はあく…：そうなのね」

セシリア 「にわかには信じられませんが…：事実なのですよね?」

締め括る乗に鈴とセシリアはお互いに顔を見合わせながら呟く。

乗 「ホント俺達も戸惑ったもんだ。女の姿になってしかも今までにない感じだから」

特にこことかな…と自身の胸を指して乗は肩を竦める。

セシリア「あー…私もある方ですが…」

鈴「私、体験した事無いのと箒以外興味ないから」

困った顔をするセシリアの隣で鈴は肩を竦めて言う。

スピードブレイカー「そう言えば兄貴は大丈夫なのか？」

乗「心配ご無用。ちゃんと打鉄を持って来てるって」

ゴツドマグナス「まあ、無茶はするなよ」

胸を叩いて言う乗にゴツドマグナスは注意した後にパトロールを開始する。

乗「そう言えば、警…マツハラライトはどうしたんだ？」

しばらくして思い出して聞く乗にスピードブレイカーはあーとなる。

スピードブレイカー「マツハラライトの兄貴は知り合いの刑事さんの手伝いをしてる

よ。ほら、特命係って所の」

乗「ああ、あの人等か、成程な」

ふむふむと乗が納得する中でセシリアと鈴はどう言う所だろうと首を傾げる。

ゴツドマグナス「しかし、ある悪い存在探しが何時の間にかそれ以外のも出来てるな」

スピードブレイカー「確かにそうだな。まあ、平和を守るのが俺達の役目だし、変わ

らないさ」

鈴「悪い存在?」

セシリア「それは…あら?」

ぼやく様に呟くゴッドマグナスに言ったスピードブレイカーのに鈴とセシリアが気になった時だった。

前方から消防車、UH-1をベースとした救助ヘリコプター、ハイエースをベースとした救急車、パトカー、白バイが走って来る。

鈴「何あれ!」

ゴッドマグナス「人が乗ってねえって事は…」

スピードブレイカー「トランスフォーマーか!」

???「いいえ違いますわ!ホットスポット!トランスフォーム!!!」

驚く鈴の後に言った2人の言葉を否定すると消防車がトランスフォームし、その後に他の機体も人型になる。

鈴「さっきの言い方からして!あんたはゴッドマスターなの!?!」

否定の仕方からそう問う鈴のに消防車だったロボットは肯定する。

ホットスポット「その通り、私はホットスポット、ワールドデストラクターズが所属、プロテクトボットのリーダーを務めております。彼らはヘリコプターがグレイズ、救急車がファーストエイド、パトカーがストリートワイズ、白バイがグループですわ」

乗「お前が話に聞いていたワールドデストラクターズか！」
名乗りあげるホットスポットに乗は身構える。

鈴「まさか早々に来るとわね！」

セシリア「(はて? 何やらどこかで聞いた様な声の気がしますが…)」

ホットスポット「貴方達は今後の障害になりそうだからここで排除させて貰いますわ
！」

同じ様に身構える鈴の隣でセシリアは首を傾げる中でホットスポットはそう宣言した後…プロセスに入る。

ホットスポット「プロテクトボット! 合体トランスフォーム!」

その咆哮と共にプロテクトボットは飛び上がった後にビークルモードとなった後に陣形を取る。

中央に来たホットスポットは変形して胴体を形成する。

左右に来たグレイズは操縦席のある先端が展開して機体の左右にスライドするとそこに手が出現、ファーストエイドも変形した後に車体後部に手が出現してからホットスポットに合体、グレイズは右腕、ファーストエイドは左腕になる。

ストリートワイズは車体前部を後ろに倒れると合体ジョイントを形成し、グループも

同じ様にして合体ジョイントを形成するとホットスポットに合体、ストリートワイズは左脚、グループは右脚になる。

最期に顔が出現し、ホットスポットはその姿での名を名乗りあげる。

ホットスポット↓ガーディアン「ゴッドリンク!ガーディアン!!」

着地したガーディアンは両腕に二丁の銃を持つとその銃口を5人へと向けてトリガーを引くと火炎弾が放たれる。

乗「散開!」

すぐさま乗の指示にそれぞれ散らばって避けた後に乗はアサルトライフルで攻撃を仕掛け、続けてセシリアはブルーティアーズを展開して攻撃し、鈴も龍砲で攻撃を仕掛ける。

向かって来る銃撃やレーザー、衝撃弾に対してガーディアンは防御の構えもしないで受ける。

起きた煙が治まった後にはダメージを受けた様子を見せていないガーディアンの姿が現れる。

鈴「全然ダメージを受けてないわね」

セシリア「攻撃が効かないとなんとも言えない気分ですわ」

ゴッドマグナス「だったらこれだ！マグナバルカン！マグナレーザー！」
それに鈴とセシリアが呻く中、ゴッドマグナスが同時攻撃を放つ。

ガーディアン「フォースフィールド！」

同時攻撃に対してガーディアンは両手を付き出すと自身を包み込むエネルギーの膜を作り上げて防ぐ。

ゴッドマグナス「バリアだと!？」

ガーディアン「次はこっちの番ですわ！」

驚くゴッドマグナスへとガーディアンは2丁の銃を向ける。

ガーディアン「フォースチップ！イグニッション！」

咆哮するとその体から放たれた光が天空へと行き上空に渦を巻き起こす。

その後上空の渦の中から飛び出して来たあちこちにヒビが入っている青い地球を掴む黒い悪魔の手の様なエンブレムが描かれた漆黒のフォースチップが舞い降りてガーディアンの背中チップスロットに飛び込み、全身がフォースチップの力の輝きに包まれる。

その後ガーディアンの両腕の2丁の銃に収束される。

ガーディアン「苦しみなさい！ヴォルケイノシユート！」

その言葉と共に先ほどよりも強い火炎弾がゴッドマグナスへと放たれる。

避けきれずにゴツドマグナスは炎に包まれる。

ゴツドマグナス「ぐああああああああああ!?」

スピードブレイカー「マグちゃん!」

鈴「ゴツドマグナス!!」

炎に包まれて倒れるゴツドマグナスにスピードブレイカー達は近寄ろうとする。

ガーディアン「させませんわよ!」

火を消そうとするスピードブレイカー達にガーディアンは牽制する。

セシリア「これでは近づけませんわ!」

鈴「邪魔しないでよ!」

ガーディアン「邪魔をするのが悪役ですわ」

呻くセシリアの後に叫ぶ鈴へとガーディアンはそう返した後に火炎弾を放つ。

乗「くそお…どうすれば…俺もいつも通りで普通に戦えば…」

プオ~~~~~ン!!

それに乗が歯がゆい思いをした時、サイレンが聞こえて来る。

ガーディアンもなんですかの?と聞こえてくる方を見る。

そこにはパトカーを先頭に、その後ろを消防車、救急車、ブルドーザーが並走して走って来る。

乗「あれはマツハアライト！後ろに付いて来てるのはなんだ？」

ガーディアン「なんだか知りませんが：邪魔ですわ！」

そう言つてガーディアンは4機へと火炎弾を放つ。

4機は火炎弾による爆発が起こる中を駆け抜ける。

その中でドーザーが飛び出して行き：

???'「あくらよつと!!!」

ガーディアンの足の下にバケットを差し込むと共に勢いよく振り上げる。

そこに消防車の放水ノズルから放出された水が炸裂する。

ガーディアン「ぶぐふ!？」

そのまま地面に落下するガーディアンを通り過ぎて消防車はゴッドマグナスを覆う炎を消火する。

ゴッドマグナス「た、助かった：」

鈴「良かった」

呻きながら起き上がるゴッドマグナスに鈴とセシリアはホツとする中でパトカーから警が出て来る。

警「兄上、大丈夫ですか!？」

乗「ああ、助かったぜ！つてかこいつ等はなんだ？」

声をかける警に乗はそう言うってから並ぶ消防車たちを見る。それに警が答えようとする前にガーディアンが起き上がる。

ガーディアン「やってくれましたわね…許しませんわ」

警「それはこちらのセリフだ!皆行くぞ!」

「おう!」

「了解!」

「よっしゃ!」

怒気を放つガーディアンに警はそう返してから3機にそう言い、消防車、救急車、ブルドーザーから順に返す。

「ワイルドファイヤー!トランスフォーム!!」

まず消防車の後部分が中央で割れて少し伸びて足となり、車体前方を胸になる感じで回転する様に変形し、車体横から腕が飛び出した後に顔が出てポーズを取る。

「マツハレスキュー!トランスフォーム!!」

次に救急車の車体が伸びてから後部が中央で割れて足となり、車体横から腕が飛び出した後に顔が出てポーズを取る。

「スピードドーザー!トランスフォーム!!」

最後にブルドーザーの車体が伸びてから後部が中央で割れて足となり、車体横から腕

が飛び出した後に顔が出てポーズを取る。

鈴「な、何あの3人？」

セシリア「彼らもサイバトロンの一員ですか？」

スピードブレイカー「い、いや、俺達も初めて見る奴らだよ」

ゴツドマグナス「おい、マツハアラート、そいつ等はなんだ？」

構える3人に目をパチクリさせる鈴の後にセシリアが確認するがスピードブレイカーは首を横に振った後にゴツドマグナスが彼らを連れて来た警へと問う。

警「じ、実は彼らはトランステクターから誕生したトランスフォーマーなんだ」

ゴツドマグナス「何!？」

乗「つまりこいつ等はあの結晶体が中にある状態で起動した奴か!？」

答えられた事にゴツドマグナスと乗が驚いている間にガーディアンは火炎弾を放つ。

ワイルドファイヤー「なんの!リキッドガン!!」

それにワイルドファイヤーは足に付いていた放水ノズルを銃の様にしてから水を放出して火炎弾を消す。

ガーディアン「なっ!？」

マツハレスキュー「ランプビーム!」

驚くガーディアンへとマツハレスキューが胸のランプからビームを放ち、ビームは

ガーディアンに顔に炸裂する。

ガーディアン「があ!？」

スピードドローザー「ドローザーキック!!」

怯んだ所に、元になったブルドローザーからは想像出来ない速さで素早く近づいたスピードドローザーがジャンプすると共に蹴りをガーディアンの胸に叩き込む。

叩き込まれた蹴りの勢いと顔を抑えていたのもあつてガーディアンは仰向けに倒れる。

セシリア「す、凄い」

鈴「と言うかあのスピードドローザーの足はや…」

スピードブレイカー「確かにすげえぜ」

その実力に3人は声を漏らす。

乗「やるなあいつ等!俺も負けてられないぜ!」

それに乗が叫んだ後に乗の思いを感じ取ってか乗の元々の体でもあり現トランステクターとなった初代ホンダ・C R Vが無尽で走って来る。

スピードブレイカー「兄貴無茶だ!ゴッドオンしても!」

乗「それでも熱い物を見せて貰ったからには俺もやってやるぜ!ゴッドオン!!」

慌てて止める様に言うスピードブレイカーにそう返して乗り込むと共に叫ぶと光に

包まれ：

乗↓ワイルドライド「ワイルドライド！トランスフォーム！」

本来の姿になるが電撃が迸る。

ワイルドライド「くう！」

ワイルドファイヤー「お、おいあんた無茶するな」

マツハレスキュー「その通りです。ここは私達が…」

膝を付くワイルドライドにワイルドファイヤーとマツハレスキューが支えて言う。

ワイルドライド「へへっ、お前等の熱い奴を見せて貰ってにおいて自分だけ見てるだけは無理なんでな」

ガーディアン「そんな調子で私に勝とうなど舐め過ぎですわ！」

そう言つてガーディアンはワイルドライドに銃口を向け…その顔に銃弾を受ける。

ガーディアン「ぐう！」

後ずさつたガーディアンは放たれた方を見ると右腕を突き出したマツハアライトの姿があつた。

どうやら彼もゴッドオンしていたようだ。

マツハアライト「全く、兄上も兄上だが、それに続く俺も俺だな」

スピードブレイカー「マツハアライトの兄貴も頑張るんなら俺だって！スピードブレ

イカーパワーアツプ!!」

言いながら膝を付くマツハアライトを見てスピードブレイカーはそう叫ぶと体が赤く染まる。

スピードブレイカー「エクセルボーガン!!」

そのまま連続射撃をガーディアンに浴びせ続ける。

ゴッドマグナス「ぐう：俺も!」

それにゴッドマグナスも続こうと起き上がった時：彼の胸が輝きを発する。

ゴッドマグナス「こ、これは：うおおおおお!!」

見覚えのある輝きにゴッドマグナスは驚いた後に胸の輝きは天へと迸り：雲を突き破ってからすぐさま軌道を変え、集まっていたスピードブレイカーを除くワイルドライド、マツハアライト、ワイルドファイヤー、マツハレスキュー、スピードドーザーの5人を包み込む。

鈴「うええ!?!」

セシリア「な、何が起こっておりますの!?!」

いきなりの出来事に誰もが驚く中で光りが収まる。

光りから現れた5人の中でワイルドライドとマツハアライトの姿が大幅に変わっていた。

ワイルドファイヤーたちは特に変化はないが胸にサイバトロニックマークが刻まれている。
た。

ワイルドライド「こ、これは!？」

マツハアラート「俺達の姿が変わった…それに、さっきまでの激しい痛みが消えた！」

ワイルドファイヤー「おお、俺達の胸に！」

マツハレスキュー「マツハアラートさん達のエンブレムが！」

スピードドローザー「おお、カッコ良かったから入れて見たかったんだ俺♪」

ガーディアン「姿が変わったからって、こけおどしですわ！」

驚く4人と喜ぶスピードドローザーへとガーディアンは攻撃を仕掛け、5人は飛び上がって避ける。

それと共に5人は無意識のうちに動き出す。

ワイルドライドは顔を出したまま腕と足をビークルモードに戻し、戻した腕と足が真ん中で割れて胸部の両サイドに移動してから肩となった後に左右の肩に銃が装着され、マツハアラートは上半身をビークルモードに戻してから前に折れ曲がって足の先端に合体ジョイントを展開、ワイルドファイヤーとスピードドローザーがそれぞれ両腕と顔を収納して屈む感じに変形して足を形成、マツハレスキューはビークルモードに変形して

から中央から左右に分離して後部に手を展開して前方車輪の下部分に合体ジョイントを展開して両腕となる。

最後にワイルドファイヤーとスピードドーザーの上にマツハアライトが合体して下半身となるとその直後にマツハアライトの上にワイルドライドが合体、最後にワイルドライドの胸部サイドに腕となったマツハレスキューが合体し、ワイルドライドの窓部分が展開してそこからヘッドアーマーが現れてワイルドライドの顔に覆いかぶさる様に装着されると目が輝く。

「「「兄弟合体!ビクトリーブラザー!!」」」

地面に降り立った合体した5人、ビクトリーブラザーはガーディアンに構える。

ゴッドマグナス「合体:しやがった:!!」

鈴「ビクトリーブラザー:」

スピードブレイカー「ちよつとお!俺入ってないんだけど!兄弟合体なのにハブられてるんですけど!」

セシリア「ど、ドンマイですわ;」

その姿にゴッドマグナスと鈴は驚きの声を漏らす隣でスピードブレイカーはビクトリーブラザーを指して絶叫し、セシリアが慰める

ガーディアン「合体したからと言って！」

それに対してガーディアンは再び火炎弾を放つ。

ビクトリーブラザー「リキッドガン&オマケ!!」

向かって来るのに対してビクトリーブラザーはワイルドファイヤーが使っていた銃を手に取り、肩の銃と同時に水を放って消火して続けざまにエネルギー弾を放つ。

ガーディアン「ぐう!？」

スピードドローザー『そう言うのは大抵!』

ワイルドファイヤー『負けフラグだぜ!』

マツハアラート『今だ兄上!』

マツハレスキュー『決め所です!』

ビクトリーブラザー「おうよ!」

エネルギー弾を受けてたじろくガーディアンに向けてビクトリーブラザーは一気に決めると力を籠める。

ビクトリーブラザー「フォースチップ!イグニッション!!」

ビクトリーブラザーの咆哮が響き、その声に答えるかのようにサイバトロンのマークが刻まれたフォースチップが飛来し、ビクトリーブラザーの背中に存在するチップスロットへと勢いよく飛び込んでいく。

開放されたエネルギーは手に握られたリキッドガンと肩の銃へと収束していき…

ビクトリーブラザー『ブラザーツイスター!!』

強烈なエネルギー弾が連続で放たれる。

ガーディアン「あああああああああ!!!」

必殺の一撃にガーディアン合体が解除されて吹き飛んで行く。

鈴「やった!!」

スピードブレイカー「やったぜ兄貴たち!」

ビクトリーブラザー「おうよ!」

それに鈴は喜び、スピードブレイカーのにビクトリーブラザーはサムズアップで返

す。

☆

乗「しっかし驚きだぜ…まさか新人3人と俺とお前が合体するとはな」

警「確かに、驚きだな…それに新しい姿になった事で激しい痛みが消えた」

合体を解除してからんと背伸びして言う乗のに警も新しくなった自身の体であるトランステクターやワイルドファイヤー達を見る。

スピードブレイカー「んで、兄貴よ。こいつ等どつから拾って来たの」

スピードドローザ「ちよちよちよ、人を猫や犬みたいに言わないでくんない！」

合体に含まれなかったからか拗ねた感じで聞くスピードブレイカーにスピードドローザが突っかかり、まあまあとマツハレスキューが宥める。

警「いや実は：俺の知り合いの子供達がトランステクターを偶然起動させちゃって誕生しちゃったらしく、それで数時間前まで使われてなかった工場に匿ってたんだ。名前も子供たちが俺達に近い感じだったから付けたんだそうだ」

乗「成程な：：なら好都合だ！」

ワイルドファイヤー「好都合ってなんでだ？」

困った感じに理由を述べる警に乗は納得してからの言葉に誰もが首を傾げる中で乗は言う。

乗「お前等！さっきの熱い言葉と合体で俺はビビッと来たんだ。お前等を俺達、カーロボ三兄弟改めカーロボ兄弟ブラザーズの新たな弟達として迎え入れたい！ファイヤー！お前が四男！レスキュー！お前が五男！そしてドローザ！お前は六男で末っ子だ！そして新しい姿になったから俺はワイルドブラウン！警のはマツハプロールと名を改める！」

スピードブレイカー「おお！弟か！良いねそれ!!」

警「あ、兄上：：勝手に決めないでくれないか：：いやまあいい名前だからまだ良いが：」

ワイルドファイヤー「俺も賛成だぜブラウン兄貴!」

マツハレスキュー「い、いち早く乗りましたね…確かに私が2番目に誕生した感じですが…」

スピードドローザー「俺が末っ子か…まっ、良いか」

告げられた事に先程の拗ねたのはどっか行つてご機嫌に言うスピードブレイカーに続いてワイルドファイヤー達も乗り気で言う。

ゴツドマグナス「おい、どうやら歓迎会は後らしいぜ」

鈴「他の人の所にも出たみたい!」

セシリア「しかも複数ですわ!」

そんな6人へと3人がそう言う。

新たな力を得た乗と警に加わった3人のトランスフォーマー達だが、ワールドデストラクターズの攻撃はまだ続く。

新生カーロボ兄弟の設定

野音 乗（やおと じょう）

外見：髪の色を緑色に染め、緑色のシャツの上にジャケットを羽織り、ジーンズを履いた『逮捕しちやうぞの辻本夏実』。胸はH

概要

ワイルドライドがキャプターカンファインシステムと言う謎の装置により人間の女性の姿に変貌させられた姿。

IS学園の清掃員兼臨時の際の警備員を務めている。

人間の姿になった時は戸惑ったが自由に高い所に登れると楽観的に受け止めている。この姿にされた事でゴッドマスターに近い存在になったが本来の姿になると激痛が迸り、マトモに戦えない状態であったが後述のワイルドブラウンにパワーアップした事で克服する。

ワイルドブラウン

外見：初代ホンダ・CR-Vを胸の番号に当たる部分にサイバトロンマークが入った激走戦隊カーレンジャーのVRVファイターにした感じで顔はワイルドライド、カラーリングはワイルドライドと同じ、背中の後ろにチップスロットがある。

概要

ワイルドライドがゴッドマグナスのマトリクスの光りを受けた事で得た新たな姿。

名前の由来はワイルドライドの海外での名前にワイルドを付け加えただけ

強さはSワイルドライドと変わらない。

武器として二丁拳銃のブラウンガンを持つ。

ビクトリーブラザーの頭と胸を形成、ブラウンガンは左右の肩に装着される。

野音 警（やおと けい）

外見：見た目は髪の色を白く染めて髪を腰まで伸ばしてポニーテールに纏めたアイドルマスターシンデレラガールズの片桐早苗、胸はI

概要

マッハアラートがキャプターカンファインシステムと言う謎の装置により人間の女性の変貌させられた姿。

刑事として就職しており、特命係のお手伝いを良くしてたりする。

例え人間の姿になろうと自身の職務は変わらないとさらに熱意を燃やしている。

乗と同じ様にゴッドマスターに近い存在になったが本来の姿になると激痛が迸り、マトモに戦えない状態であったが後述のマツハプロールにパワーアップした事で克服する。

マツハプロール

外見：激走戦隊カーレンジャーのポリスファイターの顔をマツハアラートのに変更、体のカラーリングもSマツハアラートのに変わり、胸のマークをサイバトロンマークに変えている。

概要

マツハアラートがゴッドマグナスのマトリクスの光りを受けた事で得た新たな姿。

名前の由来はマツハアラートの海外での名前にマツハを付け加えただけ

強さはSマツハアラートと変わらない。

武器としてマツハアラートの時に使っていたジェットミサイルに胸から放つ光線、サイレンビームを持つ。

ビクトリーブラザーの腹と大腿部を形成。

ワイルドファイヤー

外見：激走戦隊カーレンジャーのファイヤーファイターの変形機構を前方部分を除いてダンプファイターの変更に、車体前方を胸に行く様に回転する様に変更し、胸の番号がサイバトロンマークになっている。

概要

トランステクターから誕生した消防車型トランスフォーマー

一緒に誕生したマツハレスキューとスピードドローザーと共に警に発見され、乗に気に入られてカーロボ3兄弟の弟となり、新生カーロボ兄弟ブラザーズの四男になる。

ワイルドライドの様な砕けた口調で喋り、上の兄達を兄貴と呼ぶ。

武器としてビークルモード時に車体後ろ上部の左右に装備されている放水ノズル、リキッドガンを持つ。

ビクトリーブラザーの右足を形成、リキッドガンはそのままビクトリーブラザーの武器になる。

マツハレスキュー

外見：激走戦隊カーレンジャーのレスキューファイターの胸の番号をサイバトロンマークに変え、ピンク色の所を白く染めている。

概要

トランステクターから誕生した救急車型トランスフォーマー

一緒に誕生したワイルドファイヤーとスピードドローザーと共に警に発見され、乗に気に入られてカーロボ3兄弟の弟となり、新生カーロボ兄弟^{ブラザーズ}の五男になる。

敬語で喋り、上の兄達をそれぞれの下の名前を付けて兄さんと呼ぶ。(ワイルドブラウンならブラウン兄さん、マツハプロールならプロール兄さん、スピードブレイカーならブレイカー兄さんと言う感じで)

冷静に判断し、人命を優先する。

武器として胸のランプから放つランプビームを持つ。

ビクトリーブラザーの両腕を形成

スピードドローザー

外見：激走戦隊カレンジャーのドローザーファイターの胸の番号をサイバトロンマークに変え、車体両横とバケットの外側サイドに炎をイメージした模様が施されている。

概要

トランステクターから誕生したブルドローザー型トランスフォーマー

一緒に誕生したワイルドファイヤーとマツハレスキューと共に警に発見され、乗に気

に入られてカーロボ3兄弟の弟となり、新生カーロボ兄弟ブラザーズの六男になる。

スピードブレイカーと似た口調で話し、上の兄たちを兄ちゃんと呼ぶ。

ブルドーザーだがそのスピードは速く、ロボットモードでも素早く動ける。

武器はビークルモード時は車体の後ろ上部に装備されている二本一組のバケットでロボットモード時はサイバトロンガンを使う。

ビクトリーブラザーの左足を形成。

ビクトリーブラザー

概要

ワイルドブラウン、マツハプロール、ワイルドファイヤー、マツハレスキュー、スピードドーザーが兄弟合体をする事で誕生する激走闘士

合体プロセスはワイルドブラウンが顔を出したまま腕と足をビークルモードに戻して胸部の両サイドに移動してから肩となった後に左右にブラウンガンが装着され、マツハプロールは上半身をビークルモードに戻してから前に折れ曲がつて足の先端に合体ジョイントを展開、ワイルドファイヤーとスピードドーザーがそれぞれ両腕と顔を収納して屈む感じに変形して足を形成、マツハレスキューはビークルモードに変形してから中央から左右に分離して後部に手を展開して前方車輪の下部分に合体ジョイントを展

開して両腕となる。

最後にワイルドファイヤーとスピードドーザーの上にマッハプロールが合体、その直後にその上にワイルドブラウンが合体、ワイルドブラウンの胸部サイドに腕となったマッハレスキューが合体し、ワイルドブラウンのの窓部分が展開してそこからヘッドアーマーが現れてワイルドブラウンの顔に覆いかぶさる様に装着されて合体完了となる。

スピードとパワーを兼ね備えており、格闘戦以外に胸部のワイルドガンとワイルドファイヤーのリキッドガンを駆使して戦う。

背中のチップスロットにフォースチップをイグニッションする事でリキッドガンとブラウンガンから強烈なエネルギー弾を連発する『ブラザーツイスター』を発動できる。

番外編

番外編：クリスマスとセシリアの誕生日

セシリア「はあ…」

寮にてセシリアは頬杖をついていた。

12月24日の今日、実はクリスマスと同時にセシリアの誕生日でもある。

それなのにセシリアが憂鬱な感じになっているのは皆にまだ伝えてないからだ。

伝えようと思ったのだが、度々起こるイマージュ・オリジスの襲撃などもあった他、当日に至ってはワールドデストラクターズも交じった各国襲撃の言いそびれてしまったのだ。

無事に終わったは良いが、言いそびれた事でセシリアはため息を吐く。

シャルロット「あ、セシリアここにいたの」

クーリエ「み、見つけました」

そんなセシリアへとシャルロットとクーリエが来る。

セシリア「あら？お2人ともどうしたのですか？」

シャルロット「まあまあ、行くよ」

クーリエ「い、行きましょ」

目をパチパチさせるセシリアに2人は腕を掴んで引つ張る。

戸惑うセシリアはそのまま第1アリーナへと連れて行かれて行き…

パンパン!!

「セシリア！お誕生日おめでどう!!!」

セシリア「え？」

鳴り響くクラツッカーとそこにいたサイバトロンとクラスメイト+αの祝福の言葉に

セシリアは目を開ける。

驚いているセシリアにししと鈴が近寄る。

鈴「聞いたわよセシリア、あんた今日が誕生日だそうじゃない。水臭いわね」

セシリア「え、だ、誰に聞いたのですの？」

タイガトロン「拙者でござるよ。お主の性格的に前日に伝えるかもしれないと思って

いたから拙者が変わりに伝えておいたでござる」

戸惑うセシリアにタイガトロンが前に出て答える。

一夏「ホントおめでどうセシリア」

マドカ「おめでとう」

セシリア「あ、ありがとうございます。そ、そう言えば箒さんは？」

本音「モツピーならスタンバってるからね」

弾「と言う訳で箒！出番だぜ！」

声をかける一夏とマドカにセシリアは聞くと本音がそう言い、弾が呼ぶ。

おずおずと出て来た箒のにまあとセシリアは顔を赤くする。

箒「せ、セシリア、誕生日お、おめでとう／＼／＼」

恥かしそうに言った箒はサンタをイメージした白いエプロンにクリスマスツリーに付けられる飾りが模様の様に縫われた赤いワンピースドレスを身に纏っているのだが、その胸の中央部分がハートマークにくり抜かれて肌が見えている。

陽菜「頑張りました♪」

玲央「大胆に作ったね」

葵「あれは大胆過ぎると思います；」

むふんと胸を張る陽菜に玲央はそう言う中で葵は頬をポリポリ搔く。

恥かしそうだが箒はセシリアに近づいて後ろに回していた手を前に出す。

箒「こ、これはお前への誕生日プレゼントだ」

セシリア「わ、私の？」

受け取ってセシリアは中身を見ると前に自分が箒と話してる際に欲しいと言った髪飾りが入っていた。

箒「そ、その…偶然見つけてな…どうせならと買ったのだ」

セシリア「箒さん…ありがとうございますわ!!」

そう言つて抱き着くセシリアに箒は倒れない様に踏ん張る。

セシリア「(あ、箒さんの良い匂い…)」

ロラン「さて、そろそろ始めようじゃないかセシリアの誕生日メインのクリスマスパーティーをね」

ブレイク「だな!」

ジンライ「そんじゃあ皆!飲み物は持ったな？」

抱き着いてはうとなるセシリアを見てからそう言うロランのにブレイクは賛成し、ジンライが号令をかける。

箒「ほ、ほら…セシリア」

セシリア「あ、はい」

名残惜しそうだが乱音から渡されたのを持ちながらセシリアは箒と並ぶ。

ジンライ「んじゃあ行くぞ!せーの!」

「「「「メリークリスマス!!」」」」

その言葉と共にそれぞれ賑わう中でセシリアも誕生日プレゼントを貰って楽しいひと時を送った。